

ヲ發生ス

前額竇ノ疾患

### 第二章 前額竇ノ疾患 Die Krankheiten der Stirnhöhle.

急慢性前額性炎

#### 急性前額竇炎 Sinusitis frontalis acuta

**原因** 多クハ急性鼻炎ニシテ其他ノ原因ハ上顎竇急性炎ニ同シ(齒牙ニ基因スルモノナキハ言フ俟タズ)

**症候** 第一主徴ハ前額痛ニシテ多クハ之レト同時ニ急性鼻感冒ヲ併有ス而シテ其治癒ト共ニ竇加答兒モ亦消散スルヲ常トス該疼痛ハ或ハ眉毛部ニ於ケル持続性壓感トナリ或ハ眼窩深部ニ於ケル間歇性鑽開様又ハ斷裂性劇痛トシテ或ハ時ニ上眼窩神經痛發作トシテ現ハル

**診斷** 自發性前額痛、敲打若クハ指壓時ノ疼痛、既往症及ビ急性鼻加答兒ノ他覺的症狀ニ據リ概ネ困難ナラズ

**豫後** 佳良

**療法** 特殊療法ヲ要セズシテ治癒スルコト多シ古加乙涅アドレナリン

慢性化膿性前額竇炎又名「シニチス」

液等ノ塗布ニ依リ粘膜ノ減腫ヲ圖リ且ツ發汗法ヲ行ヘバ足レリ

#### 慢性化膿性前額竇炎 一名前額竇

#### 慢性瀝膿症 Sinusitis frontalis chronica

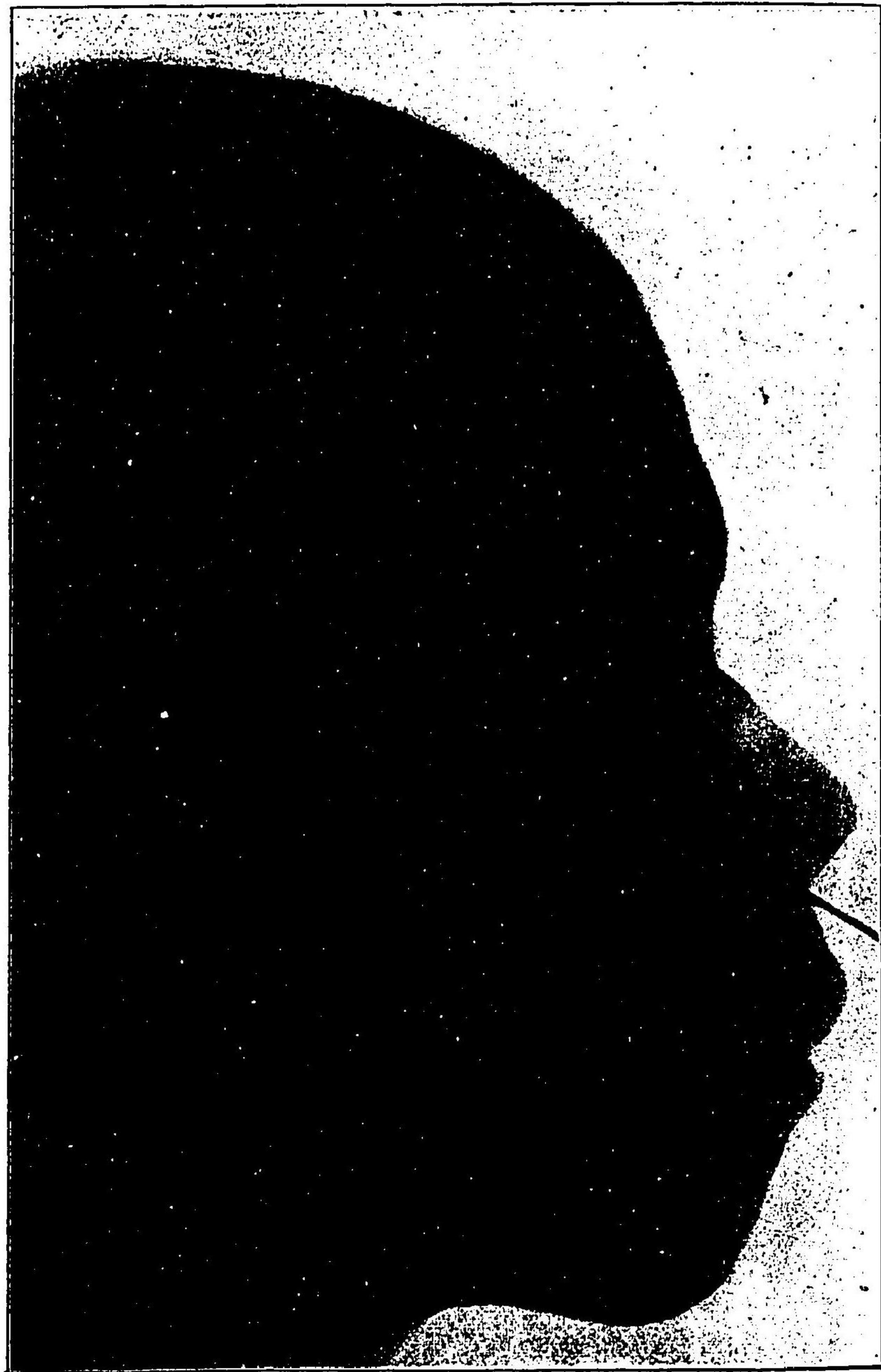
*purulenta s. Empyema sinus frontalis.*

**原因及病理解剖** ハ上顎竇「エンピエーム」ニ殆ンド同シ

**症候** 自覺的症狀ハ時トシテ全ク缺如シ又ハ極メテ僅微ナルコトアルモ通常前額竇部ニ疼痛アリ多クハ間歇性ニシテ恰モ上眼窩神經痛ニ類似スルコトアリ或ハ持續的ニシテ鈍痛ニ過ギザルアリ常ニ咳嗽、噴嚏、頭首ノ前屈、身神勞働、飲酒及ビ喫煙等ニ依リテ増劇ス其他眩暈、思考力、記憶力、減退、勞働、厭、不眠、精神、痴鈍等ヲ來ス

他覺的症候トシテ必要ナルハ間歇性又ハ持續性惡臭、膿漏ニシテ中鼻道ノ前部ニ現出ス中、甲、介、前、端、多クハ肥厚シ該部ニ鼻茸ヲ發生スルヲ稀ナラズ時トシテ上眼窩緣部ニ發赤及ビ腫起ヲ來シ敲打又ハ壓迫ニ依リ疼





(岡田博士ノ教室ニ於テ實驗)

痛ヲ訴フ

粘膜ノ腫脹又ハ鼻茸形成等ニ因リ排泄管ノ閉塞アルトキハ症狀顯著ニシテ管ニ前額痛、上眼窩神經痛、眼内痛覺等ヲ有スルノミナラズ前額竇壁ノ擴大ニ據リ、腦症狀ヲ併發シ又時トシテ竇壁ノ破潰ヲ來スコトアリ最モ恐ルベキハ腦壁ノ穿孔ニシテ化膿性腦膜炎ヲ續發ス前壁穿孔ハ最モ危險少シ多クハ内眥部及ビ上眼瞼ニ現ハレ往々波動性膿瘍ヲ生ズ眼窩壁穿孔アル者ハ眼球轉位、前下方ニ壓セラレ眼筋官能障礙、外斜視、複視、視神經壓迫症及ビ黑内障等ヲ發ス

**診斷** 膿汁流出ノ部位、眉弓内端部ノ自發痛及ビ壓痛等ニ注意スベシヘ

**豫後** 概シテ良ナリ然レドモ排泄管全閉鎖ノ場合ニハ危險症ヲ惹起ス

**療法** 排膿困難ナルトキハ中甲介蓋ノ截除術ヲ行フヲ可トス其障礙鼻

茸ニ因スルモノハ之ヲ除去スベキコト勿論ナリ

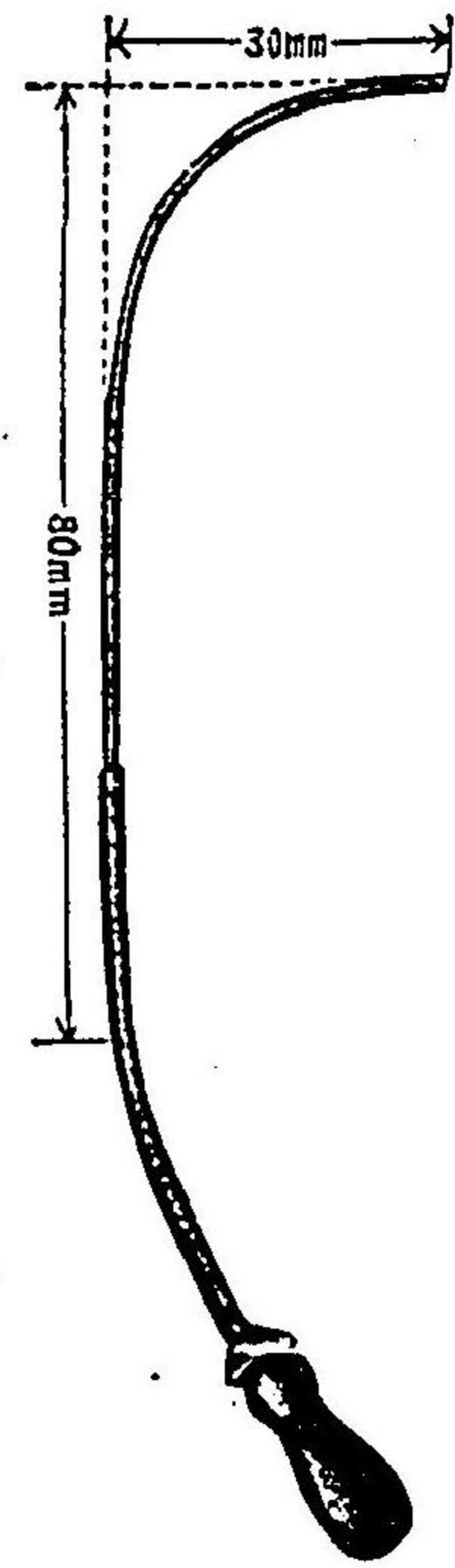
**竇腔洗滌法** 第一百十四圖ニ示スガ如キ洗滌管ヲ挿入シ微温生理的食



キリヤン氏根  
治手術法

第百四十四圖

前額竇洗滌管



鹽水或ハ二%  
硼酸液ヲ以テ  
洗滌ス頑固ナ  
ル者ニ向テハ  
二乃至五%硝

酸銀若クハ「プロタルゴール」液ヲ注入スベシ即チ其半立方仙迷ヲ竇内ニ  
注加シ頭首ヲ後屈或ハ前屈セシムルヲ可トス手術的療法ハ左ノ如シ  
(一) 眉毛弓ニ沿ヒ鼻根ニ達スル皮膚切開ヲ行ヒ骨膜ヲ剝離シ前額竇前  
壁ヲ鑿除シテ膿汁ヲ去リ粘膜炎ニ排泄管部ノ肉芽ヲ搔爬シ鼻腔トノ交  
通ヲ利シ鼻腔ヨリ抽出シ得ル如ク殺菌綿紗ヲ以テ竇内ヲ栓塞シタル後  
皮創ヲ縫合スベシ

(二) キリヤン氏根治手術法 手術準備トシテ鼻腔ヲ栓塞シ全身  
麻醉ノ下ニ第百十五圖ニ示スガ如ク眉毛弓ヨリ鼻骨下端部ニ亘ル切開ヲ  
加ヘ骨膜ニ上下二個ノ截開ヲ行フ即チ一ハ上眼窩縁ヲ距ル約六乃至八



圖 五 十 百 第

(ア)開切膚皮ルケ於ニ術手治根氏ンヤリキ



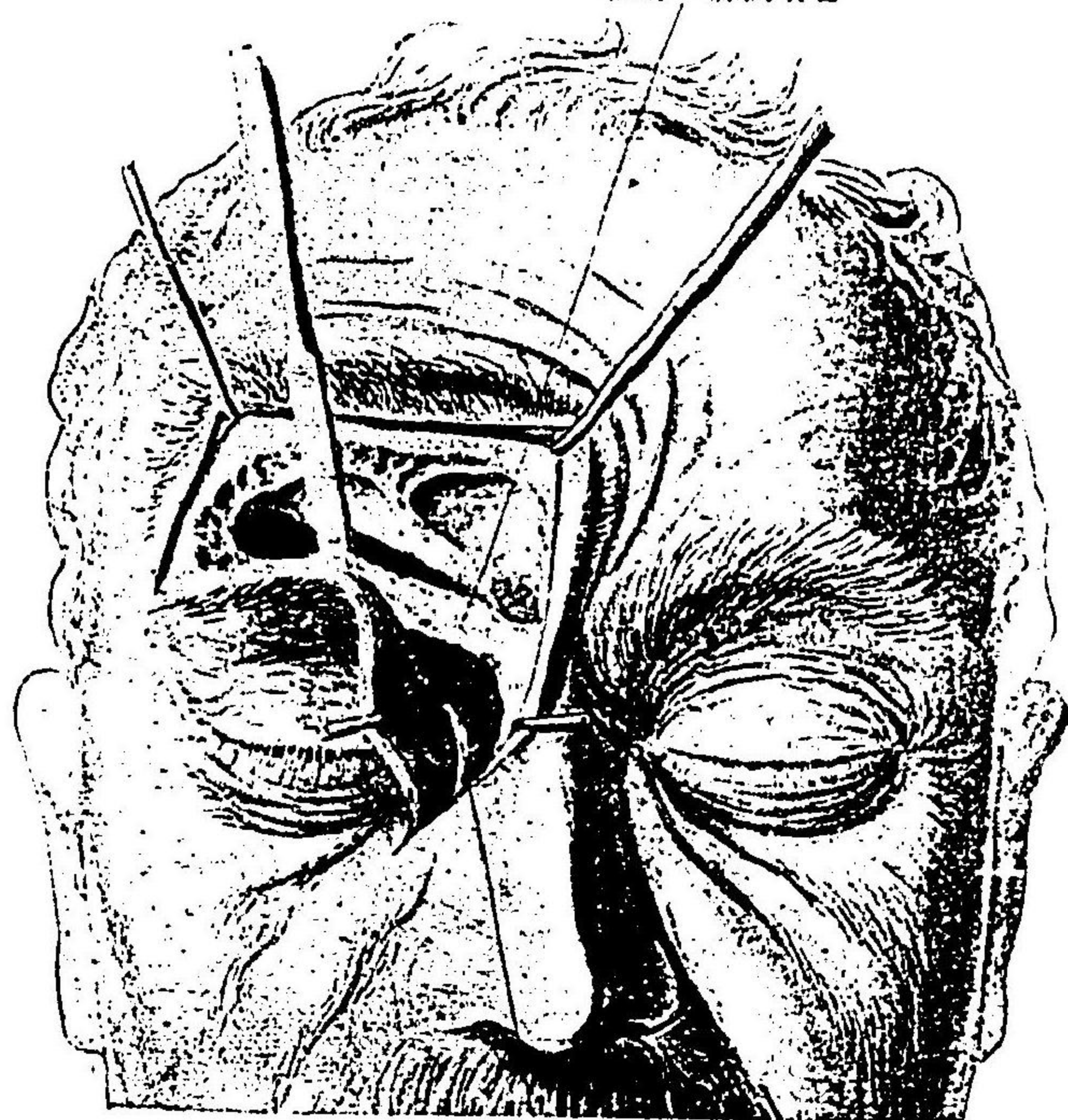
三六八

密迷ニシテ其  
内方ハ鼻骨上  
端ニ達ス一ハ  
上顎前額突起  
上ニ於テ皮創  
ニ一致セシム骨  
膜ヲ剝離シタ  
ル後廣ク前壁  
ヲ鑿開シ竇内  
ノ不良組織ヲ  
搖爬シ更ニ竇  
底ヲ鑿除又ハ  
鉗除シ且ツ屢  
合併罹病セル

圖 六 十 百 第

術手治根氏ンヤリキ

橋骨ノ縁高眼上



部一ノ骨涙ルセ存殘

篩骨蜂巢  
ヲ穿開ス  
ベシ而シ  
テ上眼窩  
縁部ハ骨  
橋トシテ  
遺殘セシ  
ムルヲ可  
トス次デ  
全部若ク  
ハ大部ノ  
皮創縫合  
ヲ行ヒ創

腔ニハ栓塞綿紗若クハ排膿管ヲ裝シ術ヲ了ル

三六九



蝴蝶竇ノ疾患

### 第三章 蝴蝶竇ノ疾患 Die Krankheiten der Keilbeinhöhle.

蝴蝶竇粘膜ノ炎症中臨床ニ診斷シ得ベキハ獨リ化膿性炎アルノミ

慢性化膿性蝴蝶竇炎一名「エンビエーム」

慢性化膿性蝴蝶竇炎一名「エンビエーム」

*Sinusitis sphenoidalis purulenta chronica s. Empyema sinus sphenoidalis.*

**原因** 他ノ副鼻腔疾患ニ於ケルガ如シ

**症候** 頭痛ヲモトス而シテ後頭部及ビ眼内深部ニ訴フルコト多シ其他眩暈、作業力及ビ思考力減退、咽腔ノ乾燥感、味覺減退等アリ

鼻腔ヲ窺フニ慢性鼻加答兒ノ症狀ヲ呈スルノ外、前鼻鏡檢法ニ依リ時トシテ嗅破裂部ニ少量ノ膿液ヲ認メ、後鼻鏡檢法ニ依レバ上鼻道ヨリ鼻中隔後端ニ向ヒ惡臭性膿液ノ流下スルヲ見ル

肉芽剝生等ノ爲メ排膿障礙セラレ、トキハ竇ノ側壁ヲ穿孔シ、眼窩内ニ排膿スレバ眼筋麻痺、眼球突出及ビ視力障礙ヲ來シ又時トシテ腦腔ニ破壊スレバ化膿性腦膜炎ヲ續發シ致死スルコトアリ

本病ハ屢々鼻咽腔及ビ口咽頭瘦削性炎ヲ合併ス咽頭ノ乾燥感實ニ之ニ基因ス

**診斷** 敢テ容易ナラズ後部篩骨蜂窠エンビエームトノ鑑別屢々困難ナリ

**豫後** 治癒シ難ク加之竇壁ノ破壊アルモノハ生命ニ危險アリ

**療法** 中甲介ノ殆ンド全部ヲ鉗除シ排泄口ヨリ洗滌法ヲ行ヒ又病的粘膜ノ搔爬ヲ行フベシ

### 第四章 篩骨蜂窠ノ疾患 Die Krankheiten der Siebbeinzellen.

主要ナルハ化膿性篩骨蜂窠炎或ハ篩骨蜂窠「エンビエーム」

*Empyema cellularum ethmoidalium* ナリ

**原因** 他ノ副鼻腔エンビエームニ於ケルト殆ンド同一ナリ

**症候及經過** 急性エンビエームノ症狀ハ著シカラズ然レドモ多少頻ハシキ頭痛アリ多クハ鼻根部ノ鈍痛或ハ鑽開様疼痛ヲ訴フ他覺的檢査上鼻腔殊ニ中甲介及ビ其附近ノ加答兒症狀アリ

篩骨蜂窠ノ疾患

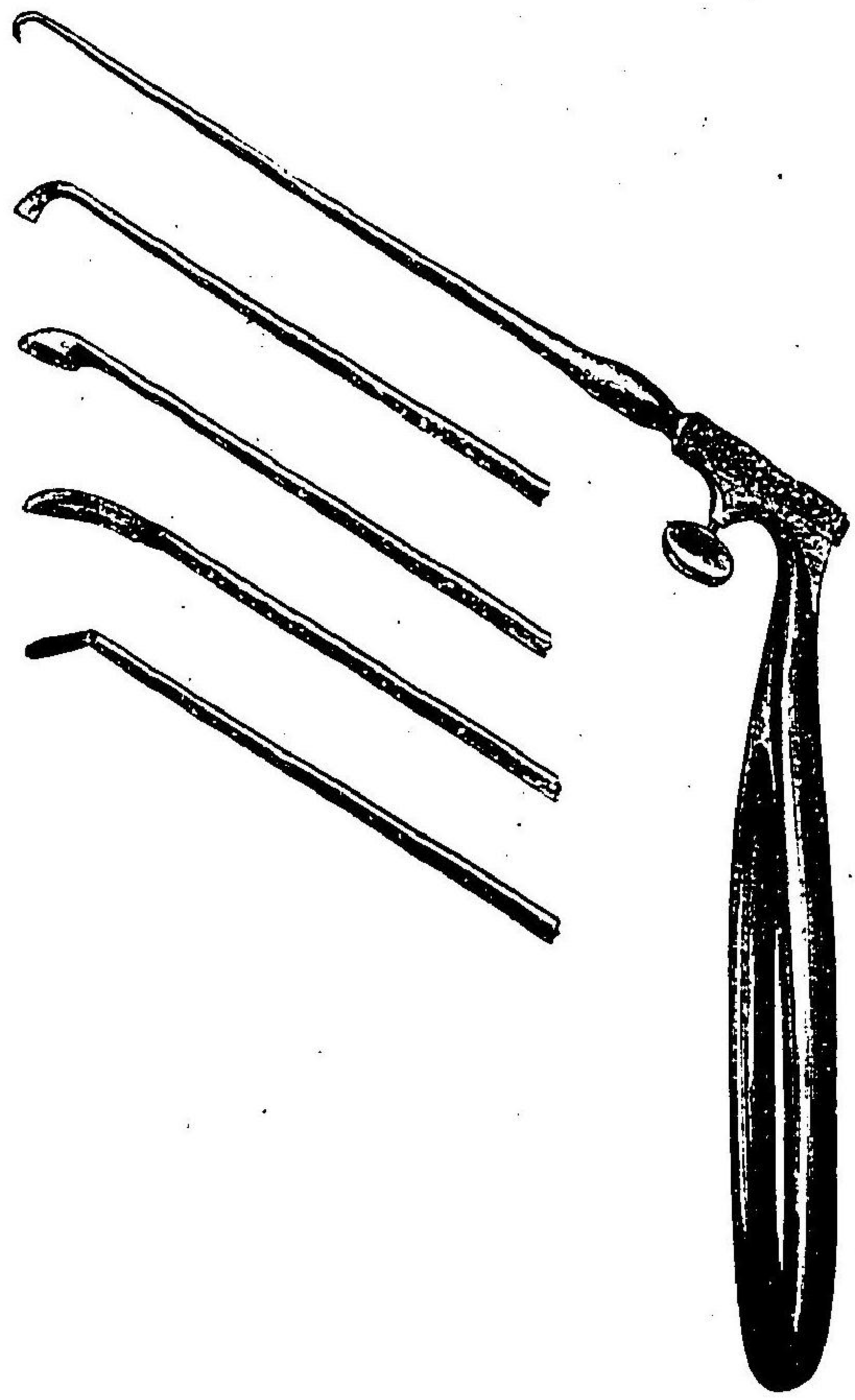
「エンビエーム」



慢性・エンビエームニ在テハ他ノ副鼻腔ニ於ケルガ如ク分泌物ノ滯溜ヲ來シ軟部ノミナラズ骨質ノ膨大(骨囊腫)ヲ來スコト多シ其症狀多種ニシテ或ハ鼻閉塞・涙管ノ壓迫症或ハ眼窩内下壁ノ膨隆・兎眼症時トシテ鼻背ノ擴張ヲ來ス其他頭痛ハ殆ンド常ニ訴フル所ニシテ鼻根部・眼内深部・後頭部或ハ全頭部ニ發ス又屢々嗅覺脱失乃至減退ヲ來ス  
 鼻腔ヲ檢スルニ前及ビ中部篩骨蜂窠・エンビエームニ在テハ膿汁・上顎竇及ビ前額竇・エンビエームト共ニ前方半月狀破裂即チ中鼻道ニ現出ス然レドモ其量甚ダ多カラズ後部篩骨蜂窠・エンビエームニ在テハ後鼻鏡檢上蝴蝶骨竇・滯膿症ニ於ケルガ如ク上鼻道ヨリ中甲介後端ニ向ヒ流下スルヲ見ル時トシテ前方嗅破裂部ニ少量ヲ認ムルコトアリ其他屢々粘液・鼻茸ノ發生ヲ伴フ且ツ同時ニ他ノ副鼻腔・エンビエーム合併スルコトアリ  
**診斷** 敢テ容易ナラズ綿栓挿入法・上顎骨竇・エンビエームノ章參照ハ屢々之ヲ助ク  
**療法** 急性症ハ他ノ副鼻腔・エンビエームニ於ケルガ如ク古加乙涅液・ア

第百十七圖

ハエック氏蜂窠鼻內手術器械



ドレナリシ液ノ塗布ニ依リ粘膜ノ腫脹ヲ減ジ自然排膿ヲ圖ルベシ  
 慢性症ニシテ前及ビ中部篩骨蜂窠ニ局在スルモノハ鼻茸ヲ發生スル場  
 合ニハ豫メ之ヲ除去スルヲ要ス中甲介ノ前部ヲ切除シグリニワルド氏



有乃鉗子若クハハエック氏銳鉤及ビ銳匙ヲ以テ蜂巢骨壁ノ破壞及ビ挿入  
ヲ行フベシ後部篩骨蜂巢ノ疾患ニハ中甲介ノ大部ヲ除去スルヲ要ス

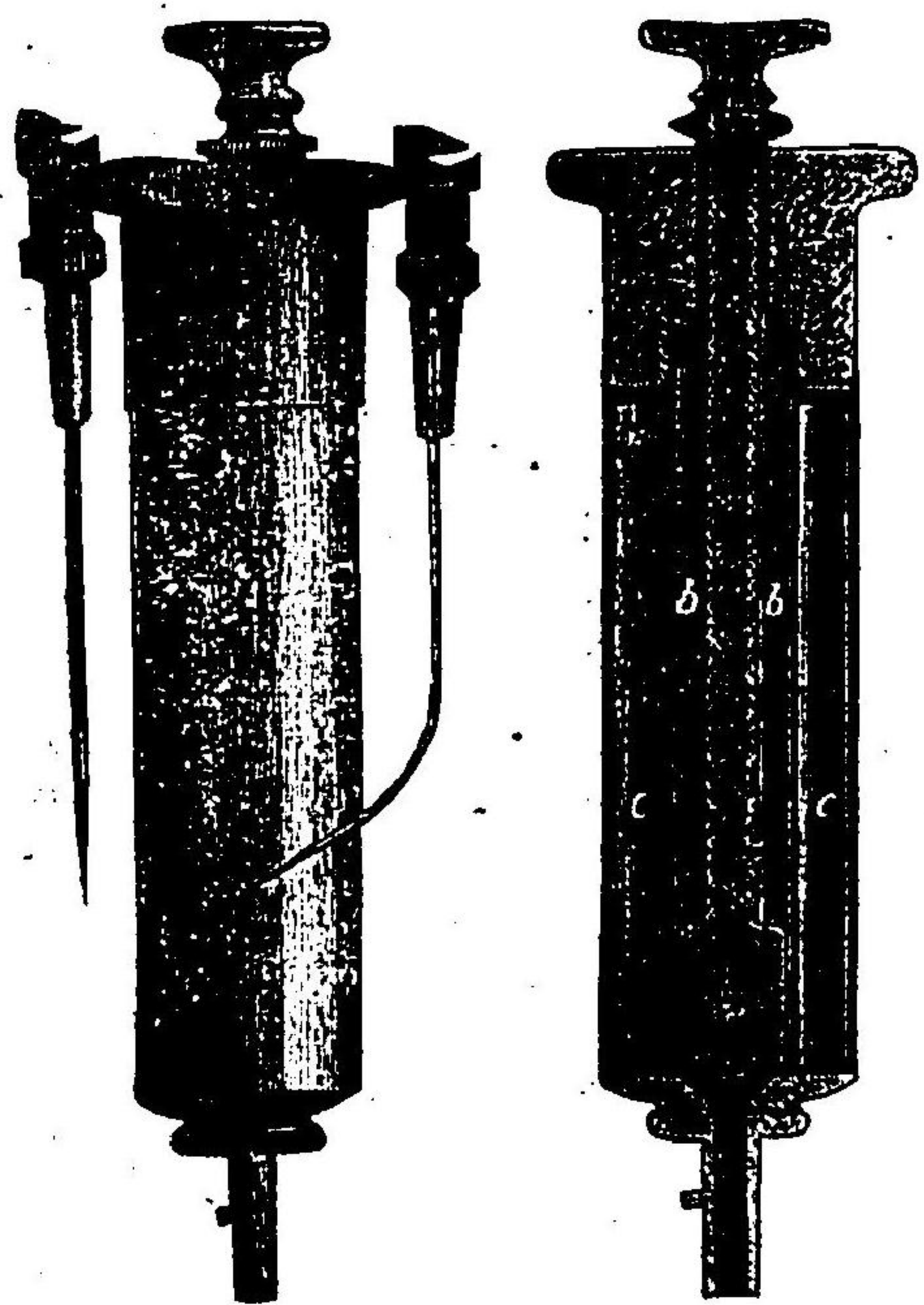
### 第五章 「パラフィン」注射ニ依ル外鼻整形術

Die cosmetische Behandlung der äusseren Nase durch der Paraffinjection.

西曆千九百年ゲルスニ一氏ノ創意ニ係レル「パラフィン」體內注射法ハ肺臟  
血栓、腦髓血栓及ビ黒内障等怖ルベキ偶發症ヲ惹起スルコトアルヲ以テ  
一時其聲價ヲ損シタリシガ之ハ畢竟「パラフィン」溶解點ノ低キニ過グルト  
注射方法及ビ用意ノ不完全ナルトニ基因スルモノナルベシトテ鼻科ニ  
於ケルスタイン、エックスタイン氏等ハ益々其研鑽ヲ重ネ比較的溶解點ノ高  
キ「パラフィン」ヲ使用シ主トシテ鞍鼻ノ矯正ヲ企テタリ  
當時ハ一般ニ「パラフィン」ヲ流動狀態ニ於テ注射セリ從テ溶解點ノ高キモ  
ノヲ使用スルニハ特種ノ注射器ヲ要ス從來普ク賞用セラレタルハエック

「パラフィン」  
注射ニ依ル外  
鼻整形術

第百十八圖  
カントロウツ氏注射器「パラフィン」注射器



- a 壓出桿
- d 「パラフィン」充填部
- c 保溫空氣層
- b 螺定部

スタイン氏注射器(五〇)ノ容積ヲ有シ外部ヲ被フニ護謨筒ヲ以テス及ビ  
カントロウツ氏注射器(第百十八圖)ニ示スガ如ク常ニ一定ノ溫度ヲ與  
ヘ以テ「パラフィン」ヲ凝固ヲ防ガンガ爲メ圓筒ノ周圍ニ熱湯ヲ通ズル裝置  
ヲ有スナリ之ニ由リ攝氏五十五乃至六十度ノ溶解點ヲ有スル「パラフィン」  
ヲ注射シ稍満足ナル結果ヲ擧グルヲ得ルニ至レリ然レドモ此等器械ノ

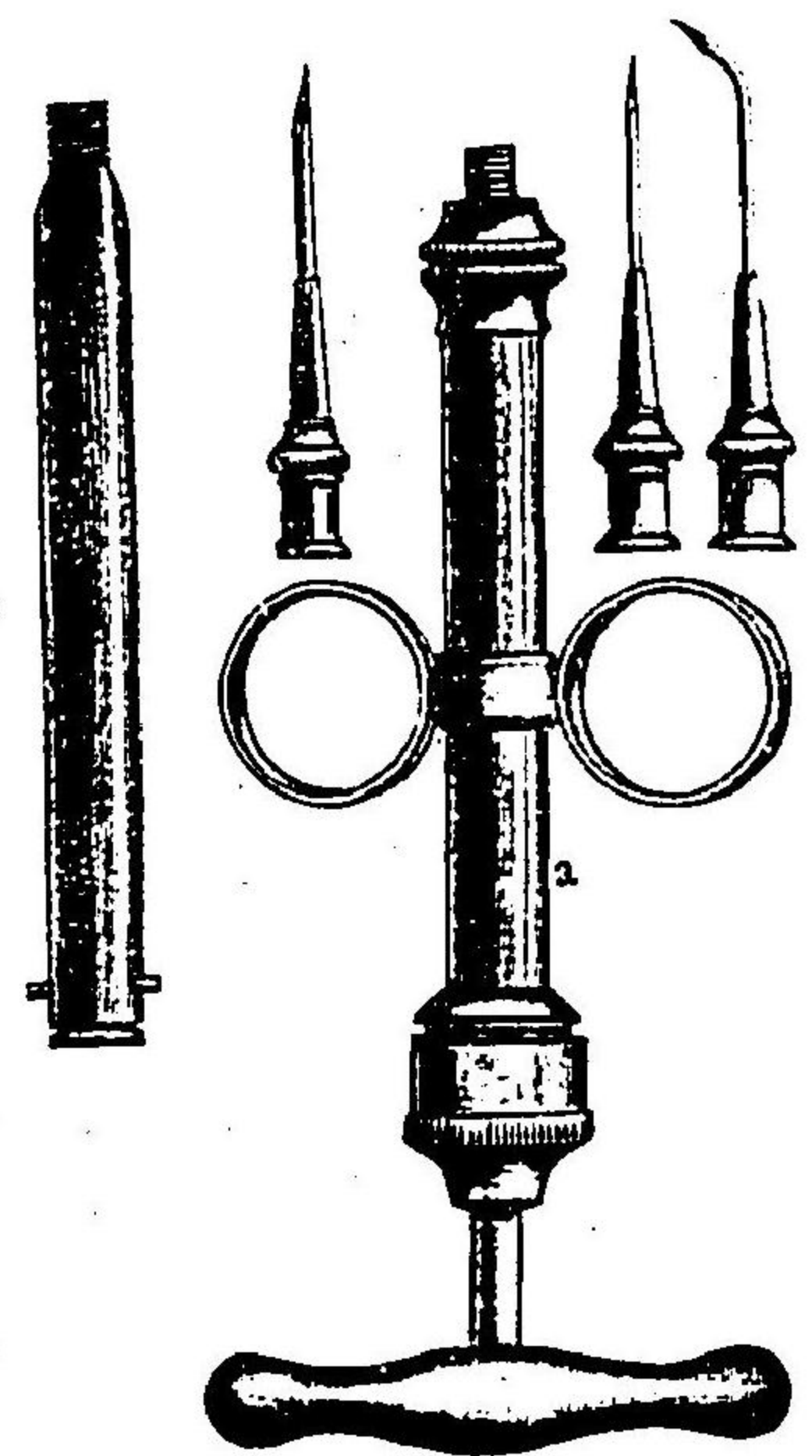
「パラフィン」注射ニ依ル外鼻整形術



構造複雑ナルハ使用上甚ダ便利ナラズ加之時トシテ尙ホ忌ムベキ偶發症ヲ來スコトアリ溶融點ノ高キニ從ヒ火傷ヲ喚起スルコト益多シ西曆千九百〇四年スタイン氏ハ固形「バラフン」ヲ凝固狀態ニ於テ注射スル一新法ヲ案出シ翌千九百〇五年之ニ用ユル注射器ヲ公ニセリ之ハ螺旋ニ依リ圓筒内ニ壓ヲ加ヘ凝態白條ノ「バラフン」ヲ排出セシムル裝置ヲ有ス而シテ圓筒ト注射針トノ連結ハ銃鎗狀固定法即チ所謂喰ヒ違ヒニ依レリ

第一百十九圖

オノイ「バラフン」注射器



「バラフン」ノ凝態注射法ハ流動狀態ニ於ケル注射法ニ比スレバ(1)火傷ヲ來スコト無ク(2)反應現象ノ輕微ナルコト

(3) 血栓轉移等危險ナル偶發症ナキコト(4) 施術單簡ニシテ奏効確實ナルコト等ノ諸點ニ於テ遙ニ優レリト謂ツベシ  
次デ千九百〇六年オノディー氏ハ第一百十九圖ニ示セル如キ注射器ヲ發表セリ

我邦ニ於テモ寺田千葉兩學士ノ如キ熱心ナル研究者アリテ手術器械及ビ方法ヲ改善シ凝態注射ニ依リ益、良好ノ結果ヲ收ムルニ至レリ其方法左ノ如シ

「バラフン」凝態注射法及ビ其準備

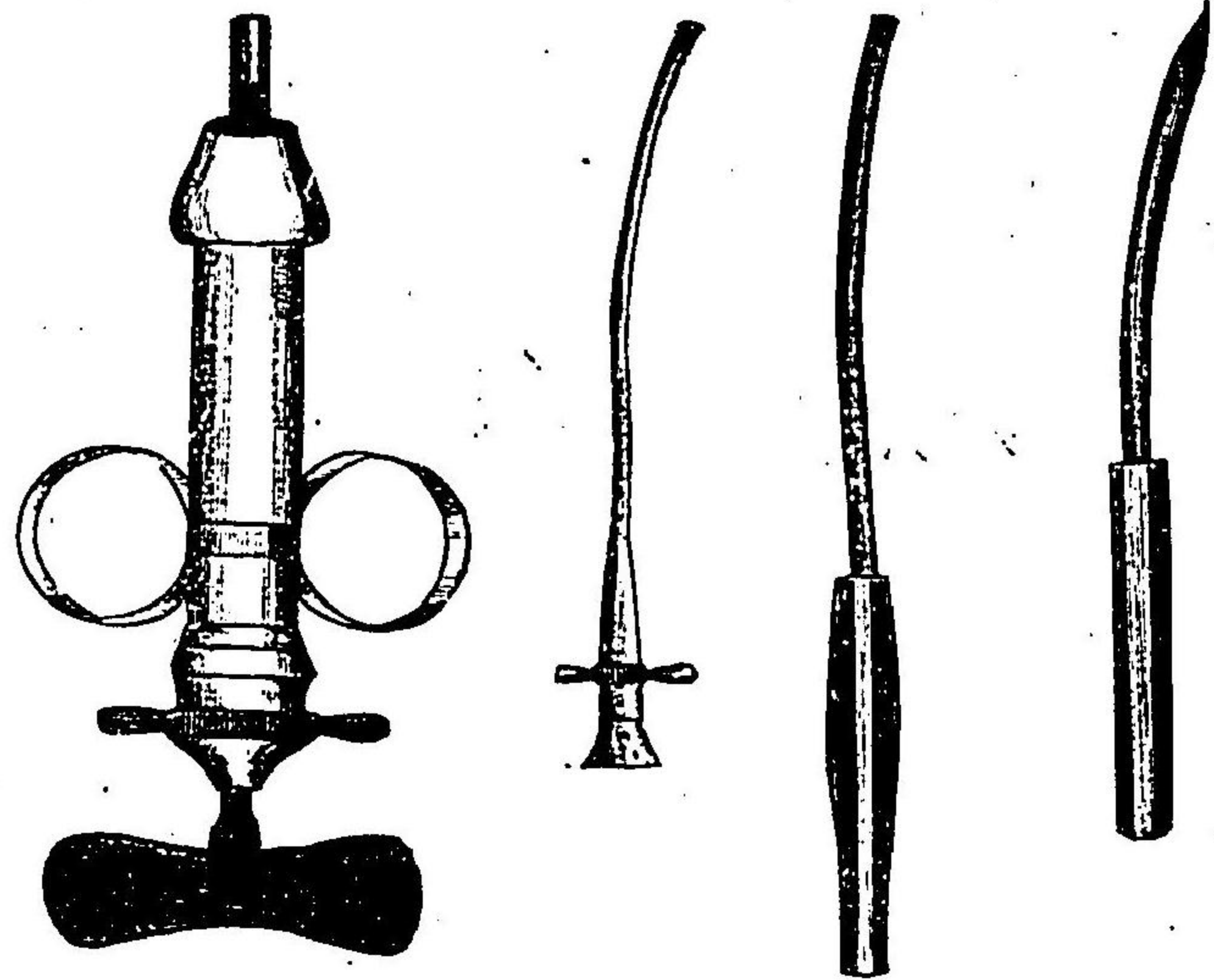
注射用「バラフン」ノ撰擇及ビ消毒 「バラフン」ハ精製シタル良品ニシテ其溶融點攝氏五十度乃至六十五度ナルヲ適當トス而シテ之ヲ完全ニ消毒スルニハ孵卵器内ニ於テ攝氏百度ニ熱シ約三十分之ニ留マラシメ或ハ固形「バラフン」ヲ試験管内ニ入レ同時以上之ヲ沸騰セル熱湯中ニ置クモ可ナリ  
手術器械 第一百二十圖乃至第一百二十三圖ニ示セル如ク皮膚穿刺針、鈍刺

「バラフン」凝態注射法及ビ其準備

「バラフン」注射器、外科整形術



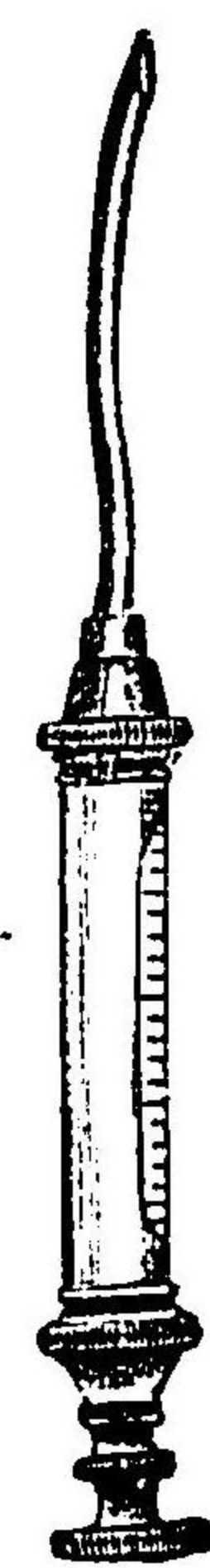
圖三十二百第 圖二十二百第 圖一十二百第 圖十二百第  
(式田寺)器射注 (式葉千)針射注純 針離割鈍 針刺穿膚皮



離針鈍注射針(千葉氏)ニ依  
レバ長サ七仙迷及ビ注射  
器各一個ヲ要ス之ハ豫メ  
嚴重ナル煮沸消毒ニ附ス  
ルヲ可トス而シテ注射器  
及ビ注射針内ニ存スル水  
滴ハ充分ニ驅除シ又バラ  
フシラ充填スルニハ其消  
毒濟ノモノヲ取り溶融狀  
態ニ於テ注射器内ニ吸引  
シ或ハ括栓ヲ抜キ注射針  
連結部ノ孔ヲ指ニテ塞ギ  
反對ニ圓筒管内ニ注入シ  
其冷却ヲ待チ手掌ヲ觸レ

テ暖氣ヲ覺ユルノ程度ニ至ラシムベシ  
局○部○ノ○消○毒○及○ビ○麻○醉○法○ 局部ハ一般ノ法則ニ從ヒテ消毒スベシ而シテ  
本手術ニ際シ主トシテ疼痛ヲ感ズルハ穿刺針ヲ以テ皮膚ヲ刺スノ瞬間  
ニ在リシカモ之ハ通常著甚ナラズ故ニ麻酔ハ必要不可缺ノ者ニ非ズ然  
レモ全ク無痛のニ施術セント欲セバ(ベンゲ、クロールエチール)冷却麻痺  
(千葉學士)又ハ(コカイン)注射、シユライヒ氏浸潤麻痺(寺田學士)等ヲ行フベシ  
術式○ 先ヅ穿刺針(千葉氏)ハ神經質家若クハ甚シク疼痛ヲ忌ムモノニ向  
ヒ特ニ「コカイン」  
ヲ以テ麻酔ノ力  
ヲ補ハンガ爲メ  
穿刺兼用「コカイ  
ン」注射器ヲ案出セリ(第百二十四圖ニ示セル如シ)ヲ以テ場合ニ應ジ鼻尖  
端鼻背若クハ眉間何レカ一箇所ヲ撰ビテ皮膚ヲ穿刺シ(必要アラバ二個  
或ハ二個以上ノ刺口ヲ設クベキモ可及的少數ナルヲ可トス)次デ鈍刺離

圖四十二百第  
「コカイン」用兼刺離  
(式葉千)器射注



「パラファン」注射ニ依ル外鼻整形術



圖五十二百第

鏡鼻ルセ正矯リ依ニ注射法「ンキフアラバ」  
(驗實ルケ於ニ室後ノ士博岡岡)  
前術手



針ヲ該小孔ヨリ皮下ニ挿入シ「バラファン」ヲ注入セント欲スル部分ヲ鈍ニ  
剝離シ適當ノ度ニ達スレバ之ヲ拔去シ代フルニ鈍注射針ヲ裝セル注射  
器ヲ以テシ螺旋ノ廻轉ニ依リ先ヅ最遠部創口ヨリ起算シテヨリ連續的  
白條トシテ奔出セル「バラファン」ヲ以テ充填シツツ注射針ヲ抽出シ整形其  
度ヲ得ル  
ヤ茲ニ螺  
旋ノ旋轉  
ヲ中止シ  
注射針ヲ  
拔去スベ  
シ  
注射了レ  
ハ穿刺創  
口ニ消毒

圖六十二百第

後術手



テハ術後局部ノ壓迫感アリ時トシテ壓指ニ依リ輕度ノ疼痛ヲ發ス通常  
翌日ヨリ多少ノ腫脹ヲ來ス時トシテ輕度ノ發赤ヲ兼ヌルコトアリ平均  
四日ノ後消散スルモノトス此等反應現象ニ對シテハ「イヒチオール」チオ  
ノール或ハ無色沃度丁幾ノ塗布ヲ以テ有効ナリトス  
術後ノ偶發症 手術中若クハ其前後ニ於ケル消毒ノ不注意ニ因リ化膿

脫脂綿ノ一片  
ヲ貼シ止血ノ  
後創圍ヲ清拭  
シ「コロヂューム」  
ヲ滴下シ創口  
ヲ閉鎖スベシ  
術後ノ經過  
尋常ノ經過ヲ  
取ルモノニ在



ヲ來シ時トシテ廣汎性膿瘍トナリ鼻梁上ノ切開若クハ「バラフン」ヲ抽出  
 ヲ要スルコトアリ或ハ過度ノ「バラフン」注射ニ因リ局部ノ榮養障礙ヲ來  
 シ壞疽ニ陥ラシムルコトアリ又眉間部ノ過量ナル注射ハ前額痛ヲ喚起  
 スルコトアリ時トシテ又皮下出血ノ爲メ皮膚暗赤色乃至暗綠色ニ變ズ  
 ルコトアリ  
 注射セル「バラフン」ヲ抽出 叙上ノ如ク術後ニ於テ化膿、神經痛等ヲ發シ  
 又ハ皮膚榮養障礙ノ徵アラバ速ニ「バラフン」ヲ抽出セザルベカラザルコ  
 トアリ千葉氏ハ之ガ爲メ特ニ抽出器ヲ案出セリ其構造單簡ニシテ一個  
 ノ套管針ニ類似シ其圓筒ノ一部四分ノ一ヲ缺除セシメ之ニ及ヲ附シタ  
 ルモノニシテ尖端ヲ「バラフン」塊中ニ挿入シ一捻シテ抽キ出セバ「バラフ  
 ン」ヲ抽除シ得ベシト謂ヘリ

鼻科學終

咽腔科學

咽腔ノ解剖要領

鼻咽腔

第三編 咽腔科學 Pharyngologie.

總論 Allgemeiner Teil.

第一章 咽腔ノ解剖要領 Anatomie der Rachenhöhle.

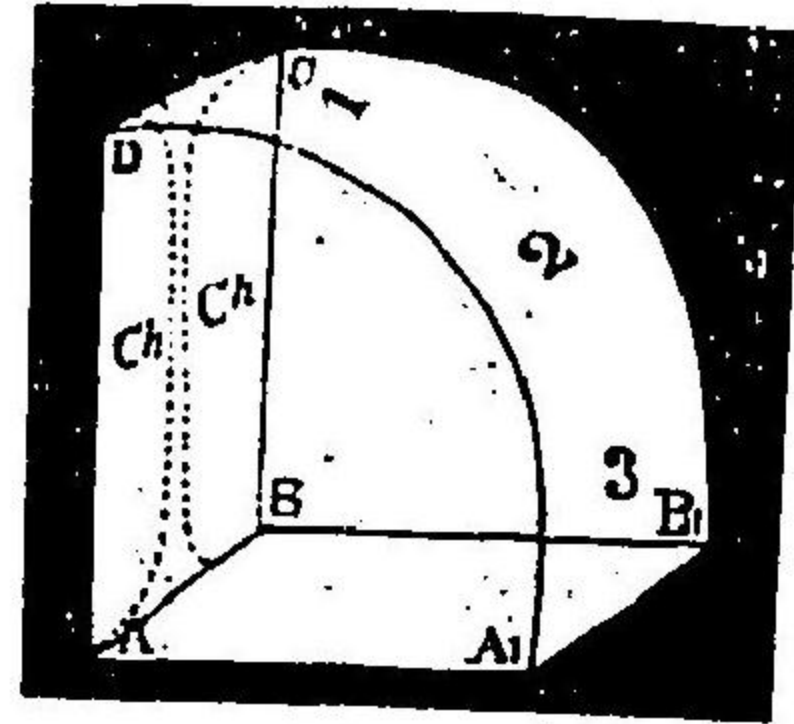
咽腔ノ形態 一個ノ漏斗狀管ニ比スミク下方ニ至ルニ從ヒ漸次狹小ト  
 ナリ其前壁ニ三個ノ大孔ヲ有シ鼻腔、口腔及ビ喉頭入口部ニ通ズ之ニ由  
 リ咽腔ヲ分チテ鼻部、口部及ビ喉頭部ノ三部トス

(甲) 鼻咽腔(鼻部咽腔)又ハ上部咽腔) Der Nasenrachenraum (Pars  
 nasalis pharyngis s. Epipharynx s. Cavum pharyngonasale).

鼻腔底面ノ延長線上ニ於テ地平ニ設ケタル平面ノ上部ヲ鼻咽腔ト云フ  
 其形態左圖ノ如ク概ネ一骰子ニ類ス即チ之レニ六壁ヲ區別スルヲ得ベ  
 シ  
 前壁(圖中ABC)ハ幅約三五仙迷、高サ約三仙迷ニシテ前額面ニ在リ其中



第百二十七圖 鼻咽喉形態假想圖



- (ch) 後鼻竇
- (1) 天蓋
- (2) 穹隆
- (3) 後壁

中央ニ鼻中隔後縁ヲ存スルノミ而シテ其兩側ハ各一個ノ縱橢圓形大孔即チ所謂後鼻竇(Choanae)ヲ以テ直接鼻腔ニ交通ス下壁(Infundibulum)ハ通常開放シ口部咽喉腔ニ連ナル然レドモ嚥下時等ノ如キ口蓋帆ノ舉上ニ依

リ一個ノ真正底面ヲ生ズルモノニシテ此際後壁ヨリ上部咽頭括約筋ノ作用ニ因リ所謂バスターバント氏隆起(Passavant'scher Wulst)ヲ生ジ軟口蓋遊離縁ニ接觸シ鼻部及ピ口部咽喉腔ノ交通ヲ完全ニ遮斷スルモノナリ上壁ハ概ネ地平面ニ一致シ鼻咽喉腔ノ天蓋トナリ後方ニ進ムニ從ヒ弓狀彎曲ヲ呈シ後壁ニ移行ス此部ヲ咽頭穹隆(Fornix pharyngis)ト云フ而シテ上壁ヲ構成セル骨質ハ蝴蝶骨體及ビ後頭骨基礎部ナリ後壁ハ主トシテ第一頸椎前弓ヨリ成リ其下縁ハ恰モ鼻咽喉腔ノ下界ニ相當ス

鼻咽喉粘膜

咽頭扁桃腺一名ルシカ氏扁桃腺

左右兩側壁ハ直接骨性基質ヲ缺ク

粘膜ハ厚クシテ天蓋及ビ穹隆部ニ於テハ最深層基礎軟骨纖維 Fibrocartilago basilaris ニ密着シ屢鼻咽喉腔纖維腫及ビ纖維肉腫ノ發生基點トナル其組織學的造構ヲ見ルニ表面ハ毳毛壘重圓柱上皮ヲ以テ被ハレ基礎膜ヲ具有シ次デ固有層アリ粘膜下結締織ニ依リ基礎軟骨纖維ニ附着ス而シテ該固有層及ビ粘膜下層ニハ多數ノ粘液腺ヲ有ス且ツ鼻咽喉腔粘膜固有層ニ特有ナルハ腺様組織ノ存在ニシテ就中穹隆部ニ於テ著シク發育シ所謂咽頭扁桃腺又ハルシカ氏扁桃腺 Tonsilla s. Tonsilla pharyngea 名アリ此部粘膜甚ダ強厚ニシテ數個ノ縱走條狀皺襞及細溝ヲ形成ス其中央ニ位セル深溝ヲ中咽頭窩( recessus pharyngeus medius

第百二十八圖 鼻咽喉腔前部斷面



- (1) 翼狀突起
- (2) 鋤骨ノ一部
- (3) 鼻腔天蓋ノ後端
- (4) 軟氏管口
- (5) 咽頭蓋ノ入口部
- (6) ローゼンミユル
- (7) 咽頭扁桃腺

ル氏窩 recessus pharyngeus medius



ト云フ此ハ深ク咽頭基礎腱膜 *Fascia pharyngobasilaris* ニ達スルコト稀ナ  
 ラズ加之屢内部ニ於テ囊狀ニ擴張スルコトアリ然ルトキハ之ヲ咽頭囊  
*Bursa pharyngea* ト稱ス咽頭扁桃腺ハ初生兒若クハ生後二三年ニ於テ發育  
 最モ顯著ニシテ春機發動期ニ達スレバ概ネ萎縮消退スルモノトス側壁  
 ニ於テハ粘膜凸凹不正ニシテ下鼻甲介後端ノ高サニ於テ歐氏管口 *Ostium*  
*pharyngeum tubae Eustachii* ヲ見ル其前後ニ各一個ノ隆起アリ後方ニアルヲ  
 歐氏管隆起 *Tuberculus* ト云ヒ其下端ニ連繫シテ隆起セル縦皺襞アリ内ニ  
 筋纖維ヲ包藏ス之レヲ歐氏管咽頭皺襞或ハ隆起皺襞 *Plica salpingopharyngea*  
 or. *Wulsfalle* ト云フ前方ノ隆起ハ之ニ比スレバ小ニシテ其下方ハ歐氏管  
 口蓋皺襞或ハ鈎皺襞 *Plica salpingopalatina* or. *Haekenfalle* ニ連続ス隆起皺襞  
 ト鈎皺襞トノ間ニハ軟口蓋舉筋ニ依リテ生ズル舉筋隆起 *Levatorulus* ア  
 リ

歐氏管隆起ノ後方ニハ鼻咽腔後壁トノ境界部ニ深窩アリローゼンミル  
 レル氏窩 *Rosenmüller'sche Grube* ト云フ此ハ又別ニ側咽頭窩 *Recessus pharyn-*

口部咽腔

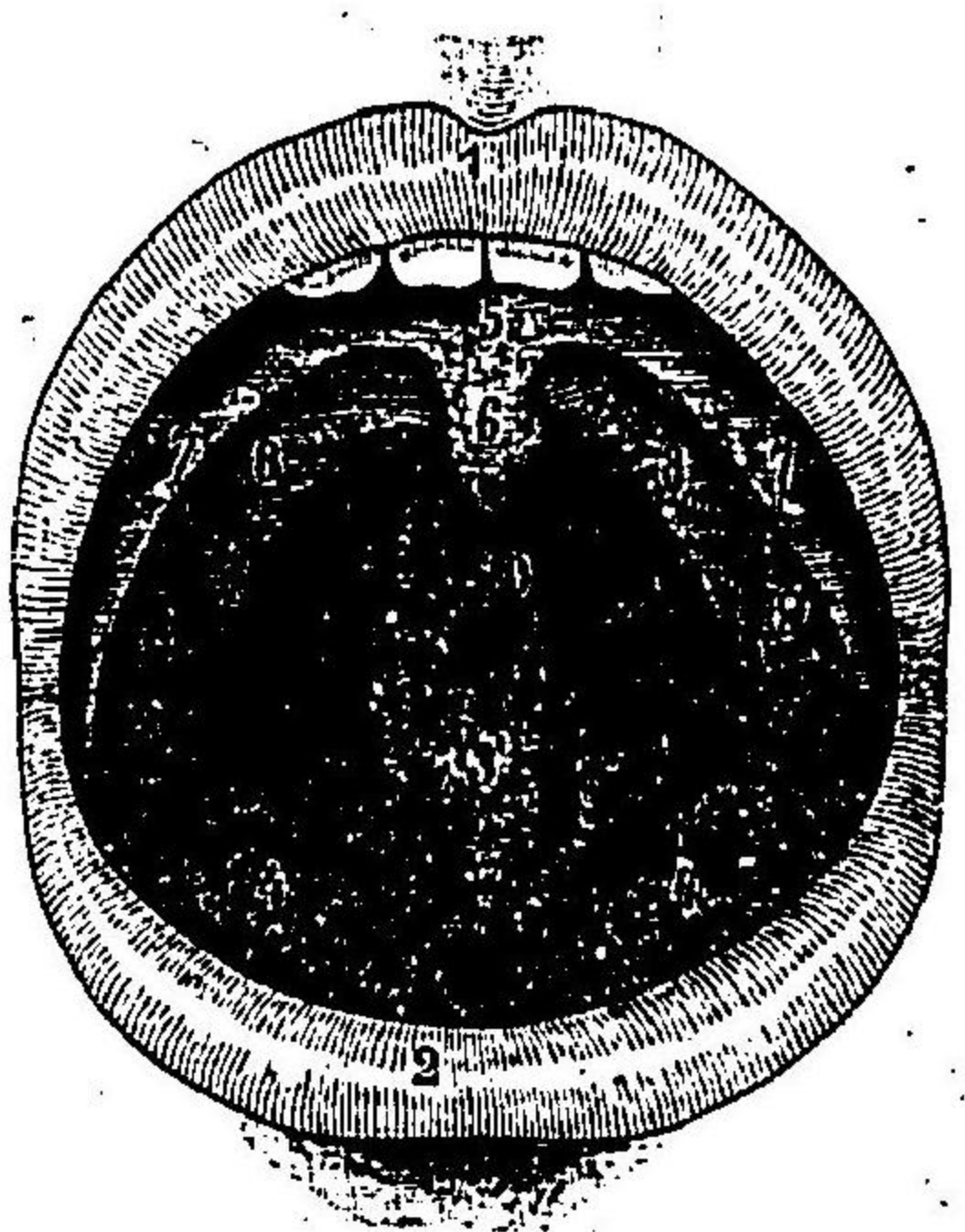
*gens lateralis* ノ名アリ

(乙) 口部咽腔又ハ中部咽腔 *Der Mundteil des Rachens* or. *Oropharynx*  
 or. *Mesopharynx*.

此部ハ下方舌骨大角ノ高サニ於テ喉頭部咽腔ニ移行シ前方ハ直接口腔  
 ニ交通ス其境界部ヲ口峽 *Isthmus faucium* ト云フ

口峽部ノ左右兩側ニハ前後ニ併列セル二個ノ粘膜皺襞アリ其前方ニ位  
 スルヲ前口蓋弓又ハ舌口蓋弓 *cordeae Gaumenbogen* or. *Arvus glossopalatinus* ト

第百二十九圖 口部咽腔



- (1) 上口唇
- (2) 下口唇
- (3) 舌背
- (4) 舌側縁
- (5) 軟口蓋
- (6) 懸壺垂
- (7) 前口蓋弓
- (8) 後口蓋弓
- (9) 口蓋扁桃腺
- (10) 咽腔後壁

云ヒ後方ニ在ルヲ  
 ●後口蓋弓或ハ咽頭  
 口蓋弓 *hinterer Gau-*  
*menbogen* or. *Arvus*  
*pharyngopalatinus* ト云  
 フ共ニ筋纖維ヲ包  
 藏ス此兩口蓋弓間







ワルダイエル  
氏扁桃腺環

顆粒ヲ總稱シテワルダイエル氏扁桃腺環 Waldeyer'scher Tonsillan-  
ringト謂フ

(丙) 喉頭部咽腔又ハ下部咽腔 Der Kehlkopfteil des Rachens or.  
Hypopharynx.

上方ハ舌骨大角部ヨリ下方ハ環狀軟骨ノ下縁ニ至ル間ヲ云フ即チ其下  
端ハ門齒ヲ距ル後下方約一五仙迷ノ距離ニ在リテ直徑僅ニ一五仙迷ニ  
過ギズ

此部ノ側壁及ビ後壁ハ口部咽腔ヨリ直接連繋スルモノニシテ前壁ハ喉  
頭後壁ヨリ形成セラレ一個ノ大孔ヲ有ス喉頭入口部 Aditus laryngis 即チ  
是レナリ其兩側ニ各一個ノ凹窩アリ梨子状窩 Fossa pyriformis ト謂フ

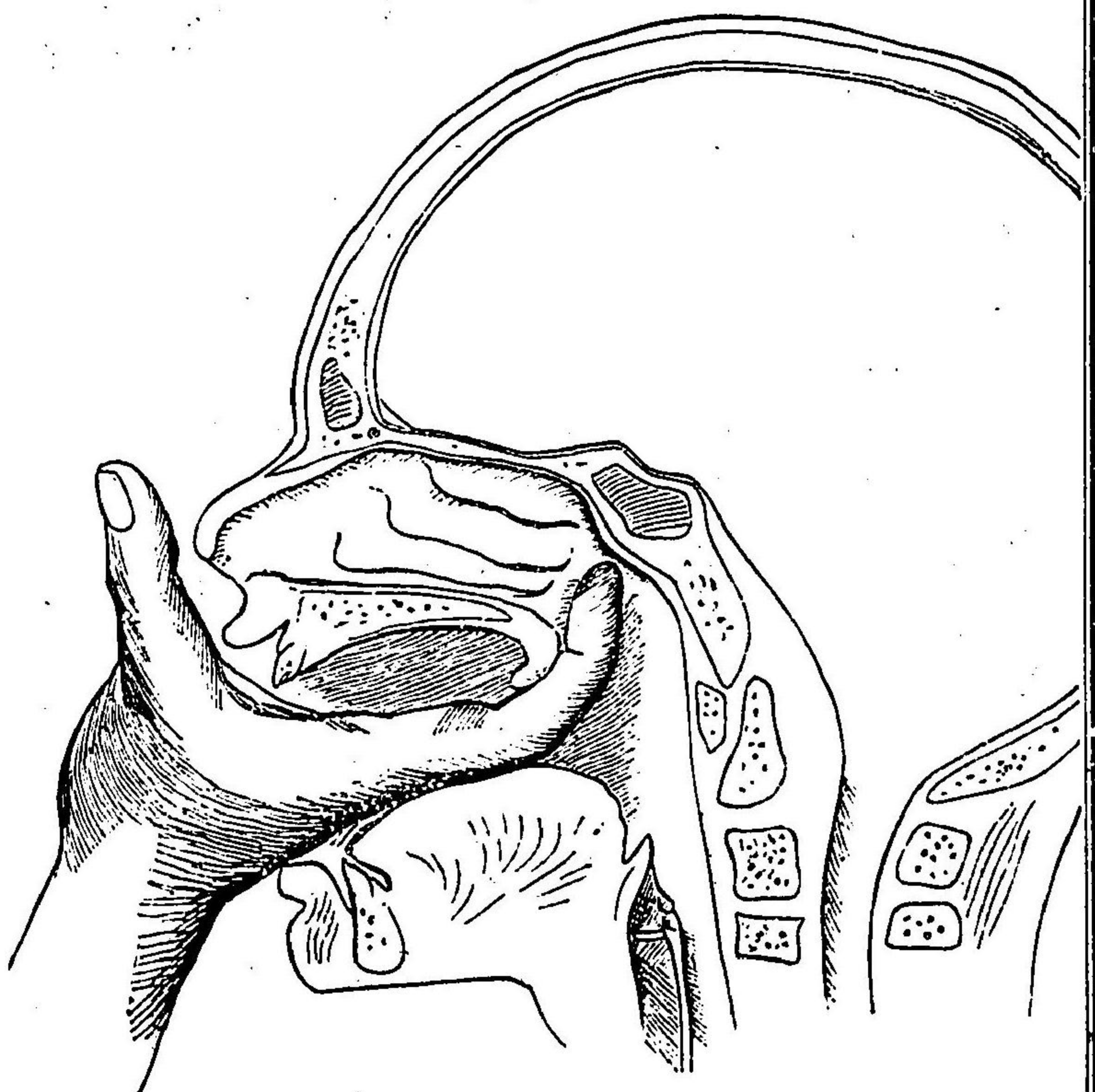
第二章 咽腔診断法 Die Untersuchungsmethoden

des Rachens

咽腔診断法

(甲) 鼻咽腔ノ検査法 主トシテ後鼻鏡檢法及ビ指頭觸診法ヨリ成ル

第三百一十一圖  
指頭觸診ノ狀



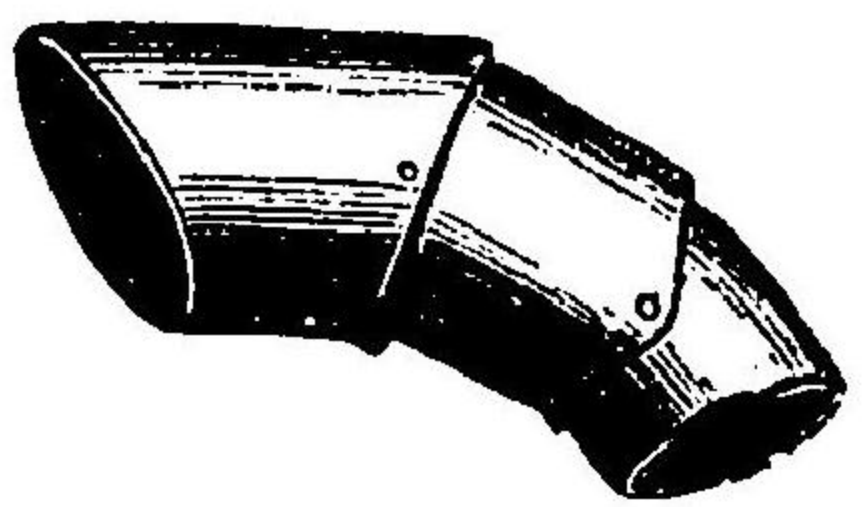
後鼻鏡檢  
法ハ既ニ  
鼻腔診断  
法ノ章下  
ニ詳述セ  
ルヲ以テ  
茲ニ之ヲ  
略ス  
指頭觸診  
法 Digital-  
untersuchung  
des Nasen-  
rachens  
之ハ

咽腔診断法



主トシテ幼兒若クハ小兒ノ診察ニ當リ後鼻鏡檢法ヲ施行シ難キ場合ニ行フモノナリ

第三百二十二圖  
氏クッペンゲンラ  
甲 指



先ヅ患者ヲシテ起立或ハ椅座シテ頭首ヲ少シク前方ニ屈セシメ檢者ハ其右側ニ立チ左腕ヲ以テ患者ノ頭部ヲ固定シ右示指ハ豫メ屈伸自在ナル金屬製指甲ヲ裝シ口腔内ニ挿入スベシ而シテ指端口蓋帆遊離縁ニ達スレバ徐ロニ其後方ヨリ進入シ鼻咽腔ニ達スベシ若シ指甲ノ準備ナキトキハ示指ヲ挿入スルニ當リ患者ノ頰部ヲ上下白齒間ニ挿入シ又ハ下口唇ヲ内方ニ翻轉シテ齒列上ニ置クトキハ患者ノ下顎緊閉ヲ豫防スルヲ得ベシ

(乙) 口○部○咽○腔○ノ○檢○查○法  
壓舌子ヲ以テ舌背及ビ舌根ヲ壓抵スルノミニシテ能ク各部ヲ通視スルヲ得ベシ時トシテ消息子若クハ指頭ヲ以テ探診スルノ必要アリ

鼻咽腔ノ疾患

急性加答兒性  
鼻咽腔炎

(丙) 下○部○咽○腔○ノ○檢○查○法  
口部咽腔檢査法ノ外喉頭鏡檢査法ヲ應用スベシ之ニ由リ舌根部等ヲ詳檢スルヲ得ベシ

### 咽腔科學各論 *Spezieller Teil*

#### 第一章 鼻咽腔ノ疾患 *Krankheiten des*

*Nasenhohlens.*

#### 急性加答兒性鼻咽腔炎 *Rhinopharyngitis*

*acuta catarrhalis.*

**原因** 甚ダ屢見ル所ノ疾患ニシテ急性咽頭加答兒又ハ急性鼻加答兒ニ續發スルモノ多シ然レドモ亦原發性鼻咽腔加答兒アリ之ハ屢速ニ鼻腔及ビ口部咽頭ニ蔓延ス

其原因全ク急性鼻加答兒ニ於ケルガ如シ

**症候** 本病ノ症候ハ之レト同時ニ存スル急性鼻加答兒又ハ咽頭加答兒



ニ依リ隠蔽セラレ、コト多シ唯其自覺症狀顯著ニシテ後頭部若クハ項部ニ限局セル疼痛アルハ鼻咽腔加答兒ノ現存ヲ證スルモノナリ又歐氏管粘膜ノ腫脹閉鎖ニ因スル耳症狀即チ耳内閉塞感耳痛耳鳴及ビ難聴ハ本病ニ於ケル主要ノ徵候タリ後鼻鏡檢法ヲ行フニ鼻咽腔ノ粘膜一般ニ腫脹發赤シ粘液性分泌物ヲ附着シ又屢咽頭扁桃窩ニ膿栓ヲ見ル其觀急性口蓋扁桃腺炎ニ於ケルガ如シ之ヲ腺窩性咽頭扁桃腺炎 Pharyngotonsillitis lacunalis ト稱ス

豫後 良

療法 一般療法ハ急性鼻加答兒ニ於ケルガ如シ通常局所療法ヲ要セズシテ治癒スルモノトス

慢性肥厚性鼻咽腔炎

慢性肥厚性鼻咽腔炎 Rhinopharyngitis chronica hypertrophicans.

本症ハ慢性ニ經過スル加答兒性粘膜炎ニシテ終ニ粘膜殊ニ腺樣組織ノ

肥厚ヲ來スモノナリ

原因 慢性肥厚性鼻炎ニ於ケルガ如シ而カモ之ニ併發スルコト多シ其他鼻閉塞及ビ膿性分泌物アル諸種ノ鼻疾患ニ續發ス本病ハ概シテ成人ニ多ク殊ニ喫煙家及ビ酒客ハ屢之ニ罹ル婦人ニ於テハ萎黃病者ニ發スルコト多シ

症候 自覺的徵候ハ分泌機能障礙ヨリ來ルモノナリ分泌物ハ概ネ粘液膿性ニシテ其量稍多ク口部及ビ喉頭部咽腔ニ流下シ爲ニ收斂乾燥或ハ異物感等ノ異樣感覺ヲ喚起ス又稀ニ分泌物乾燥結痂シ吸嚥聲咳若クハ嚙下及ビ絞扼運動ニ依リ辛フジテ脫離排除スルヲ得ルコトアリ此際時トシテ輕度ノ出血ヲ來シ人ヲシテ肺出血ヲ疑ハシム其他早朝嘔吐 Vomitus matutinus ハ分泌物ノ刺激ニ因ルモノニシテ屢見ル所ノ症狀タリ該分泌物ハ主トシテ中咽頭窩又ハ其近傍ニ集積シ屢大ナル團塊ヲ形成ス從テ鼻閉塞及ビ閉塞性鼻聲ヲ發ス合併症ニハ歐氏管狹窄慢性中耳加答兒慢性化膿性中耳炎及ビ慢性胃腸加答兒等アリ

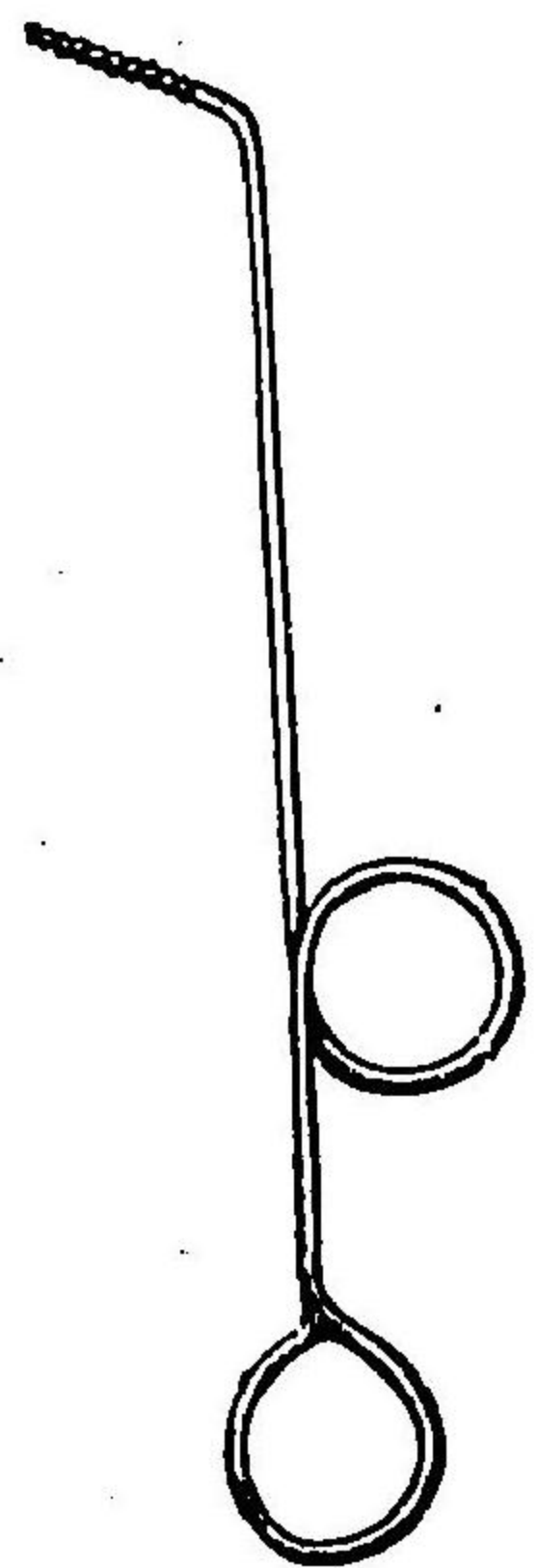


他覺的症候 口部咽喉ヲ檢スルニ其上部ノ粘膜潮紅腫脹シ垂下セル粘  
液性膿ノ附着スルヲ見レバ常ニ慢性鼻咽腔炎ノ存在ヲ推察スルヲ得ベ  
シ  
後鼻鏡檢法ヲ行フニ鼻咽腔粘膜一般ニ腫起發赤ス殊ニ穹窿部ニ於テ甚  
シ咽喉扁桃腺ハ通常増殖肥大シ其表面ニ散在性又ハ瀰蔓性粘液膿ノ附  
着スルヲ見ル時トシテ乾固シ時トシテ否ラズ又中咽頭窩ハ屢々分泌物ヲ  
以テ充實セル囊腫狀隆起ニ依リテ掩蔽セラル、コトアリ之ヲトルンツ  
ルド氏囊腫 Tomwaldt'sche Cyste ト云フ其他歐氏管咽頭皺襞ノ腺樣組織肥  
大ヲ伴ヒ口部咽頭側壁ニ於テ後口蓋弓ノ後方ニ縱走セル索狀或ハ珠數  
狀隆起ヲ呈スルコトアリ之ヲ側索咽頭炎 Pharyngitis lateralis ト稱ス  
指頭觸診上鼻咽腔壁ノ腫脹及ビ肥厚増殖セル咽頭扁桃腺並ニ其表面ニ  
附着結痂セル分泌物ノ存在ヲ認ム其他本病ニ特異ト謂フベキハ注意シ  
テ施行セル輕微ノ接觸ニ於テモ容易ニ粘膜ノ出血ヲ來スノ點ナリ

**療法** 原因ヲ精査シ除去スルヲ以テ緊要トス

局所療法中適當ナルハ收斂性藥液塗布法ナリ  
分泌物乾固セザルモノニハ硝酸銀液、プロタルゴール液及ビ格魯兒亞鉛  
液等ノ塗布ヲ可トス然レドモ乾燥結痂ノ傾向アルモノニハルゴール氏  
液塗布ヲ行フ咽頭扁桃腺ノ肥大著シキモノハ之ヲ切除スベシ

第三百三十三圖  
鼻咽喉用卷線子



其他同時ニ存在セル咽頭  
加答兒ニハ含嗽ヲ命ジ又  
鼻粘膜ノ肥厚等ハ適當ノ  
處置ヲ施スヲ要ス

- 處方例**
- 七十一、硝酸銀 一・〇
  - 鹽水 二〇・〇
  - 右爲塗布料毎二日一回塗布
  - 七十二、沃度 一・五
  - 沃度加里 五・〇
  - 佩里殺林 五〇・〇
  - 薄荷腦油 七滴
  - 右混和毎二日一回塗布
  - 七十三、「プロタルゴール」 二・五—五・〇
  - 鹽水 五〇・〇
  - 右爲塗布料一日一回塗布
  - 七十四、沃度 〇・五—一・〇
  - 沃度加里 一・〇—二・〇
  - 佩里殺林 三〇・〇
  - 右混和毎二日一回塗布
  - 七十五、格魯兒亞鉛 一・五



慢性瘦削性鼻  
咽腔炎

罌水  
薄荷腦油

四〇〇  
七滴

偏里設林  
右濕和爲日一回塗布

一〇〇

### 慢性瘦削性鼻咽腔炎 *Chronic atrophic rhinitis*

*chronica atrophicus*

本病ハ特發性疾患ナキニ非ザルモ多クハ惡臭性瘦削性鼻炎(眞性臭鼻症)又ハ單純性瘦削性鼻炎ニ併發或ハ續發シ其他萎黃病肺結核及ビ狼瘡等ニ繼發ス

**症候** 鼻咽腔ノ異様乾燥感及ビ分泌物排除困難ヲ以テ主徴トシ屢消化不良及ビ早朝嘔吐等アリ後鼻鏡檢法ヲ行フニ粘膜ハ蒼白色滑澤ニシテ光線反射アリ處々ニ乾燥セル粘液性膿塊ノ附着スルヲ見ル之ハ時トシテ高度ノ惡臭ヲ放ツ之ヲ惡臭性鼻咽腔炎 *Rhinopharyngitis atrophicus foetida* ト云フ

**經過** 概テ緩慢ナリ

**豫後** 治癒シ難キモ生命ニ關シテハ直接危險ナラズ

**療法** 慢性肥厚性鼻咽腔炎ニシテ分泌物結痂ノ傾向アルモノ、如クルゴール氏液ノ塗布ヲ行ヒ又噴霧洗滌法安息香酸那篤留膜ノ吹粉等ヲ行フベシ異様乾燥感著甚ナルモノニハ「ピロカルピン」療法ヲ行フ

**處方例**

七六、硼砂	四〇〇
重曹	四〇〇
偏里設林	四〇〇
罌水	一六〇〇
右濕和爲噴霧洗滌料一日一回ツ、洗滌	
七七、安息香酸那篤留膜	一分

「タルクム」	五分
右濕和爲吹撒料	
七八、鹽酸「ピロカルピン」	〇・一
右作錠劑十個	
一日一乃至二回二個ツ、服用	

腺様增殖症一  
名咽頭扁桃腺  
增殖症

### 腺様增殖症一名咽頭扁桃腺增殖症

*Adenoide Vegetation or: Hyperplasia der Rachentonsille.*

本病ニ關シ精細ナル觀察ヲ遂ゲ詳説セルハ西歷千八百六十八年コペンハーゲン府ノウヰルヘルムマイエル氏 *Wilhelm Meyer* ニシテ學童二千人ニ



就キ約一%ノ增殖症ヲ見タリト云ヒ爾後歐米諸家ノ統計ニ依レバ遙ニ多數ナリト謂フ本邦ニ於テハ中村豊氏岡田博士ノクリニクニ來リシ年齡不同ノ外來患者八千名ニ就キ之ヲ調査シ二二%ヲ算スト謂ヘリ(大日本耳鼻咽喉科會報第十卷第四號)

**原因** 未ダ不明ノ點多キモ遺傳的關係ノ存スルハ殆ンド疑フ可カラザルニ似タリ一家族ノ兒童二三相次テ本病ニ罹ルモノアルハ屢々實驗スル所ナリ其他上部氣道ノ急性疾患譬ヘバ麻疹猩紅熱流行性感胃實扶的里百日咳等ハ本病ノ發生ヲ促スモノナリ

本病ハ殆ンド全ク小兒病ニシテ五歲乃至十五歲ノ學齡時期ニ最モ多ク成人ニ發スルハ甚ダ稀ナリ之レ咽頭扁桃腺組織ハ春機發動期ニ達スレバ退行變性ニ趣クモノナレバナリ而シテ罹病ニハ男女ノ關係ナク又貧富ノ別ナシ

**解剖的變化** 網狀結締織ト多數ノ淋巴細胞トヨリ成リ表面圓柱或ハ顔毛上皮ヲ以テ被ハレ處々ニ濾胞ヲ存ス其他特發出血ニ因スル黃色素

ヲ遺殘シ陳舊症ニ在テハ結締組織增殖並ニ血管壁ノ肥厚及ビ硝子樣變性ヲ見ル

**症候** 甚ダ多種ナルモ鼻閉塞ヲ以テ主徵トス爲ニ夜間鼾聲睡眠不安齶內煩悶等ヲ來シ加之突然蹶起スルコトアリ其他言語ハ共鳴失調ノ結果閉鼻聲トナリ又常ニ口腔呼吸ヲ營爲ス

此クノ如ク鼻呼吸障礙アリ而カモ幼時ニ於テ持續スルトキハ一種特異

第三百四十四圖  
腺樣增殖症患者之顔貌  
(岡田博士ノ教室ニ於テ實驗)



ノ顔貌ヲ呈スルニ至ル即チ口腔ハ常ニ開放シ顏筋弛緩鼻唇溝消失シ顏面ノ表情の機能ニ乏シク外鼻發育完全ナラズシテ鼻梁扁平トナリ外鼻孔ハ狹小ス屢々鼻汁ノ刺戟ニ依リ其近圍糜爛濕疹ヲ生ジ一



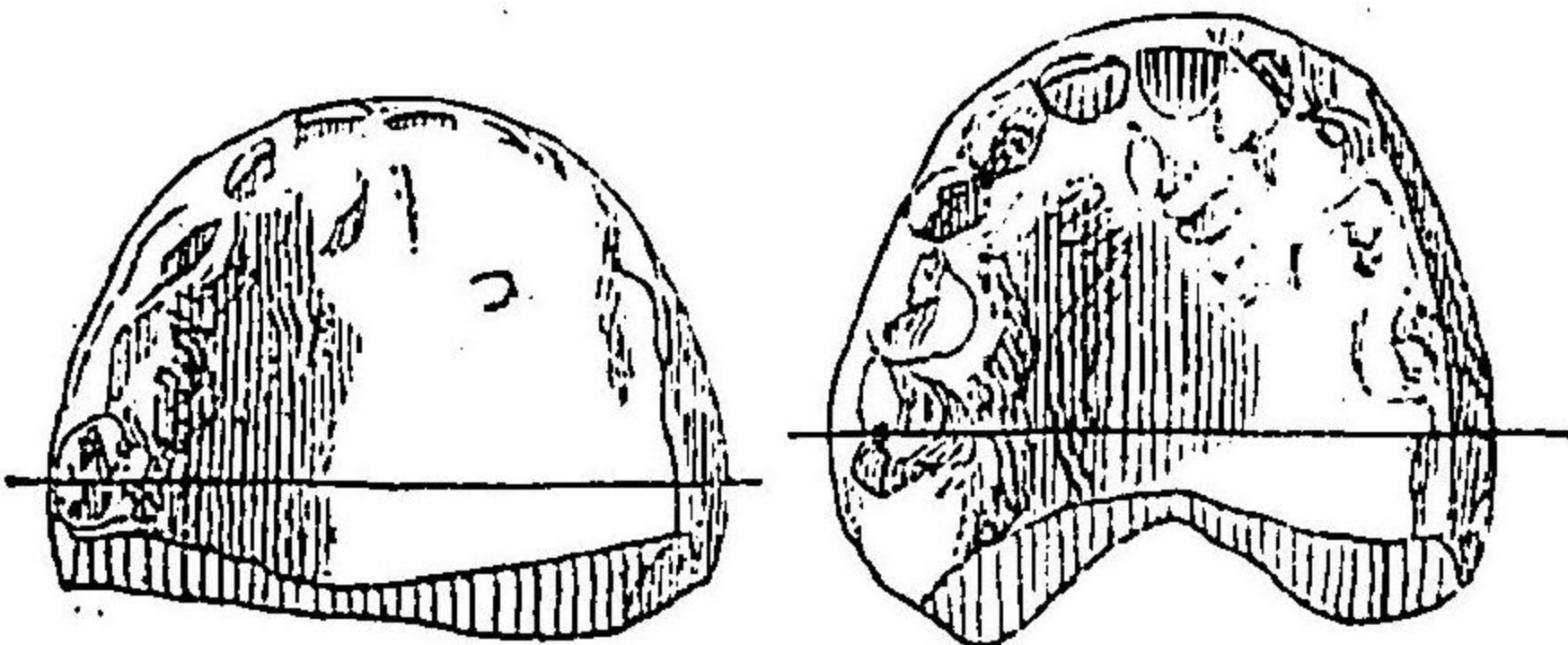
「アデノイド」性顔型

見●恐●貌●ヲ●呈●ス●之●レ●ヲ●ア●デ●ノ●イ●ド●性●顔●型●*Habitus adenoides*ト稱ス  
 精●神●發●育●亦●遲●滯●シ●記●憶●思●考●力●ノ●減●退●作●業●上●ノ●倦●厭●注●意●散●亂●頭●重●頭●痛●等  
 所●謂●鼻●性●精●神●機●能●障●碍●*Apnoea nasalis*アリ  
 合●併●症●及●繼●發●性●主●要●ナル●ハ●聽●官●障●碍●ニ●シ●テ●屢●歐●氏●管●閉●塞●症●急●性●及●慢  
 性●中●耳●加●答●兒●急●性●及●慢●性●化●膿●性●中●耳●炎●ヲ●發●シ●耳●鳴●難●聽●及●ビ●耳●漏●等●ヲ●有  
 ス●爾●餘●上●部●氣●道●ノ●加●答●兒●症●亦●多●發●ノ●合●併●症●タ●リ●鼻●腔●ハ●時●ト●シ●テ●廣●潤●ナ  
 リ●ト●雖●モ●屢●甲●介●粘●膜●ノ●單●純●充●血●性●腫●脹●或●ハ●亘●久●性●肥●厚●ニ●因●リ●テ●狹●窄●セ  
 ラ●レ●鼻●汁●分●泌●旺●盛●ト●ナ●リ●鼻●出●血●ヲ●來●ス●コ●ト●稀●ナ●ラ●ズ●咽●頭●ハ●絶●ヘ●ズ●流●下  
 セ●ル●分●泌●物●ノ●刺●戟●ニ●因●リ●慢●性●咽●頭●炎●ヲ●繼●發●シ●又●口●蓋●扁●桃●腺●肥●大●側●索●肥  
 厚●及●舌●扁●桃●腺●肥●大●症●ヲ●合●併●ス●其●他●特●異●ノ●畸●變●硬●口●蓋●ニ●現●ハ●ル●即●チ●硬●口  
 蓋●ハ●狹●長●ト●ナ●リ●穹窿●增●強●シ●齒●列●不●正●門●齒●ハ●前●方●ニ●突●出●ス●胸●廓●ノ●發●育●亦  
 完●全●ナ●ラ●ズ●屢●麻●痺●胸●*Purpulischer Thorax*ヲ呈ス  
 尙●ホ●時●ト●シ●テ●單●純●性●水●泡●性●或●ハ●濾●胞●性●結●膜●炎●ヲ●發●シ●且●ツ●營●養●不●良●全●身  
 蒼●白●貧●血●ヲ●呈●ス●腺●增●殖●性●惡●液●質●*adenoidé Kataris*

第三百五十五圖

第一圖

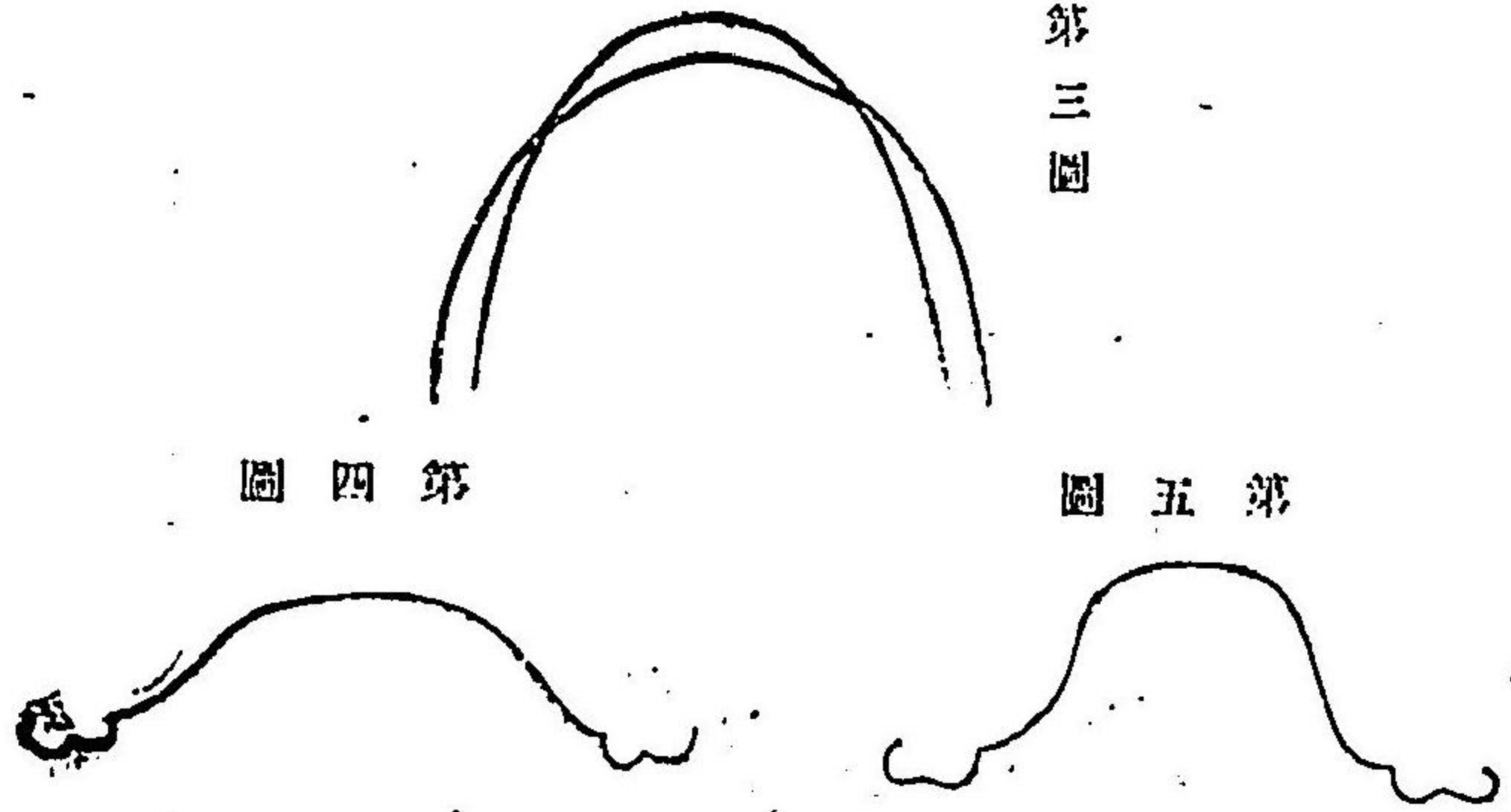
第二圖



第三圖

第四圖

第五圖



第一圖 三歳ナル健康女兒ノ口蓋「ギブス」型  
 第二圖 同年齡ナル腺樣增殖症ノ爲鼻呼吸絶セル患兒ノ口蓋「ギブス」型  
 第三圖 前兩者ノ口蓋ヲニシテ廣キハ健兒狹キハ患兒ニ屬ス  
 第四圖 第一圖ノ第二白齒部ニ於ケル前額断面  
 第五圖 第二圖ノ同一断面



遺尿症アルモ  
シテ検査スベ

又茲ニ注意スベキハ夜尿症 Enuresis nocturna ノ往々本病ニ基因スルモノ  
アルコトナリ  
著者ハ近時本症ノ加療ニ因リ癲癇様發作ノ偶然全治シタル一症例ヲ實

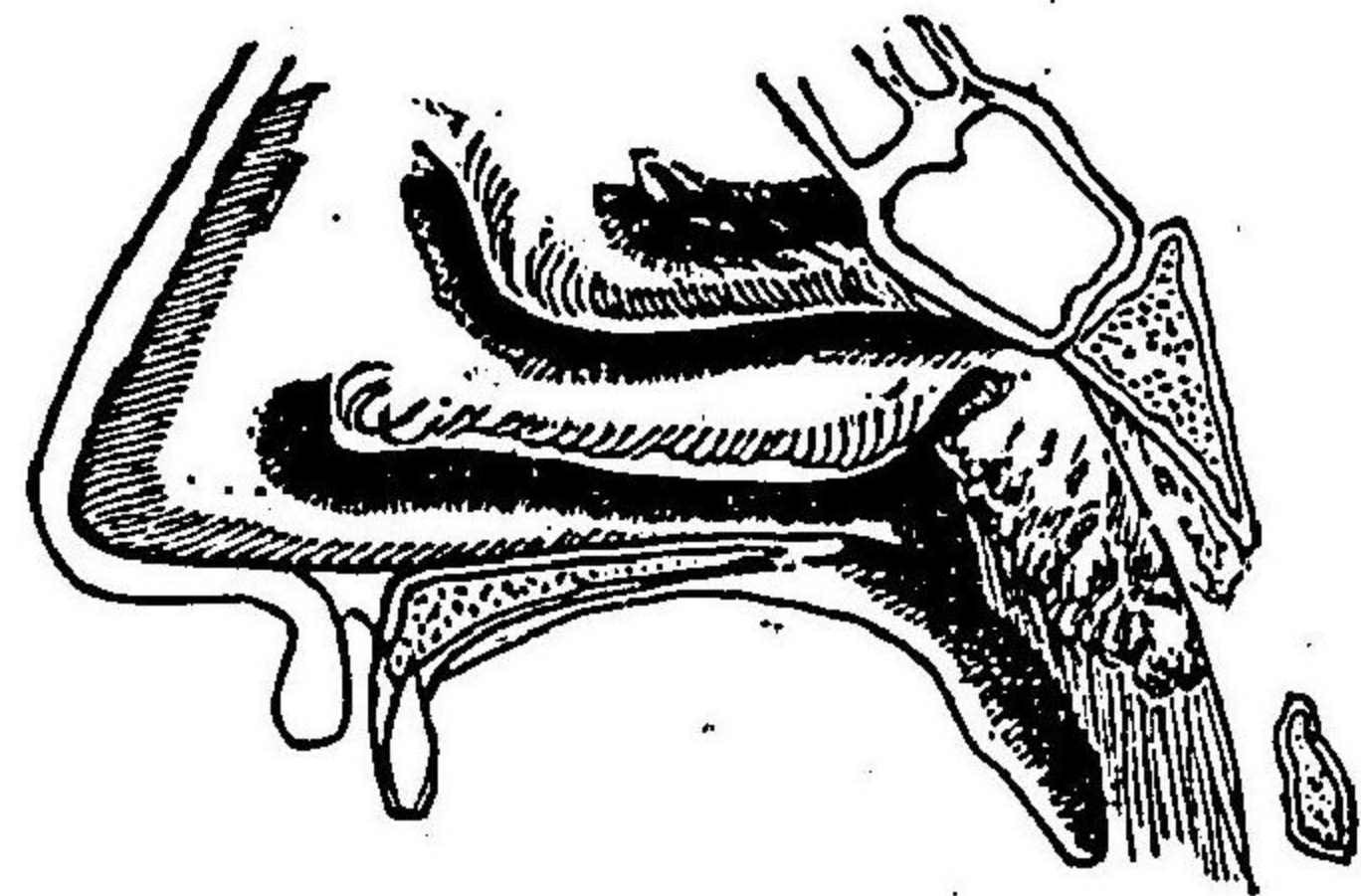
第三百六十六圖

切頭扁桃腺  
ヲ除ク



第三百七十七圖

縦斷ニ於テ  
高度ノ腺様増殖症



驗セリ  
他覺的症候  
後鼻鏡檢法ヲ行フニ口蓋帆ノ後上方ニ於テ通常粘液ヲ以

テ被覆セラレタル腫瘤ノ存在ヲ見ル(附圖第三表ノ二參照表面凹凸不正  
通常數個ノ縱走深溝ニ據リ分葉セラルル其高度ナルモノハ胡桃大ニ達シ  
全ク後鼻竅ヲ閉鎖ス  
指頭觸診上示指ニ指甲ヲ裝シ其損傷ヲ防グベシ)鼻咽腔ニ於テ通常柔軟  
ニシテ壓碎シ得ベキ脆弱ノ物體ヲ認ム其感恰モ天鵝絨ニ觸ル、ガ如シ  
時トシテ稍硬固ナルアリ是レ結締織増殖ノ著甚ナルニ基因ス  
前鼻鏡檢査法ニ依ルモ往々看視スルヲ得ルコトアリ然レドモ熟練ヲ要  
ス

診斷 前述ノ自他覺的症狀ニ注意スレバ診斷容易ナリ然レドモ時トシ  
テ鑑別ヲ要スベキモノアリ左ノ如シ  
(一)鼻咽腔茸腫 表面平滑ニシテ硬度彼レニ比スレバ著シク強大ナリ  
(二)咽後膿瘍 常ニ疼痛及ビ嚥下困難ヲ伴フ  
(三)肉腫及ビ淋巴肉腫 近隣組織ヲ壓迫崩壊スルノ特性アリ  
(四)白血病性腺腫 腺様増殖症ニ酷似セル症狀ヲ呈スルモ全身ノ蠟樣蒼



白色ヲ呈スルト血液検査ニ依リ本病特異ノ變化アルトニ因リ區別スルヲ得ベシ

**豫後** 本症ハ一定ノ年齢即チ春機發動期ニ達スレバ萎縮スルコトアリト雖ドモ其就學時期ニ於テ智育ノ發達ヲ妨害スルモノナルヲ以テ空シク手術ヲ遷延スベキニ非ズ然レドモ本症ハ時トシテ再發ヲ來ス

**療法** 手術的切除法ヲ以テ有効ナリトス

先ツ局部ニハ千倍アドレナリン及ビー〇・%古加乙涇液ヲ塗布シ約十分時ノ後上圖ノ如キ切除器ヲ口腔ヨリ挿入シ切除スベシ此際出血甚シカラズ後出血亦概シテ稀有二屬ス器械ノ撰擇ハ人ノ

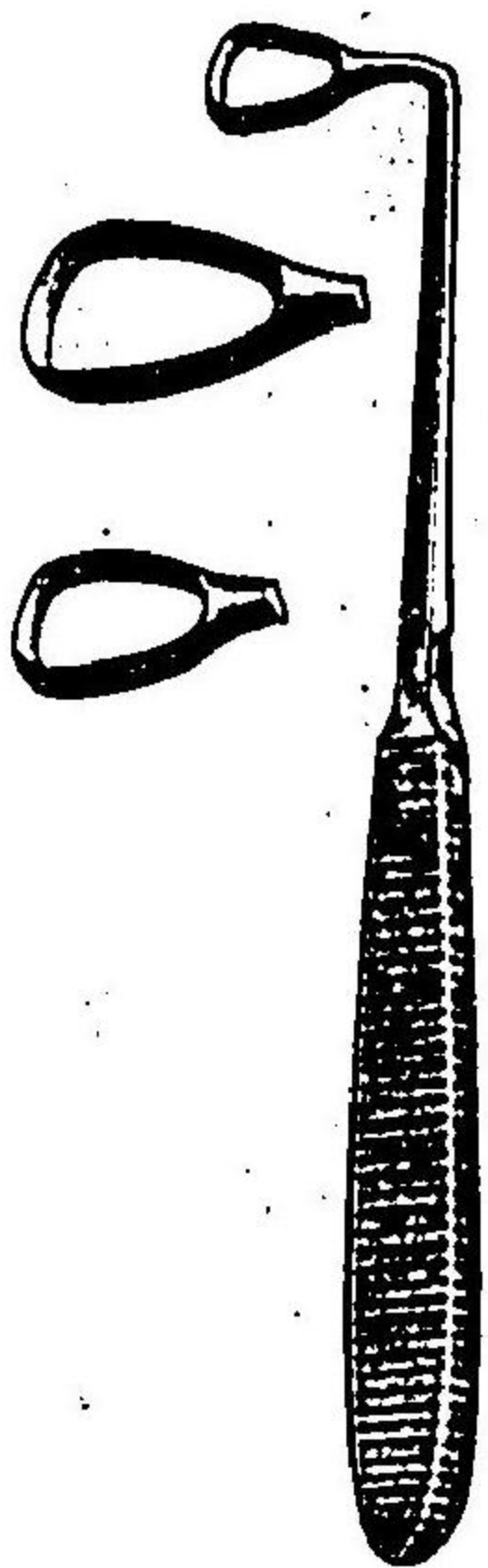
圖八十三百第  
氏ンマクッペ  
刀狀輪



圖九十三百第  
氏ンイタストッゴ  
刀狀輪



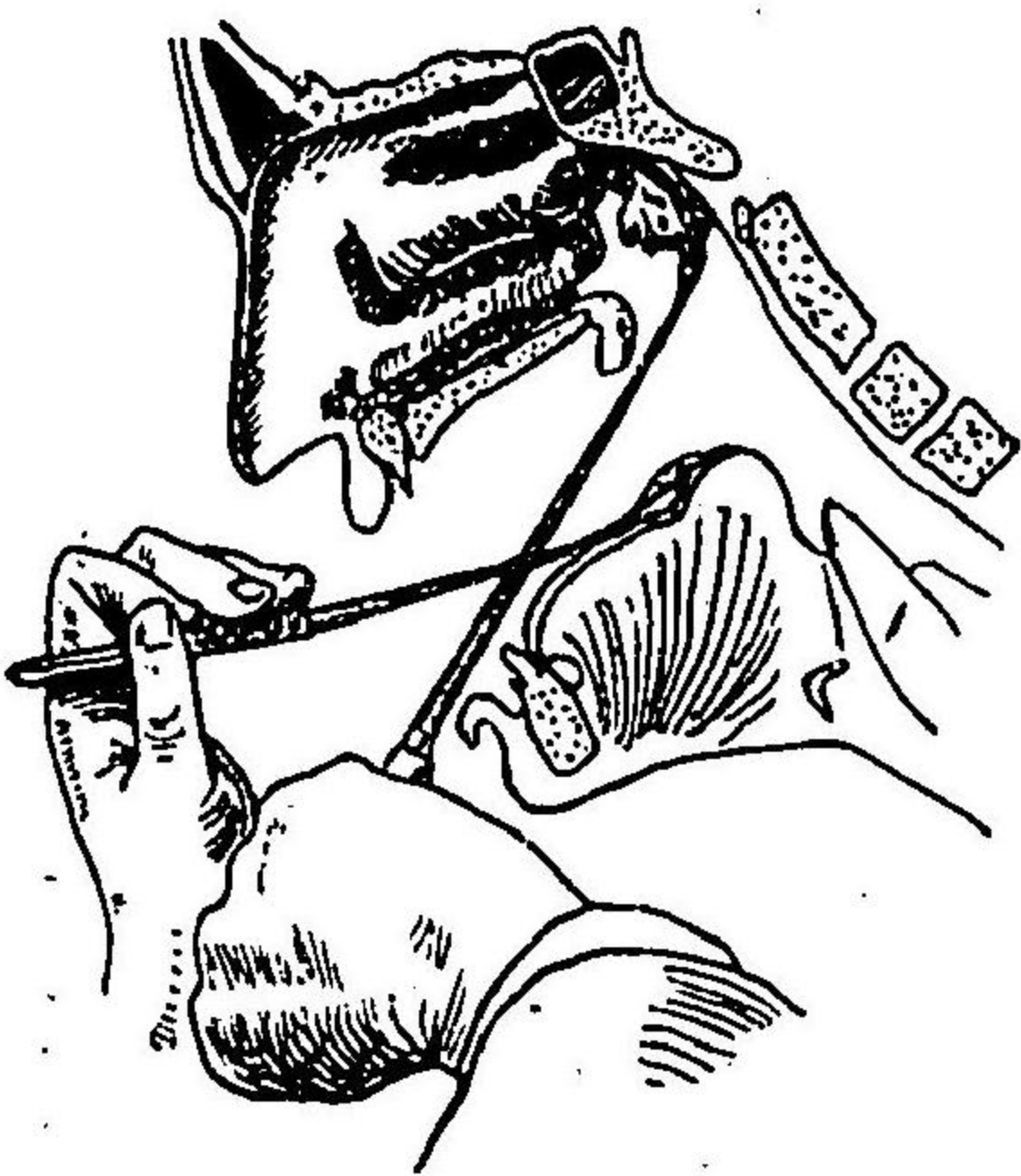
圖十四百第  
氏ンマトルハ  
刀狀輪面側



好ム所ニ從フベキモ著者ハベックマン氏輪狀刀ヲ以テ最も便利ナリト信ズ何トナレバ及部ノ

彎曲鼻咽喉腔穹窿部ニ適合スルヲ以テナリ而シテ本症ノ高度ナルモノハ

圖一十四百第  
チ刀狀輪氏ンマクッペ  
ス示テ法術手ルキ用



該組織ノ増殖歐氏管開口部ニ亘リ蔓延スルヲ以テ尙ホ側面刃刀(第百四十圖)ヲ以テ爬除スルノ必要アリ術後兩三日間ハ熱性食餌ヲ禁ジ合嗽ヲ厲行セシムベシ



鼻咽喉纖維腫  
一名模範的鼻  
咽喉纖維腫

### 鼻咽喉纖維腫 一名模範的鼻咽喉茸腫

Nasennachfibrom or. typischer Nasennachempolypen.

本病ハ後頭骨基礎部ノ基礎軟骨纖維又ハ其近傍ヨリ發生シ主トシテ春機發動期前ノ年齡ニ來ル且ツ男子ニ多ク女性ニ來ルハ稀ナリ

本病ノ特異ナル點 硬度甚ダ大ニシテ其發育力猛烈鼻咽喉ヲ充實スレバ之レニ隣接セル諸腔ニ突起ヲ發シ漸次増大シテ壓迫性骨質崩壞ヲ來シ上顎竇或ハ眼窩内加之腦腔ニ蔓延スルコトアリ又高度ノ出血性ヲ有シ一定ノ年齡即チ春機發動期ニ至レバ退行萎縮ヲ來スコト屢ナリ

**症候** 著明ノ鼻呼吸障礙アリ代償的口腔呼吸ヲ營ミ言語變調アリ所謂閉塞性鼻聲ヲ發シ且ツ屢大出血ヲ來シ鼻孔及ビ咽喉ニ流出ス

發育著甚ニシテ鼻内突起ヲ生ズレバ外鼻及ビ顔面ニ醜形ヲ來シ咽頭突起ヲ生ズレバ嚥下及ビ呼吸困難ヲ發シ又蝴蝶上顎茸腫ハ三又神經痛、鬼眼症、視力及ビ眼球運動障礙並ニ咀嚼困難ヲ惹起シ頭蓋腔ニ侵入スレバ

頭痛、眩暈、嘔吐、嗜眠又ハ不眠、斜視、弱視及ビ脈搏緩徐等ノ症狀ヲ發ス

此ノ如ク本病ハ臨床上惡性腫瘍ニ類似ノ症狀ヲ有スルモ決シテ轉移ヲ來サザルコト又近隣組織ヲ浸潤崩壞スルノ性ヲ有セザルハ良性腫瘍ニ算入スベキ要件タリ

他覺的檢查上鼻腔内ニハ特殊ノ變狀ナキナリ或ハ淡紅乃至蒼白色ノ腫瘍突起ヲ認ムルコトアリ此ハ接觸ニ依リ容易ニ出血ス口腔ヲ檢スルニ發育高度ノモノニ在テハ腫瘍ノ一部軟口蓋後面ヨリ下方ニ露出スルコトアリ否ラザルモ軟口蓋ヲ前方ニ壓排ス之ニ反シテ小ナルモノハ後鼻鏡檢查法ニ依リ表面平滑ノ類球形腫瘍ヲ認ム(附圖第三表ノ三參照)

**類症鑑別** (一) 後鼻竇綠茸腫及ビ鼻腔ヨリ鼻咽喉ニ垂下セル所謂假性鼻咽喉茸腫ト誤ルコトアリ然レドモ此等ハ有莖性ニシテ而カモ通常細長ナリ模範的茸腫ニ在リテハ幾ンド否ラズ廣汎性基底ヲ有ス

(二) 鼻咽喉肉腫トノ鑑別往々困難ナリ之ヲ確診スルニハ診斷の一部切除ヲ行ヒ組織學的檢查ニ附スベシ



**豫後** 時トシテ危險症ヲ喚起スルコトアリ

**療法** 姑息的(待期的)ト根治的療法トノ二種ニ分ツ

(一)姑息的療法トシテハ電氣分解法又ハ電氣灼斷法ヲ行ヒ呼吸及ビ嚥下困難ヲ除去シ得ルノ程度ニ止メ麥角亞砒酸等ノ内服ヲ試ムルコトアリ

(二)根治手術トシテハ豫備氣管切開術ヲ行ヒ次デ外鼻竇轉上顎骨若クハ口蓋板ノ一時的截開ヲ施シ腫瘍ヲ根底ヨリ切除スルニ在リ本手術ハ危險ナキニ非ズ且ツ又容易ナラズ

鼻咽腔惡性腫瘍

Bösartige Geschwülste des Nasenrachens

肉腫

一、肉腫 Sarcom

鼻咽腔肉腫ハ鼻腔或ハ口部咽腔ヨリ蔓延スルモノ多ク又鼻咽腔纖維腫ヨリ發生スルモノアリ(纖維肉腫)其他稀ニ特發性肉腫ヲ生ス(圓形細胞肉腫、紡錘形細胞肉腫及ビ内皮腫)

**症候** 始メハ何等ノ症狀ヲ呈セズ著明ノ大ニ達スレバ恰モ鼻咽腔纖維

癌腫

腫ニ類似ノ微候ヲ發ス唯其發育一層迅速ナルト、近隣諸腔ニ蔓延スルコト著甚ナルト、出血及ビ潰瘍形成ノ傾向大ナルト、惡液質ヲ來シ易キトノ差異アリ

**二、癌腫 Carcinom.** 肉腫ニ比スレバ遙ニ稀レニ見ル所ナリ時トシテ特有ノ腺腫脹ヲ伴ハザルコトアリ

**診斷** 肉腫、癌腫共ニ早期ニ於テ試驗的一部切除ヲ行ヒ顯微鏡検査ヲ行ヒ確診スベシ

**豫後** 不良再發ハ殆ンド免レ難シ

**療法** 外科的手術ヲ行フベシ

鼻咽腔結核

鼻咽腔結核 Tuberculosis rhinopharyngis.

續發性鼻咽腔結核ハ敢テ稀ナラズ即チ肺又ハ喉頭結核ヨリ續發シ或ハ口部咽腔ノ同症ニ併發ス

特發性鼻咽腔結核ノ報告ハ甚ダ稀有ニ屬ス之レ局所的症候ノ著明ナラ



ザルト、本病患者ニ在テハ上部氣道粘膜ノ知覺甚ダ過敏ニシテ局部ノ確診困難ナルトニ因ル者ナリ然レドモ特發性潜在性咽頭扁桃腺結核 *Pil. mure latente Tuberculosis der Rachentonsille* ノ存スルコトハ解屍ニ依リ確認セラレタリ

**症候** 鼻腔ニ於ケルガ如ク浸潤腫瘍及ビ潰瘍ヲ形成ス就中後者ヲ以テ最多トス時トシテ自覺症狀ヲ呈セザルコトアルモ潰瘍ヲ生ズルニ至レバ多クハ耳部ニ放散スル疼痛異物感及ビ輕度ノ嚙下痛等ヲ發ス

**診斷** 鼻腔結核章下參照  
**療法** 同上

鼻咽腔梅毒

第一期梅毒

第二期梅毒

鼻咽腔梅毒 *Syphilis rhinopharyngis*

**第一期梅毒** 有毒ナル歐氏管カテーテルノ挿入ニ因リ硬性下疳ヲ發スルコト取テ稀ナラズ

**第二期梅毒** 亦比較的屢見ル所ニシテ粘膜ハ斑紋狀若クハ廣汎性潮

第三期梅毒

紅ヲ呈シ(微毒性紅斑)腫脹及ビ分泌過多ヲ伴フ其ノ他白色又ハ灰白色ノ被膜ヲ沈着シ少シク隆起スルモノアリ(扁平胼胝腫)

**第三期梅毒** 譏謔腫同浸潤及ビ潰瘍ハ稀ナラズ就中潰瘍ハ屢見ル所ニシテ隨所發生スベシト雖ドモ軟口蓋上壁ヲ以テ好發部位トス其他又穹窿部側壁後壁鼻中隔後緣及ビ口部咽腔ニ蔓延ス

**症候** 嚙下時ノ疼痛ハ屢劇甚ニシテ爲ニ著シク營養ヲ害スルコトアリ其他後頭部ノ疼痛及ビ耳痛ヲ訴ヘ分泌物ハ常ニ惡臭ヲ放チ時トシテ著シク多量ナルコトアリ

**繼發症** 潰瘍ハ癩痕形成ノ下ニ治癒スルヲ以テ屢高度ノ癒着ヲ來ス其他消化器障礙及ビ惡液質ヲ發ス

**療法** 驅梅毒法ノ傍ラ局所ニハルゴール氏液又ハ三・一五・%「プロタルゴール」液塗布法ヲ行フベシ



口部及ビ喉頭  
部咽腔ノ疾患

## 第二章 口部及ビ喉頭部咽腔ノ疾患

Die Krankheiten des Mund- und Kehlkopfes der  
Rachenhöhle.

急性咽頭加答  
兒

### 急性咽頭加答兒一名加答兒性安魏那

*Pharyngitis acuta catarrhalis* or. *Angina catarrhalis*.

**原因** 急性鼻加答兒ニ於ケルガ如ク感冒諸種ノ傳染病例ヘハ麻疹猩紅熱天然痘インフルエンザ百日咳等ニ於テ發シ又鼻腔及ビ鼻咽腔等隣接器官ノ炎症傳播ニ由リテ來ル其他咽頭部ニ於ケル化學的温熱的及ビ器械的刺戟モ亦タ本病ノ原因タリ

主トシテ春秋及ビ冬季ニ多發シ往々流行性ニ來ル

**症候** 時トシテ著明ノ自覺症ヲ呈セザルコトアリ多クハ惡寒ニ次ギ輕度乃至中等度ノ發熱アリ一二日ニシテ消散ス患者ハ全身遠和頭重頭痛

等ノ外初期ニ於テ患部ノ異常乾燥感若クハ疼痛ヲ訴ヘ次デ嚥下困難ヲ發シ分泌物或ハ増加シ或ハ減少ス且ツ下顎隅部ノ淋巴腺腫大シ壓痛アリ其他殆ンド常ニ鼻腔及ビ鼻咽腔ノ急性加答兒ヲ併發スルヲ以テ其症狀ヲ併有ス

咽頭ヲ檢スルニ粘膜一般ニ潮紅腫脹スルコトアリ時トシテ病變側壁ニ顯著ニシテ歐氏管咽頭皺襞著シク腫起現出スルコトアリ之ヲ急性側索咽頭炎 *Pharyngitis acuta lateralis* ト云フ或ハ發炎セル濾胞ノ近隣ニ於テ腫脹ノ限局スルコトアリ之ヲ急性濾胞性或ハ肉芽性咽頭炎 *Pharyngitis acuta follicularis granulosa* ト云フ時トシテ又口峽部ノ病變顯著ナルアリ然ルトキハ後口蓋弓及ビ懸壺垂ハ浮腫狀ニ腫大ス其他口蓋扁桃腺多クハ稍腫大ス

豫後 佳良

**療法** 重症ノモノニハ靜臥ヲ命ジ液性食餌ヲ與ヘ「アスピリン」安知必林安知歌貌林撒曹等ノ發汗解熱劑ヲ内服セシメ局所療法トシテ硝酸銀「ア



ロタルゴール、格魯兒亞鉛、メントール、華攝林等ノ塗咽ヲ行ヒ且ツ頻回含嗽セシムベシ

咽頭ノ乾燥感甚シキモノニハ鹽素酸、加里錠、又ハ安息香酸ヲ服用セシメ嚥下困難ニ對シテハ薄荷腦ヲ投與ス

其他頸部ノブリーズニツ氏器法亦疼痛ヲ緩解スルノ効アリ

處方例

- 七十九、「アスヒリン」 各〇・五  
乳糖
- 右混和爲一包與六包  
一日三回一包宛服用
- 八十、格魯兒亞鉛 二〇—三〇  
偏里設林 三〇〇  
糖水 七〇〇  
右爲塗布料一日一回宛
- 八十一、安息香酸 〇・六  
達刺侃爲末 〇・四  
白糖 各適宜  
單舍
- 右爲錠劑十個一日三回三個宛服用
- 八十二、明礬 二〇  
薄荷水 二〇〇  
水 四〇〇〇  
右爲含嗽料一日分
- 八十三、「メントール」 二〇  
最白流動「バラフオン」 三〇〇  
右爲塗布料一日乃至二回塗咽
- 八十四、鹽素酸加里 〇・三  
達刺侃爲末 〇・四  
白糖 各適宜  
單舍

急性口蓋扁桃腺炎

急性口蓋扁桃腺炎

Tonsillitis acuta or. Angina tonsillaris.

急性咽頭加答兒ノ一分症トシテ口蓋扁桃腺ノ多少腫大スルハ前條既ニ記載セルガ如シ而シテ今茲ニ急性扁桃腺炎トシテ掲グルハ之レト趣ヲ異ニスルモノニシテ口蓋扁桃腺ノ實質炎ヲ意味スルモノナリ

(甲) 腺窩性扁桃腺炎 Tonsillitis lacunaris.

原因 本病ハ一種ノ急性傳染性口蓋扁桃腺炎ニシテ時トシテ急性關節

健麻質斯ノ前驅症タルコトアリ

主トシテ二十歳ヨリ三十歳ノ成人ニ發シ小兒期之ニ次グ男女ノ區別ナシ扁桃腺ノ先天性及ビ後天性肥大ハ本病ニ罹リ易キ素因ヲナス高齡者

腺窩性扁桃腺炎



ニ稀ナルハ扁桃腺ノ生理的萎縮ヲ來スニ因ルモノナリ  
 氣候ノ關係、大體ニ於テ濕寒ノ天候及ビ氣温ノ劇變ハ本病發生ノ誘因  
 タルコトアリト雖モ統計ノ示ス所ニ依レバ八月九月ニ最モ多ク十月十  
 一月十二月一月七月之ニ次ギ春期ニ最モ少キヲ見ル  
 多クノ學者ノ唱フル所ニ從ヘバ本病ハ僂麻質斯及ビ痛風性素因アルモ  
 ノニ發シ易ク又一回安魏那ヲ經過シタルモノハ再三之ニ罹リ易シ之ヲ  
 常習性安魏那 *Angina habitus* ト云フ  
 又特ニ注意スベキハ本病ノ鼻腔内手術後屢發スルノ點ナリ殊ニ電氣燒  
 灼法後ニ來ルヲ多シトス  
 其他本病ハ往々流行性ニ襲來ス同一家族内學校及ビ軍隊等ニ於テ然リ  
 現今特殊ノ病原菌未ダ確定セザルモ「ストレプトコッカ」及ビ「スタフヒロ  
 コッカ」ハ最モ屢々分物中ニ發見セラル又一種ノ「ディプロコッカ」ヲ以テ病  
 原菌ナリト主張スルモノアリ  
 本病ヲ以テ實扶帝里ニ屬スベキモノナリト唱道セシモノアルモ何等ノ

關係ナシ

症候 本病ハ常ニ俄然惡寒戰慄ヲ以テ起リ次デ發熱ヲ來ス甚シキハ四  
 十度ヲ超フルコトアリ之レト同時或ハ少シク之レニ前驅シテ咽頭部疼  
 痛ヲ發ス通常兩側稀ニ偏側ニ於テ之ヲ感シ劇烈ニシテ安眠ヲ妨ゲ且ツ  
 嚥下ニ因リ著シク増劇シ加之屢々耳内ニ波及ス爲メニ顔貌苦惱ノ狀ヲ呈



扁桃腺ニ於ケル四  
 個ノ腺體及ビ下  
 部ニ於テハ分泌  
 物ノ融合セルヲ  
 示ス



扁桃腺ノ縦  
 斷面ニシテ腺體  
 セルヲ示ス

シ手ヲ以テ自ラ耳部ヲ蔽  
 フコト稀ナラズ言語亦明  
 瞭ナラズ脈搏疾速ナリ其  
 他全身症狀重態ニシテ頭  
 痛腰痛ヲ訴ヘ口渴著シク  
 舌ハ白苔ヲ衣シ屢々口内惡  
 臭ヲ放ツ咽腔ヲ檢スルニ  
 口蓋扁桃腺ハ著シク腫大  
 表面潮紅シ腺窩ニ一致ス

第四百二十四圖 第四百三十四圖

扁桃腺炎



ル部ニ白色乃至帶黃白色ノ小點狀若クハ瓊瑤大膿點散在ス又屢相互聯合シテ偽膜狀トナリ扁桃腺ノ表面ヲ被覆スルコトアリ其觀恰モ實扶帝里ニ髣髴タリ(附圖第四表參照)

時トシテ病變側索ニ及ビテ其表面ニ黃白色ノ膿點ヲ散見スルコトアリ下顎隅角部淋巴腺多クハ腫脹シ壓痛アリ

經過及繼發症 佳良ノ經過ヲ取ルモノニ在テハ數日ニシテ發熱及ビ疼痛消退シ扁桃腺ノ腫脹發赤モ亦漸次減退シ何等ノ障礙ナクシテ週後ニ治癒スベシ

然レドモ亦屢體温一旦常度ニ復シ咽喉痛減退セルニ拘ラズ一二日ヲ經テ再ビ體温昇騰ト共ニ扁桃腺周圍炎ヲ發シ周圍膿瘍ヲ續發ス又稀ニ扁桃腺内膿瘍ヲ生ズルコトアリ或ハ炎症側頸部ニ蔓延シ漸次下行シテ所謂ルードウク氏安魏那 *Angina Ludovici* トナリ又ハ喉頭水腫ヲ繼發シテ死スルコトアリ

其他本病經過中稀ニ蛋白尿ヲ來シ(八乃至十四日間持續ス)又ハ脾腫ヲ觸知スルコトアリ

診斷 通常容易ナリトス然レドモ膿栓ノ相融合シテ偽膜ヲ形成スルモノハ實扶帝里ト誤診シ易シ此際卷綿子ヲ以テ其一部ヲ拭除スルニ本病ニ在テハ容易ナルモ實扶帝里ニ在テハ困難ニシテ強ユレバ粘膜ノ實質缺損及ビ出血ヲ來ス其他細菌學的研索ヲ行ヒ又經過ヲ觀察シテ區別スベシ

遷後 概ネ佳良然レドモ重症繼發病アルモノハ時トシテ不良ナルコトアリ

療法 本病ノ特效藥トシテベールレンクル氏ハ規尼涅ヲ賞用ス初期ニ於テ比較的大量ヲ用ヒ(大人一回量〇七小兒ニハ年齡ニ應ジ適當量)速ニ治癒スルハ屢見ル所ナリ其他撒曹(ザロル)安知必林(ザリピリン)等亦應用セラル

局所療法トシテアドレナリン、プロクターゴール、硝酸銀、古加乙涅液等ノ塗布ヲ行フ尙ホ氷片ヲ含マシメ頸圍ニ氷巻法若クハ温巻法ヲ施シ合嗽



料ヲ與フベシ  
 經過遷延シ扁桃腺周圍炎ヲ發スレバ之レヲ頓挫セシムルニハ瘡瘡木丁  
 幾ノ内服ヲ以テ最モ有効ナリトス鹽剝ノ内用亦賞用セラル(次章參照)  
 其他周圍膿瘍若クハ腺質内膿瘍ヲ形成スレバ切開ヲ加フベシ  
 常習性安魏那ヲ豫防スルニハ肥大セル扁桃腺ヲ切除シ又ハ之ニ兼ヌル  
 ニ切斷面ノ燒灼法ヲ以テス若シ肥大著シカラザル時ハ燒灼子ヲ以テ刺  
 灼シ癢痕ヲ結バシムルヲ以テ有効ナリトス

濾胞性扁桃腺炎

(乙) 濾胞性扁桃腺炎 Tonsillitis follicularis.

**原因** 本病ハ傳染性ヲ有スルモノニシテ往々流行的ニ來リ急性體麻質  
 斯ト親密ノ關係ヲ有ス  
 壯年殊ニ男子ニ多ク老人及ビ女子ニ稀ナリ  
**症候** 多クハ俄然惡寒ニ伴ヒ發熱ヲ來シ咽頭痛アリ嚙下時増劇ス間々  
 耳内ニ波及スル疼痛ヲ訴フルコトアリ之ハ多ク鼻咽腔扁桃腺炎ノ併發

急性扁桃腺周圍炎及ビ周圍膿瘍

スルニ因ルモノナリ  
 咽腔ヲ檢スルニ多クハ偏側時トシテ兩側口蓋扁桃腺ニ高度ノ發赤腫脹  
 アリ且ツ表面ニ於テ集簇性或ハ散在性ノ黃色圓形ニシテ僅ニ突隆シ上  
 皮ヲ以テ被覆セラレタル膿點ヲ見ル其破潰スルヤ潰瘍ヲ形成ス之ハ濾  
 胞ノ化膿ニ基因スルモノナリ又時トシテ炎症周圍ニ蔓延シフログモロ  
 ネ性扁桃腺炎トナリ繼デ扁桃腺膿瘍ニ轉ズルコトアリ  
**豫後** 概ネ良  
**療法** 安靜臥床ヲ命ジ甘汞ヲ投ジテ炎症ヲ腸ニ誘導シ氷片ヲ含マシメ  
 頸圍ニ氷巻法ヲ行ヒ規尼涅ヲ内服セシム之ニ依リ病勢頓挫治癒ニ赴ク  
 コト多シ  
 局所療法トシテ5%プロタルゴール液或ハ硝酸銀液ノ塗布及ビ明礬鹽  
 剝液等ノ含嗽ヲ厲行セシム

急性扁桃腺周圍炎及ビ周圍膿瘍

Peritonsillitis acuta et Peritonsillarabscess.



**原因** 本症ハ殆ンド常ニ急性實質性炎(腺窩性扁桃腺炎)ニ續發ス  
**症候** 腺窩性扁桃腺炎ノ經過中體温一旦平常ニ復シ局部ノ疼痛殆ンド  
 消散シタル後再び俄然惡寒戰慄ヲ以テ發熱シ患側ノ扁桃腺部ニ劇痛ヲ  
 來シ屢耳内ニ波及スル疼痛ヲ感シ嚥下極メテ困難ニシテ時トシテ食餌  
 殊ニ流動體ノ一部ハ鼻腔ニ逆流シ或ハ全ク嚥下スル能ハザルニ至ルコ  
 トアリ爲ニ精神著シク過敏トナリ安眠ヲ得ズ營養大ニ障礙セラレ  
 咽腔ヲ檢スルニ開口著シク制限セラレ通常偏側ノ口蓋弓高度ノ發赤腫  
 脹ヲ呈シ軟口蓋ニ及ブ口蓋扁桃腺ハ此際潮紅セルモ腫大ハ缺如シ或ハ  
 僅ニ存スルノミ而シテ該腫脹部ハ當初硬固ニシテ壓痛甚シ扁桃腺周圍  
 炎然レドモ幾モナクシテ膿潰シ波動ヲ呈スルニ至ル扁桃腺周圍膿瘍近  
 隣部ハ炎性浮腫ヲ呈シ懸壜垂及ビ健側ノ口蓋弓亦著シク膨大シ口蓋帆  
 ノ運動大ニ減弱ス而シテ周圍膿瘍ハ時トシテ前後ノ兩口蓋弓及ビ扁桃  
 腺上窩ニ亘ルコトアリ(扁桃腺周圍膿瘍 Abscessus peritonsillaris universalis)  
 又時トシテ前口蓋弓若クハ稀ニ後口蓋弓ニ限局スルコトアリ(扁桃腺前

若クハ後部周圍膿瘍 Abscessus peritonsillaris anterior or posterior)  
**合併症** 炎症時トシテ側頸部ヨリ下行シ喉頭水腫ヲ發シ又ハルード  
 ウグ氏安魏那ヲ繼發シ危險ニ陥ラシムルコトアリ  
**豫後** 概シテ良ナルモ合併症アルモノハ時トシテ生命ヲ危フス  
**療法** 初期ニ於テ瘡瘡木丁幾ノ内用ハ病勢ヲ頓挫セシムルヲ得ベシ鹽  
 素酸加里ノ内服亦一般ニ賞用セラレ  
 其他局部ニハアドレナリン液古加乙涅液等ヲ塗布シ氷片ヲ含マシメ頸  
 圍ニ氷罨法(時宜ニ依リテハ濕溫罨法)ヲ施シ且ツ含嗽ヲ厲行セシムベシ  
 早期切開亦大ニ効アリ  
 既ニ膿瘍ヲ形成スレバ可及的速ニ切開ヲ加フベシ此際波動ヲ確認スル  
 モノニ在テハ部位ノ撰定容易ナルモ其未ダ明瞭ナラザルモノニ在テハ  
 消息子ノ先端ヲ以テ疼痛ノ最モ劇甚ナル部位ヲ檢シ之レニ刀ヲ下スヲ  
 要ス本切開ニ用キル小刀ハ把柄長大ナルヲ撰ビ且ツ先端約一仙迷ヲ除  
 キ他ハ悉ク絆創膏ヲ以テ纏絡被包スルヲ可トス



前口蓋弓ニ切開ヲ行フニハ扁桃腺ト下顎骨上行枝トノ中間ニ於テシ刀尖外方ニ向ハザル如クスベシ何トナレバ頸動脈ヲ損傷スル危険アレバナリ

處方例

八十六、癒瘡木丁淺	一〇〇	縮水	一五〇〇
右毎二時十滴ヲ、約十五ノ水ニ和シテ服用セシム		右混和爲大人一日量一日五分服	
八十七、鹽剝	一・五	八十八、鹽剝	三〇〇
癒瘡木丁淺	三十滴	縮水	二〇〇〇
苦丁	二〇〇	右毎二時一回一食匙ヲ、服用	

纖維素性咽喉炎

纖維素性咽喉炎 Pharyngitis fibrinosa.

原因 本症ハ咽喉粘膜炎ノ一種ニシテ粘膜炎ニ纖維素性膜ヲ生ズルモノナリ然レドモ之ハ實扶帝里ト何等ノ關係ナキ一種ノ炎性産物ニシテ其發生原因ハ細菌學上未ダ確定セザル所ナルモ恐ラク患者ニ素因アリ某刺戟ニ因リ常人ニハ化膿性炎ヲ惹起スベキモ該素因アルモノニ在テ

ハ纖維素性分泌物ヲ生ズルモノ、如シ

症候 本症ハ俄然惡寒戰慄次デ發熱ヲ以テ起リ嚥下痛アリテ往々耳内ニ波及ス而シテ四日乃至八日ノ後此等ノ症狀消退ス

他覺的検査上、口蓋扁桃腺軟口蓋咽喉後壁或ハ側索部ニ白色纖維素性偽膜アリ之ヲ除去スルニ多大ノ抵抗ナク在下ノ粘膜炎ハ發赤腫脹シ殆ンド

常ニ上皮剝脫面ヲ遺ス然レドモ一二日ニシテ上皮ノ被覆ヲ蒙リ該部ノ

粘膜炎初メハ灰白色ヲ呈スルモ漸次白色ニ變ジ幾モナクシテ偽膜ヲ再生

ス本病ハ電氣燒灼法ニ因リ每常發現スル格魯布性偽膜ニ酷似ス唯後者

ハ本病ニ於ケルモノ、如ク強硬ナラズシテ比較的透明硝子様ノ觀アル

ノ差異アリ

經過 本病ノ偽膜ハ自覺症狀ノ全ク消散シタル後尙ホ存在シ約五週間

ノ永キニ亘ル時トシテ治癒數月ヲ要スルコトアリ

診斷 扁平胼胝腫ト誤診セラル、コトアリ然レドモ本病ノ急劇ナル發

生全經過及ビ漸次偽膜ヲ再生スル等ノ點ニ依リ明カニ鑑別スルヲ得ベ



シ實扶帝里トノ鑑別ハ遙ニ必要ナリ然レドモ實扶帝里性偽膜ハ剝離ニ際シ深襲性物質缺損ヲ貽スモ本病ニ在テハ比較的剝離容易ナルノミナラズ而カモ上皮剝脫ヲ來スニ過ギズ其他本病ノ在苜タル經過ヲ觀察スレバ兩者ノ區別取テ困難ナラズ尙ホ要スレバ細菌學的研索ヲ行ヒリョフレル氏實扶帝里菌ノ存否ヲ檢スベシ

豫後 可良

療法 含漱ヲ厲行セシメ内服ニハ鹽素酸加里一日量一—二〇ヲ投ズレバ漸次治癒ニ赴クモノナリ

咽頭ヘルペス

咽頭ヘルペス] Herpes des Raehens

急性若クハ亞急性疾患ニシテ其本性ニ關シテハ學說未ダ一定セズ或ハ神經系統ノ疾患ニ關係アリト云ヒ或ハ傳染性疾患ナリトモ云フ  
急性熱性病例ヘバ流行性感胃及ビ肺炎等ニ於テ顔面又ハ口唇ヘルペスト同時ニ本病ヲ發スルコト稀ナラズ

症候及經過

本病ハ俄然襲來スルヲ例トス即チ輕熱ヲ以テ始マリ次デ中等度ノ嚔下痛ヲ發ス其他時トシテ頭痛倦怠及ビ消化不良等ノ一般症狀アリ且ツ患側ノ唾液分泌旺盛トナリ下顎隅部ノ淋巴腺腫脹ス  
初期之ヲ檢スルニ粘膜炎ニ粟粒大ノ小水泡アリ圓形ニシテ内ニ透明液ヲ藏シ周圍ニ紅色ノ輪環ヲ具フ此ノ如キ水泡多クハ無數ニ散發シ稀ニハ一側ニ偏在シ正中線ヲ以テ明ニ境界セラル、コトアリ  
幾モナクシテ水泡液ハ膿様又ハ乳様濁濁ヲ來シ菲薄ノ被膜破壊シテ淺表性潰瘍ヲ生シ底面黃白色ヲ呈シ時トシテ纖維素性偽膜ヲ以テ被覆セラル吾人ノ觀察スルハ此時期ヲ以テ多シトス而シテ潰瘍ハ數日ヲ出デズシテ癒痕ヲ貽サズ治癒スルヲ常トス然レドモ時トシテ經過適當ナラズ潰瘍擴大トナリ數個融合シ形成膜ヲ以テ被ハレ實扶帝里ト誤認セラ  
ル、コトアリ此ノ如キハ永時持續スレバ榮養ヲ害シ且ツ治癒スルモ癒痕ヲ結成シ加之壞疽性炎ヲ繼發スルコトアリ  
豫後 重症繼發病ナキモノハ概シテ可良



**療法** 合漱ヲ厲行セシメ疼痛甚シキモノニハ氷片嚥下又ハ古加乙混液塗布ヲ行フ其他甘汞ヲ服用セシメ再發スルモノニハ亞硫酸安知必林撒曹等ヲ投與スベシ

丹毒性咽喉炎

丹毒性咽喉炎

*Pharyngitis erysipelatosu s. Angina erysipelatosu.*

本病ハ咽喉蜂窠織炎ト嚴ニ診別スルコト殆ンド不能ナリ唯ダ病變ノ深淺ニ依リ又經過ノ觀察ニ由リ概ネ區別シ得ルニ過ギズ即チ本病ハ一般ニ粘膜及ビ粘膜下層ノ最上部ニ漿液性浸潤ヲ來シ時宜ニヨリテハ水泡ヲ形成スルモノナリ咽喉蜂窠織炎ハ主トシテ粘膜下層ニ圓形細胞浸潤ヲ來スモノトス然レドモ兩者ノ間ニ種々ノ移行階段アリ從テ病理解剖的ニモ完全ニ區別スル能ハザルナリ

**原因** 顔面丹毒ヨリ波及セル續發的ノモノ、外原發性丹毒アリ之ハ鼻腔内及ビ咽喉手術後ニ發ズルコト多シ又時トシテ肉眼的損傷ナキモ扁桃腺々窩等ノ上反剝離部ヨリ侵入スルコトアリ

**症候** 原發性咽喉丹毒ハ輕症ノ場合ニ於テハ發病當初尋常ノ加答兒性安魏那ニ類似シ加之其全經過モ亦全ク之レニ酷似シ終ニ治癒ニ趣クモノ稀ナラズ

中等症乃至重症ニ在テハ症狀劇烈ニシテ惡寒時トシテ戰慄ヲ以テ起リ頭痛高熱ヲ來シ間々嘔吐ヲ伴フ咽喉疼痛ハ時々増減アリ嚥下ニ際シテ常ニ著シク増劇ス病變鼻咽腔ニ蔓延セルモノハ後頭痛及ビ耳内ニ波及スル疼痛ヲ訴フ

他覺的検査上粘膜ハ高度ノ腫脹及ビ潮紅アリ屢々紅膠樣光澤ヲ放ツ此ノ如キ發赤ハ健康部ニ於テ劃然タル境界ヲ有ス而シテ本病ニ特有ナルハ病變ノ處々遍歷スルハ點ナリ既存ノ發赤消褪スルヤ他部ニ新竈ヲ生ジ漸次口部咽喉ヨリ鼻咽腔ニ又ハ之ニ反スル方向ニ蔓延シ或ハ口腔若クハ鼻腔ヲ經テ外皮ニ傳播シ或ハ鼻淚管歐氏管等ヲ經テ聯繫セル臟器ニ炎症ヲ發シ加之時トシテ喉頭乃至氣管ニ蔓延シテ危險ニ陥ラシムルコトアリ下顎隅部淋巴腺ハ初期ヨリ腫脹シ疼痛ヲ發ス



**經過** 輕症ノモノハ五乃至八日ニシテ治癒スルモ重症ニシテ病變通歴スルモノニ在テハ經過遷延スルノミナラズ種々ノ合併症及ビ繼發症ヲ來ス浮腫増劇シ時トシテ水泡ヲ形成シタル後破壊シテ表在性潰瘍ヲ生ジ時トシテ深部ニ進ミテ膿瘍ヲ形成シ或ハ腦膜炎肺炎若クハ遠隔臟器ノ轉移ヲ來シ又ハ心臟麻痺若クハ聲門水腫ヲ發シテ鬼籍ニ上ルコトアリ

**豫後** 重症ノ繼發病ナキモノハ治癒スルヲ例トス

**療法** 内服藥トシテ規尼涅ヲ投ジ心臟麻痺ノ初徵アラバ速ニ酒精飲料ヲ與ヘ其他頸圍ノ氷罨法氷片嚙下ヲ命ジ膿瘍ヲ生ズレバ切開ヲ加ヘ高度ノ浮腫ニハ亂刺法ヲ施スベシ其他含嗽ノ厲行「プロタルゴール」アドレナリン及ビ古加乙涅液等ノ塗布ヲ行フ

「フレグモ一ネ」性咽頭炎

「フレグモ一ネ」性咽頭炎 Pharyngitis s.

Angina phlegmonosa.

本病ハゼナートル氏ニ從ヒ急性傳染性咽頭「フレグモ一ネ」acute infectiose Phlegmone des Pharynx ト稱ス粘膜損傷部ヨリ「ストレプトコッケン」ノ侵入スルニ基因ス

**症候** 丹毒性咽頭炎ト殆ンド同一ナリ唯臨床上腫脹發赤ノ顯蔓性ナルト患部ノ硬固ナルト膿瘍形成ノ傾向多キト丹毒ニ特有ナル病機通歴性ヲ缺如スルトニ由リ區別スルノミ而シテ此等ノ區別モ亦絶對的ノモノニ非ズ今本病ノ定型的經過ヲ示サンニ丹毒ニ於ケルガ如ク初期ニ於テ著明ノ發熱ナク多クハ咽喉部ノ劇痛及ビ嚙下困難ヲ以テ始マリ幾モナクシテ聲音嘶嘎及ビ呼吸不利ヲ來シ全身状態ハ初期ヨリ重態ニシテ苦惱ノ狀顔貌ニ顯著ナリ後容易ニ精神溷濁昏醉ニ陥リ體温常度ヲ超ヘテ下降シ心臟麻痺ニ由リ鬼籍ニ上ル又時トシテ窒息ノ爲メ死ノ轉歸ヲ取ルコトアリ

頸腺ハ速ニ腫脹シ壓痛アリ患部ノ粘膜ハ發赤腫起シ當初著シク硬固ナルモ容易ニ膿瘍ヲ形成シ遠隔臟器ニ轉移ヲ來ス又浮腫ハ高度ニシテ莖



延迅速ナリ

**豫後** 概シテ不良從來本病ニシテ治癒シタルモノ、報告ハハーゲル、スベンサー氏等ノ少数例アルノミ

**療法** 殆ンド奏効ヲ見ズ初期ニハ丹毒ニ於ケルガ如ク氷片ヲ攝取セシメ且ツ頸部ノ氷器部ヲ行フ腫脹喉頭部ニ蔓延スレバ亂刺ヲ加ヘ呼吸困難ヲ發スレバ速ニ氣管切開術ヲ施スベシ其他初期ヨリ心臓麻痺ニ注意シアルコホール性興奮劑ヲ投與スベシ

壊疽性咽頭炎

壊疽性咽頭炎 Pharyngitis s. Angina gangrenosa.

**原因** 續發性ノモノハ實扶帝里、猩紅熱、丹毒、スコルブト、天疱瘡等其他又麻疹、腸室扶斯、赤痢等ノ全身病並ニ外傷ヨリ來ル

時トシテ原因ノ證明スベキモノナクシテ所謂原發的漸進性咽頭壊疽ヲ發スルコトアリ

**症候** 發病當初著明ノ症狀ナキコトアリ然レドモ多クハ高度ノ發熱及

ビ嚥下困難並ニ頭痛、不眠等ノ全身症狀ヲ以テ起ル特ニ初期ヨリ倦怠ノ外著明ノ精神抑壓アルハ本病ニ固有ナリトス次デ幾モナク呼吸特異ノ惡臭ヲ放ツニ至ル

患部ヲ望診スルニ最初咽頭粘膜ノ某所(多クハ口蓋扁桃腺上)ニ一小帶黒灰白色ノ斑點或ハ水泡ヲ生ジ直ニ潰瘍ニ變ジ汚穢ノ觀ヲ呈シ且ツ著シク増大ス其底面不潔軟弱ナル組織壞死片ヲ以テ被ハレ之ヲ除去セントスレバ容易ニ著シキ出血ヲ來ス

病勢ハ常ニ進行性ニシテ深部ニ向テハ粘膜、腺及ビ筋組織ヲ侵襲シ骨面ニ至リテ通常漸ク停止ス其際彈力纖維ハ抗抵最モ強キヲ見ル又平面的ニハ喉頭肺及ビ食道等ノ近隣臟器ニ蔓延シ又屢血管壁ヲ侵蝕シテ靜脈炎及ビ大出血ヲ來ス

**經過** 嚥下困難乃至不能ハ本病ノ經過ヲシテ益々不良且ツ迅速ナラシムル主因タリ加之終始食機減乏シ體溫暴降、脈搏軟小遲徐トナリ意識多クハ末期ニ至ル迄明瞭稀ニ譫語アリ終ニ昏醉ニ陥ル通常五乃至八日ニシ



テ敗血病ヲ發シ又ハ心臟麻痺ニ因リ易斃スルモノトス。  
**豫後** 續發的ノモノニシテ病變局部ニ限制スルヤ治癒スルモノナキニ非ザルモ概ネ不良ニシテ死スルヲ常トス。  
**療法** 營養ヲ顧慮スルハ最モ緊要ナリ嚥下不能アラバ滋養洗腸ヲ行ヒ且ツアルコホル性興奮劑ヲ投ズベシ。  
 患部ハ可及的頻回清淨シ不潔壞死組織片ヲ剪除シ二%醋酸礬土液、過酸化水素等ヲ塗布シ硼酸(二%)、硫酸亞鉛(〇五%)液等ノ合劑ヲ與フベシ。クロネンベルヒ氏ハ一日數回1:300ノ昇汞液ヲ塗布シ1:5000ノ昇汞液ヲ以テ屢合漱セシメ治癒セシ一例ヲ報告セリ然レドモ其應用ニ關シテハ充分ノ注意ヲ拂ハザルベカラズ其他患部ノ烙白金燒灼法亦時トシテ効アリ

咽頭窩口瘡

咽頭窩口瘡 Soor des Rachens.

**原因** 本症ハ主トシテ小兒ニ發スルモノニシテ口腔内ニ殘留セル乳汁

ノ分解ニ由リ發ス然レドモ亦成人ニ來ルコト稀ナラズ殊ニ衰弱ヲ極メタル重症患者例之バ癰腫、肺癆、糖尿病、麻痺狂等又ハ「インフルエンザ」腸窒扶斯及ビ肺炎等ノ急性傳染病者ニ在リテ口腔衛生不良ナルモノニ發ス本病ハ一種ノ窩口瘡菌ニ因リ發スルモノニシテ菌ハ一部糸狀ヲ呈シ一部ハ類圓形ノ芽胞ヨリ成ル

**症候** 口腔窩口瘡ニ併發スルコト多ク先ヅ粘膜面ニ白色ノ小斑點ヲ生ジ乳兒ニ在テハ恰モ凝固セルカゼインヲ見ルガ如シ之ヲ拭除スルニ容易ニ剝離シ局部ノ粘膜稍發炎潮紅ス該小斑ハ時トシテ數個融合シ食餌ノ接觸等ニ由リ汚穢灰白色ニ變ジ時トシテ小出血點ヲ存ス  
 自覺症トシテハ輕度ノ疼痛及ビ灼熱、唾液分泌過多等アリ

**經過及豫後** 本病ハ適當ノ處置ヲ施セバ一週乃至二週日ニシテ治癒スルヲ例トス

**療法** 口腔及ビ咽腔ノ清淨法ヲ緊要トス即チ二%醋酸礬土液、二%硼砂液、二%重曹液又ハ鹽剝液ヲ以テ一日數回拭淨シ且ツ同液若クハ〇〇二



過滿俺酸加里液ヲ以テ屢合漱セシムベシ  
頑固ノ症ニハ一―五%硝酸銀液又ハ一萬倍ノ昇汞液ヲ以テ局部ヲ拭淨  
シ又ハ硫酸銅ヲ以テ塗拭スベシ

咽頭實扶帝里

咽頭實扶帝里 *Rachentiphtherie.*

**原因** 本病ハリヨフレル氏實扶帝里菌ニ因リテ發ス然レドモ多クハ他種  
ノ細菌殊ニ化膿性連鎖狀球菌之ニ混在スルモノニシテ兩者ノ混合傳染  
ニ因ルモノトス

**症候** 二日乃至七日ニ亘ル潜伏期ノ後俄然發熱シ甚シキハ四十度乃至  
四十一度ニ達スルコトアリ通常數日間稽留ス而シテ頭痛全身違和倦怠  
食思缺損眩暈等ノ一般症狀アリ小兒ニ在テハ啼泣不穩嘔吐譫語等ヲ發  
ス次デ咽頭痛嚥下困難ヲ來ス疼痛ハ屢耳内ニ波及スルコトアリ然レド  
モ幼兒ニ在テハ特ニ咽頭痛ヲ訴ヘザルコト多シ故ニ小兒ノ熱性病ヲ診  
スルトキハ規則トシテ先ヅ咽頭ヲ檢セザルベカラズ

脈搏ハ細小ニシテ疾速ナルヲ常トス

咽頭ヲ檢スルニ初期ニハ潮紅セル粘膜面殊ニ口蓋扁桃腺又ハ側壁後壁  
等ニ於テ灰白色斑點大ノ斑點散在シ漸次增大シ互ニ相融合シテ近隣部  
ヲ被覆スルニ至ル其扁桃腺ヨリ前後ノ口蓋弓及ビ懸壅垂ニ蔓延スルハ  
最モ屢目撃スル所ナリ比較的稀ナルハ後壁及ビ舌根ノ侵襲ナリ時トシ  
テ鼻咽腔ニ傳搬シ又屢喉頭及ビ氣管ニ蔓延ス然ルトキハ呼吸困難著明  
ナリ

粘膜ハ發赤スルノミナラズ屢浮腫狀ニ腫脹ス

灰白色斑點ハ漸次融合シ終ニ偽膜ヲ形成ス此ハ上皮内及ビ其深部ニ侵  
入シ密ニ在下組織ニ附着ス爲ニ之ヲ剝離セントスレバ大ナル抵抗ヲ要  
シ且ツ常ニ物質缺損及ビ出血ヲ來ス

**經過** 數日乃至八日ノ後偽膜ハ弛緩シテ終ニ自ラ脫離シ咳嗽ニ依リ略  
出セララ然レドモ患者時トシテ之ヲ嚥下スルコトアリ而シテ偽膜ノ再  
生ハ敢テ稀ナリトセズ



偽膜脫離後ノ創面ハ屢々上皮ノ被覆ヲ蒙リ平滑ニ治癒スルコトアリ或ハ病變深部ヲ侵襲スレバ癩痕ヲ結成シ梅毒性癩痕ニ類似ノ觀ヲ呈スルコトアリ

最モ重症ナルハ腐敗性實扶帝里 *septicæ Diphtherie* ニシテ全身ノ敗血症狀ヲ來シ偽膜ハ汚穢灰白乃至褐色ヲ呈シ脆弱或ハ泥樣ニ變ジ著シキ惡臭ヲ放ツ又屢々粘膜出血ヲ來シ高度ノ壞疽ニ陥リ懸壺垂ノ如キハ脱落スルコトアリ而シテ一二日乃至四日ニシテ鬼籍ニ上ルヲ例トス

顎下腺及ビ下顎隅部ノ淋巴腺ハ通常腫大シ八日以後ニ於テ種々ノ筋麻痺ヲ發スルコト稀ナラズ特ニ注意スベキハ恢復期ニ於ケル心臟麻痺ナリ而シテ此ハ何等ノ前兆ナクシテ俄然襲來スルコトアリ最モ多キハ口蓋麻痺ナリ言語及ビ嚥下ヲ妨グ膝蓋腱反射ハ屢々減弱若クハ消失ス

其他眼調節麻痺ヲ來シ遠望ニ支障ナキモ近キニ調節スル能ハズ四肢ノ筋肉モ亦多少麻痺ニ參與スルコトアリ時トシテ運動失調ヲ來ス僥倖ナルハ呼吸筋麻痺ノ稀有ナル點ナリ

合併症

出ス

諸關節ノ腫脹及ビ心内膜炎アリ蛋白尿モ亦多クノ場合ニ現

診斷

流行期ニハ困難ナラズ然レドモ時トシテ腺窩性扁桃腺炎ト誤診スルコトアリ殊ニ一二ノ學者ハ後者ヲ以テ實扶帝里ニ算入セントスルモノアリ然レドモ偽膜剝離ノ難易及ビ細菌學的研索ニ依リ鑑別スルヲ得ベシ

豫後

適當ノ時期ニ加療スレバ概シテ良ナリ腐敗性實扶帝里ハ凶

原因

患者ハ速ニ隔離スルヲ要ス殊ニ同一家族内ノ小兒ニ注意スベシ本病ノ特效藥トシテ實扶帝里血清アリ年齢ニ應ジ適當量ヲ皮下ニ注射スベシ

局所療法トシテハ藥液ノ塗布腐蝕等ハ概シテ効ナキノミナラズ屢々有害ナリ

石灰水(石灰水及ビ蒸餾水等分ノモノ)硼酸過滿俺酸加里液等ノ含漱及ビ吸入ハ治療ヲ補佐ス



内服薬トシテ鹽素酸加里少量及ビ甘汞ヲ賞用スルモノアリ

咽後膿瘍

咽後膿瘍 Retropharyngeal Abscess.

原因 本病ハ一歳以下ノ小兒ニ多シ之レ咽頭後壁ニ存スル淋巴腺ノ化膿ニ因ルモノナリ即チ三歳未滿ノ小兒ニ在テハ正中線ノ兩側第二第三頸椎ノ高サニ於テ相對性淋巴腺咽頭咽筋ト脊椎前膜トノ間ニ存ス而シテ之ハ後ニ至リ漸次萎縮ニ赴クモノナリ然レドモ體質虛弱ナルモノ殊ニ梅毒、腺病質及ビ結核性ノ者ニ在テハ永時存在スルノミナラズ化膿ノ傾向アリ又頸部ノ皮膚病、鼻腔及ビ咽腔ノ疾患等ニ依リ發炎終ニ本病ヲ惹起スルコトアリ

其他外傷、頸椎骨瘍、猩紅熱、實扶帝里等ニ因リ發ス尙ホ茲ニ特記スベキハ中耳化膿症ノ經過中乳嘴突起膿瘍ヲ來シ其内壁破壞ニヨリ下垂シテ本病ヲ發スルコトアリ

症候 本病ハ急性ニ發現スルコト稀ニシテ多クハ潜行的經過ヲ取リ漸

次嘔下呼吸及ビ言語障礙ヲ來スモノトス而シテ其部位ニ因リ輕重アリ膿瘍上部ニ生ズレバ嘔下困難、主徵トナリ鼻呼吸障礙及ビ閉鼻聲等アリ之ニ反シテ下部ニ發スレバ主トシテ呼吸困難アリ殊ニ夜間ニ於テ著シク往々窒息發作ヲ來スコトアリ

骨瘍ニ基因スル流注膿瘍ニハ項部強直、頭首回轉時ノ疼痛ヲ存シ中耳化膿症ヨリ下垂セルモノニハ乳嘴突起、尖端及ビ其後下方ニ壓痛及ビ腫脹アリ胸鎖乳嘴筋ノ浸潤ヲ兼ネ又時トシテ顔面神經麻痺症ヲ有ス

他覺的ニハ咽頭後壁ニ赤色平滑ノ隆起部アリ觸診上彈力性軟乃至波動ヲ認ム

診斷 視診及ビ觸診ニ依リ困難ナラズ

豫後 原因ニ依リテ差異アリ骨瘍ニ因スルモノハ特發性ノモノニ比シ可良ナラズ

療法 切開ヲ加フベシ膿汁及ビ血液ノ喉頭内流入ヲ防ガン爲メ或ハ頭首ヲ前屈セシメ或ハ頭首懸垂ノ位置ニ於テスベシ



流注膿瘍ニハ側頸部(胸鎖乳嘴筋内緣ニ沿ヒ)ニ切開ヲ加ヘ膿竈ニ送シ排膿管ヲ裝スベシ  
其他術後ハ二%硼酸液ヲ以テ含漱セシメ兼テ營養療法ヲ行フベシ沃度加里、肝油、沃鐵舍利別等ノ内服亦併用スレバ効アリ

### 慢性咽頭加答兒 Pharyngitis chronica.

慢性咽頭加答兒

本病ハ最モ屢見ル所ノ疾患ニシテ凡ユル年齢ニ發スルモ殊ニ成人ニ多ク又概シテ男子ニ屢ナリ獨リ乾性咽頭炎ハ却テ女子ニ多キガ如シ  
**原因** 急性咽頭加答兒ノ反復襲來ニ由リテ發シ又腺病及ビ呼吸器循環器並ニ腎臟等ノ諸疾患ニ併發ス其他直接原因ノ主ナルモノハ器械的及ビ化學的刺戟ニシテ穀粉、石粉又ハ塵埃中ノ勞働、音聲過勞、飲酒、喫煙等ナリ  
鼻呼吸障礙ハ殆ンド常ニ本症ヲ繼發シ鼻咽腔ノ疾患ニシテ分泌物ノ流下スルモノ亦然リ

### 症候及解剖的變化

**自覺症**ハ往々顯著ナラザルコトアリ然レドモ多クハ咽頭部ニ於ケル乾燥、搔抓、灼熱又ハ一種ノ異物感ヲ訴ヘ聲咳頻發ス分泌機能障礙ハ殆ンド缺如スルコトナク分泌物或ハ多量或ハ少量ニシテ通常粘液性ナリ間々咽頭ニ於ケル血管ノ破損ニ由リ血液ヲ混ズルコトアリ其他屢輕度ノ聲音嘶嘎及ビ發聲疲勞アリ疼痛殊ニ嚥下痛ハ稀ニ見ル所ニシテ虛空嚥下 *Jeerschlucken* ニ際シ時トシテ輕痛ヲ感ズルノミ  
本症ニ基因スル反射的神經症例ヘハ喘息、痙攣性咳嗽及ビ癩癩等ハ唯破格的ニ發現スルノミ

慢性單純性或  
濕潤性咽頭  
炎

他覺的症狀ハ本病ノ種類ニ因リ一樣ナラズ  
**慢性單純性咽頭炎** 又ハ**濕潤性肥厚性咽頭炎** *Pharyngitis chronica simplex*、  
*Pharyngitis hypertrophicus diffusa*、

其輕症ナルモノハ粘膜ニ輕度ノ**濕潤性腫脹**及ビ發赤アルノミ高度ノモノニ在テハ隨處粘膜ノ肥厚ヲ存ス懸壅垂及ビ口蓋弓部モ亦之ニ參與ス尙ホ粘膜表面ニ擴張セル靜脈ヲ有シ處々ニ**粘液性分泌物**ノ附着スルヲ



慢性顆粒性  
或濾胞性咽喉  
炎

見ル時トシテ分泌物著シク膿性ヲ帶ブルコトアリ之ハ單純性咽喉炎ニ  
 基因スルモノニ非ズシテ鼻腔若クハ鼻咽腔ヨリ流下セルモノ多シ  
 慢性顆粒性咽喉炎又ハ濾胞性咽喉炎 *Pharyngitis granulosa s. follicularis.*  
 好ンデ口部咽喉ノ後壁ニ來ル顆粒ハ通常粟粒大乃至豌豆大ノ紅色隆起  
 ニシテ概ネ類半球形ナルモ時トシテ著大ナル長形隆起トナリテ現ハル  
 ルコトアリ而シテ此等ノ顆粒ハ粘液腺ノ排泄管周圍ニ於ケル腺樣組織  
 ノ浸潤ニ依リ濾胞ヲ形成スルニ由リ生ズルモノナリ顆粒ハ屢々密ニ簇生  
 シ恰モ平滑面ヲナスガ如キアリ或ハ點々散在スルニ止マルコトアリ各  
 顆粒間ノ粘膜ハ多少腫脹發赤シ或ハ却テ萎縮狀ヲ呈シ蒼白色ニシテ多  
 數ノ表在性靜脈擴張迂曲スルヲ見ルコトアリ  
 本症ハ屢々舌扁桃腺肥大ヲ併發シ斷ヘズ咽喉深部ニ異物感ヲ訴ヘ聲咳  
 ヲ發ス小兒ニ在テハ屢々口部咽喉ノ後壁及ビ側壁上部分ニ大ナル顆粒ノ密  
 生スルコトアリ之レ殆ンド常ニ鼻咽腔腺樣增殖症ヲ存スルモノニ發現  
 ス

慢性側索咽喉  
炎

慢性側索咽喉炎 *Pharyngitis chronica lateralis.*

本症ハ單純性咽喉炎又ハ顆粒性咽喉炎ト同時ニ來リ或ハ單獨ニ現ハル  
 ルコトアリ而シテ咽喉ノ側壁ニ於テ後口蓋弓ノ後方ニ當リ上下ニ走レ  
 ル索狀ノ赤色隆起ヲ有シ殊ニ絞扼運動ニ際シ著シク現出スルモノナリ  
 該隆起ハ所謂歐氏管咽喉皺襞ニ於ケル腺樣組織及ビ粘液腺ノ增殖腫大  
 スルニ由リ生ズ

慢性乾性咽喉  
炎

其自覺症狀トシテ何等ノ特ニ舉グベキモノナキコトアリ或ハ嚥下時ノ  
 疼痛及ビ異物感アリ又屢々難聽及ビ耳鳴ヲ訴フ  
 慢性乾性咽喉炎 *Pharyngitis chronica sicca.*

粘膜ハ蒼白ニシテ乾燥シ滑澤ニシテ光輝ヲ放ツ恰モ塗漆セルノ觀アリ  
 少量ノ粘液乾燥シテ展張ス粘膜ハ稀ニ肥厚狀態ヲ呈スルコトアルモ多  
 クハ瘦削セルヲ常トス從テ瘦削性咽喉炎 *Pharyngitis atrophicans* ノ名アリ  
 本病ハ肥厚性咽喉炎ニ續發スルコトアルモ又特發性疾患アリ即チ營養  
 不良ノ結核及ビ糖尿病患者等ニ來ル又時トシテ分泌物膿性粘液性ニシ



テ乾固痂塊ヲ結成シ一種ノ惡臭ヲ放ツコトアリ而シテ之ハ眞性臭鼻ニ併發ス之ヲ惡臭性瘦削性咽喉頭炎又ハ咽喉頭「オツナ」Plaryngitis atrophicans *foetida* s *Ozaena pharyngis* ト稱ス

合併症

鼻腔、鼻咽腔及ビ喉頭ノ慢性加答兒症ハ屢本病ニ併發ス又腺病家ニハ往々潰瘍ヲ生ズ

豫後

概シテ可良ナルモ瘦削性咽喉頭炎ハ甚ダ頑固ナリ

療法

先ツ原因的障害ヲ除去シ飲酒、喫煙及ビ辛烈ノ香料ハ禁ズルヲ可トス氣候及ビ鑛泉療法ハ本病ノ原因タル疾患ヲ治スルニ於テ屢々有効ナリ

局所療法トシテ藥液塗布、藥粉吹撒、含漱及ビ吸入法ノ外電氣燒灼及ビ觀血的小手術等ノ區別アリ病症ニ依リ其應用ヲ異ニス

潮濕性肥厚症ニハ收斂劑ノ塗布及ビ吹撒ヲ行フ塗布藥トシテハ一〇%アルゾール液(酒石酸醋酸礬土)五—一〇%單寧酸佩里設林四—一〇%硝酸銀液二%格魯兒亞鉛液及一—二%皓礬水等ヲ用ユ而シテ一日乃至二日

毎ニ一回初メハ弱液ヲ後ニハ漸次強液ヲ取り纏綿セル咽喉捲綿子第百三十三圖ニ浸漬シ應用スベシ

懸壅垂ノ肥厚著大ナルモノニシテ絞扼感甚ク且ツ咳嗽及ビ窒息發作ヲ來スモノハ古加乙濕局所麻醉ノ下ニ生理的ノ長サ即チ約一仙迷ヲ遺シテ切除スベシ

顆粒性咽喉頭炎ハ單ニ塗布法ノミヲ以テ治療シ難シ故ニ格魯礬酸ヲ腐蝕藥鑄着器ニ附着シ個々ニ表面ヲ腐蝕シ又ハ燒灼電氣ヲ應用シ或ハ適當ノ鉗子ヲ以テ切除スベシ顆粒ヲ數ナレバ一舉シテ除去シ得ベシト雖ドモ稍多數ナルトキハ一回ノ燒灼若クハ腐蝕ハ數個ニ止メ反應炎症消退スルヲ待テ殘餘ノ顆粒ニ及ボスベシ

側索咽喉頭炎ニハ電氣燒灼法ヲ最モ適當トス  
乾性咽喉頭炎或ハ瘦削性炎ニハルゾール氏液ノ塗布最モ効アリ之ヲ塗布スルニモ亦弱液ヨリ漸次強液ニ移スヲ要ス是ニ由リ能ク凝着セル粘液ヲ融解除去シ得ルノミナラズ塗布後局部充血及ビ分泌増進ヲ來ス連日



ノ應用ニ因リ慢性症ヲシテ急性症ニ轉ゼシメ繼テ治癒ニ趣カシムルコト稀ナラズ其他瘦削性炎ニモ一—三%石炭酸液「クレオリン」液等ノ塗布或ハ「ソッオドール」亞鉛ノ吹撒ヲ賞用スルモノアリ

處方例

- 八十九、沃度 〇・五
- 沃度加里 二・五
- 偏里設林 二五・〇
- 右混和一日一回塗布
- (ルゴール氏弱液)
- 九十、沃度 〇・七五
- 沃度加里 二・五
- 偏里設林 二五・〇
- 右每二日一回塗布
- (ルゴール氏中等液)
- 九十一、沃度 一・〇
- 沃度加里 二・〇
- 偏里設林 二五・〇
- 右每二乃至三日一回塗布
- (ルゴール氏強液)
- 九十二、「ソッオドール」亞鉛 三・〇—五・〇
- 刺納林 五〇・〇
- 溶製巴刺賓 五〇・〇
- 右混和爲塗布料
- 每一日乃至二日一回宛
- 九十三、「ソッオドール」亞鉛 一・—二・〇
- 澱粉 一〇・〇
- 右混和爲吹撒料一日一回宛

潰瘍アルモノニハ硝酸銀又ハ乳酸五〇—八〇%ノ塗布ヲ行フ  
補助療法トシテ明礬液(〇・五—一・〇%)、密兒刺丁幾(一%)、酒石酸醋酸礬土液

口蓋扁桃腺肥大症

(〇・五%)及ビ鹽剝液(二%)等ノ含漱料ヲ與ヘ(乾性炎ニハ三%重曹液ヲ以テ含漱セシメ)又食鹽重曹水ノ吸入ヲ行フ

口蓋扁桃腺肥大症 Hypertrophic tonsillae palatinae.

主トシテ小兒期ニ極メテ多ク發現スル疾病ニシテ扁桃腺ノ容積増大ヲ來スモノトス此ハ腺様組織ノ増殖ト結締織ノ増殖トニ基因スルモノナリ而シテ幼兒ニ在テハ咽頭扁桃腺肥大ト共ニ主トシテ前者ニ屬シ稍成長セル兒童及ビ成人ニ來ルモノハ後者ヲ多シトス

原因 急性扁桃腺炎ノ反復襲來スルニ由リテ發ス而シテ腺病質ノモノニ多シ

症候 輕症ノモノハ何等ノ苦痛ヲ感ゼザルコトアリ然レドモ多クハ慢性咽頭加答兒ヲ併有シ咽頭ニ於ケル異様感アリ

高度ノ肥大ニ在テハ狹隘異物ノ感アリ嚥下及ビ呼吸障礙ヲ發シ睡眠時鼾聲ヲ放チ聲音モ亦多少變化ヲ受ク其他喘息、咳嗽、咳嗽及ビ頭痛等ノ反



射的症狀ヲ發スルコトアリ

他覺的検査上口蓋扁桃腺ハ腫大シ甚シキハ正中線ニ於テ左右相互接觸ス表面發赤ヲ缺キ或ハ僅ニ存スルニ過ギズ腺窩ハ著シク廣且深時トシテ白色若クハ黃白色乾酪様ノ膿栓腺窩ニ突出スルコトアリ此ハ鏡檢上乾燥セル分泌物剝離集積セル上皮及ビ種々ノ細菌ヨリ成ル

**合併症**

鼻咽喉腺様增殖症及ビ舌根扁桃腺肥大症ハ屢本病ニ併發ス其他急性安魏那ノ屢襲來スルヲ以テ煩ナリトス

**豫後**

早期ニ治療スレバ良

**療法**

藥液塗布ハ奏効ヲ見ズ肥大セル部ヲ觀血的或ハ燒灼法ニ依リ切除スルヲ以テ最良トス而シテ兩者ノ撰擇ハ主トシテ患者ノ年齢ニ關ス春機發動期以前ノモノハ觀血的手術ヲ可トス之レ幼者ハ血管收縮力ニ富メルヲ以テ切除ニ際シ虞ルベキ大出血ナク而カモ其法極メテ簡易ナレバナリ成人ニ在テハ之ニ反シ燒灼切除法ヲ安全トス之ニ由リ殆ンド出血ヲ見ズシテ成効スベケレバナリ其他幼者ニ在テモ大出血アルヲ豫

期スベキ體質ノモノニシテ而カモ之ヲ除去スルノ必要アル場合ニハ燒灼法ヲ應用スベシ

(二) 觀血的切除術

*Blutige Operation*

口蓋扁桃腺切除術

*Tonsillotomy palatinae*

ト云フ之ニ使用スル器械及ビ術

式種々アリ

小刀切除法

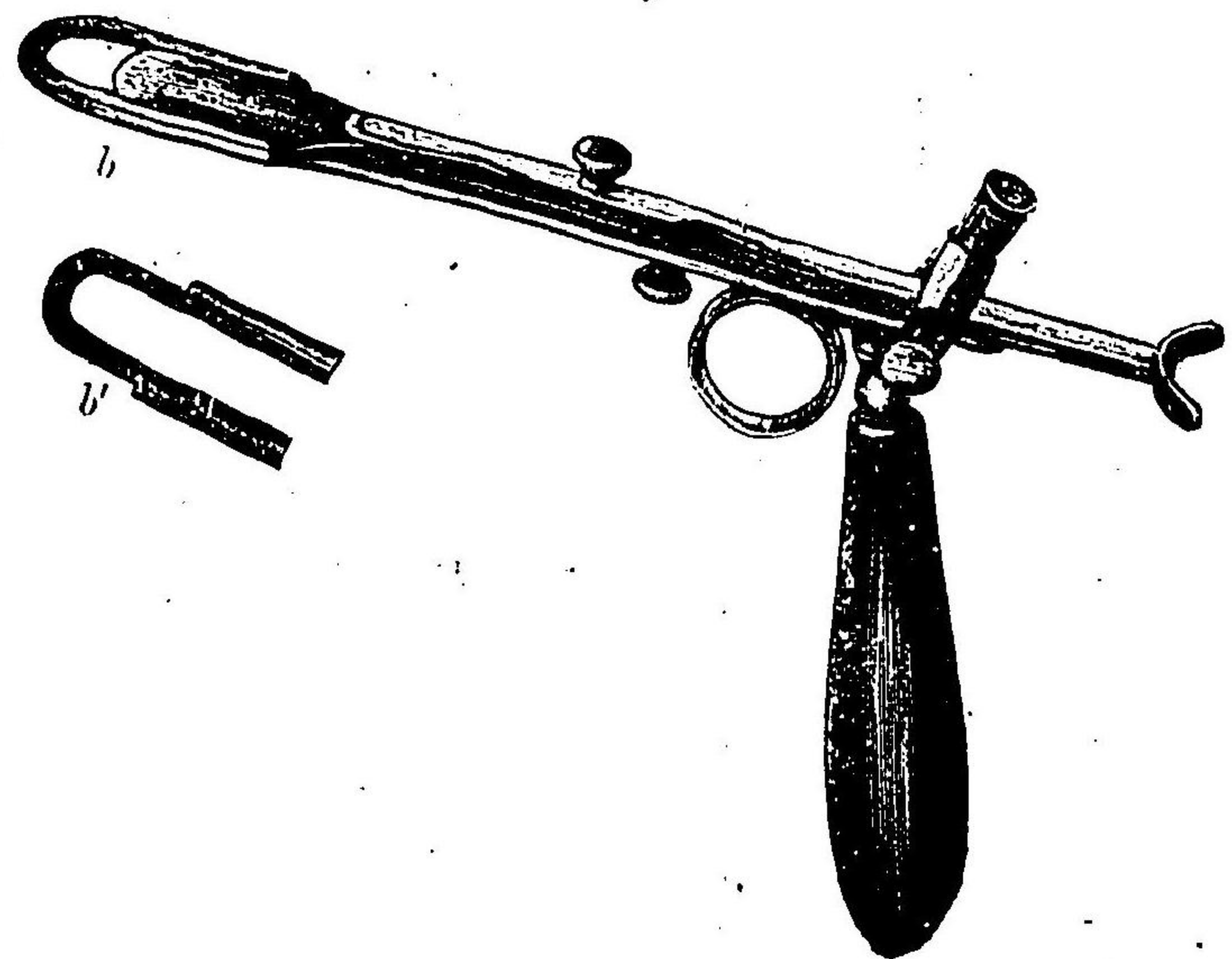
古來外科醫ハ銳針子ヲ以テ扁桃腺ノ實質ヲ鉗持シ小刀ヲ以テ切除スルヲ例トセリ然レドモ此法ハ敢テ容易ナラズ且ツ鉗子ヲ以テ固定スルニ際シ多少扁桃腺ヲ正中線ニ向ヒ牽出スルヲ以テ完全ニ切除セントスレバ時トシテ頸動脈ヲ損傷シ危險ニ陥ラシムルコトアリ故ニ現今此法ヲ顧ミルモノ尠シ

近時廣ク應用セララルハマッケンジー、マチュー及ビバギンスキー氏等ノ扁桃腺切除器ナリマチュー氏切除器ハ銳針ヲ以テ先ヅ固定シ次デ移動性弓狀刀ヲ以テ切除スルモノニシテ一旦穿刺スレバ中途之ヲ改ムルニ不便ナリ



第四百四十四圖

器械師石井氏ノ改良モル  
マッケンジー氏扁桃腺刀



マッケンジー氏切除器  
ハ一手ニ依リ左右何  
レノ扁桃腺ニモ適合  
スルモノナリ刀及ヲ  
引退セシメ之ヲ口腔  
ニ挿入スレバ一モ無  
益ノ損傷ヲ與フルナ  
ク且ツ先端ノ環部ヲ  
扁桃腺ニ齧ラシ其適  
當ナラザル場合ニハ  
容易ニ之ヲ抽出スル  
ヲ得ベク大小約四種  
ヲ準備スレバ如何ナ  
ル程度ノ肥大ヲモ全

ク危険ナクシテ完全且ツ迅速ニ切除スルヲ得ベシ即チ現今ニ於ケル最  
良ノ器械ト謂フベシ

第四百四十四圖ニ示セルハ石井氏ノ改良ヲ加ヘタルモノニシテハ取放

シ得ベク從テ消毒ニ便

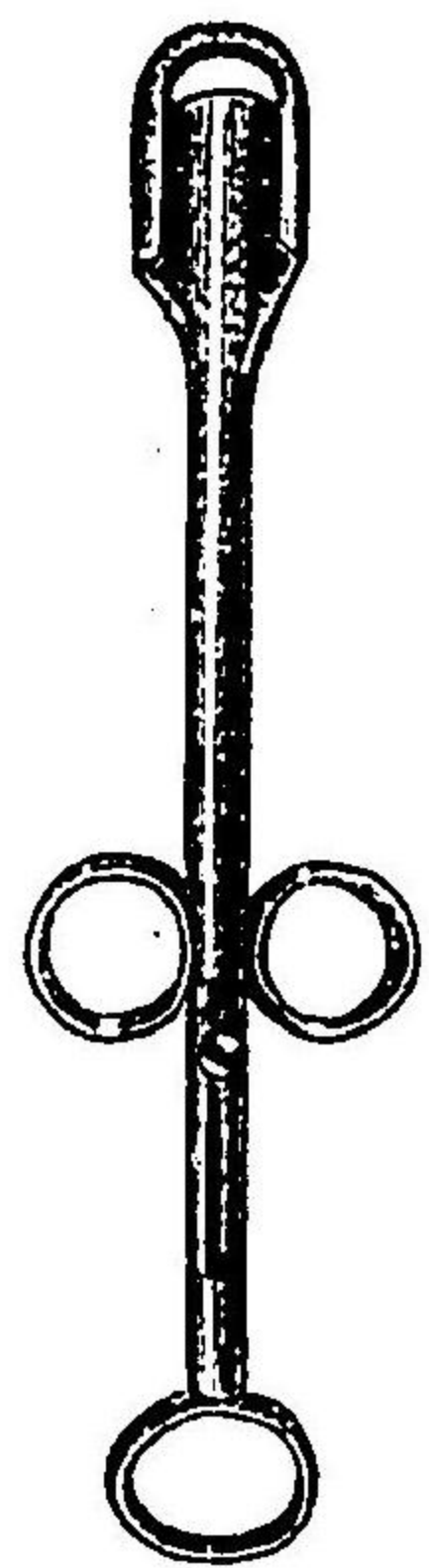
ナリ

バギンスキー氏切除器

ハ前者ニ類ス此レ亦輕

第四百四十五圖

バギンスキー氏  
扁桃腺刀



便ニシテ適當ナリトス只強固ナル把柄ヲ缺クヲ以テ咽頭側壁ノ壓定多  
少充分ナラザルノ憾アリ然レドモ其使用ニ習熟スレバ敢テ遺憾ナキガ  
如シ  
術式 觀血的療法ヲ行フニハ先ツ二%硼酸液ヲ以テ充分ニ含漱セシメ  
タル後直角ニ彎曲セル卷綿子ヲ以テ扁桃腺基底部分ニ五千倍乃至千倍ア  
ドレナリン液及ビ一〇—二〇%古加乙涅液ヲ塗布シ約十分時ヲ經テ豫  
メ嚴ニ煮沸消毒ヲ行ヒタルマッケンジー氏切除器ヲ右手ニ取り刀及ヲ退



引セシメ徐ロニ口腔内ニ挿入シ咽喉腔ニ達スレバ方向ヲ變ジリナル環部ヲシテ扁桃腺基部ヲ圍繞セシメ左示指ヲ以テ充分ニ之ヲ當該側方ニ壓定シ右拇指ニ依リ刀及ヲ押送スベシ此クノ如クニシテ扁桃腺ハ完全ニ切除スルヲ得ベシ

施術ハ實ニ瞬時ニ終了シ出血ハ通常僅微ニ過ギズ其稍多量ナルモノモ年少者ニ在テハ氷片加硼酸液若クハ密兒刺丁澱溶液ノ含漱ニ由リ暫時ニシテ停止ス後出血モ亦稀有ニ屬ス

本手術ニ關スル注意

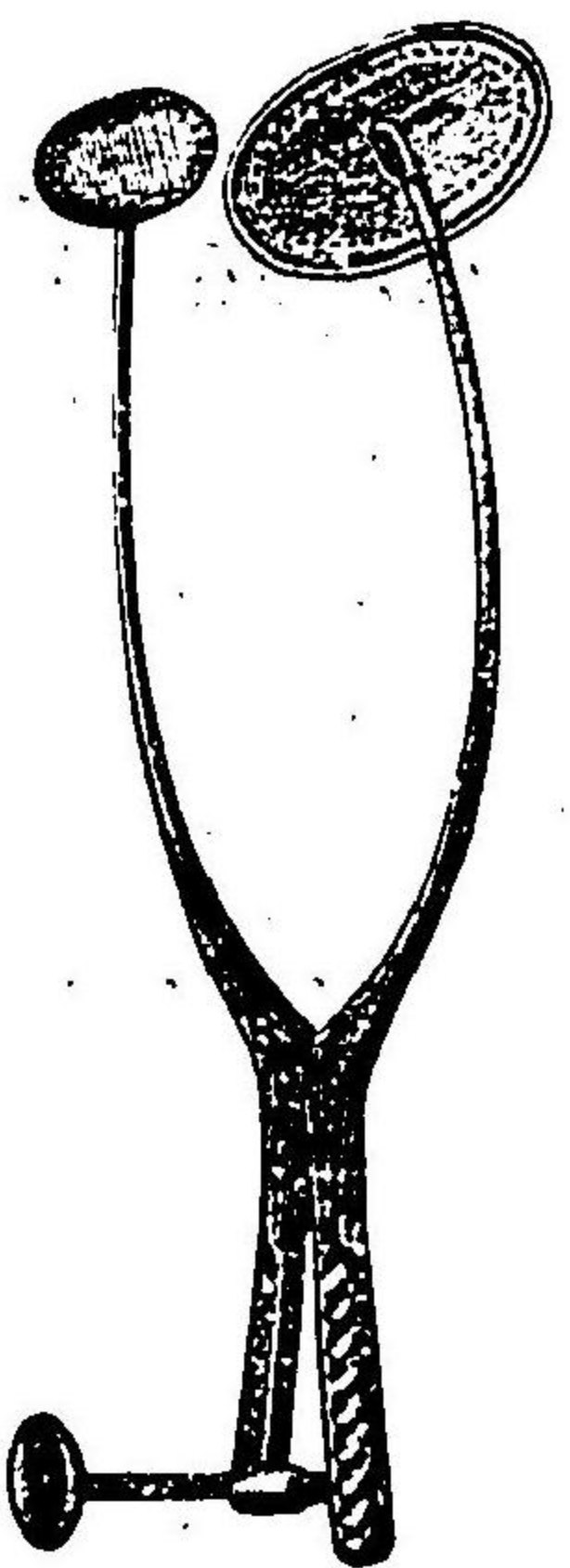
(1) マッケンジー氏器又ハバギンスキー氏器械ヲ應用スルニハ常ニ先端環部ノ比較的小ナルモノヲ撰ブベシ扁桃腺ヲシテ辛フジテ之レニ挿入シ得ルニ過ギザルガ如キ最モ可ナリ未熟者ハ好シテ扁桃腺ニ比シ環部ノ比較的大ナルモノヲ用キル弊アリ斯ノ如キハ切除ニ際シ固定完全ナラザル爲メ滑脱シ肥大セル扁桃腺ノ遊離面一小部實ニ豫想外ノ一小片ヲ切除シ得ルニ過ギズ術者自ラ其不効ニ驚クモノ多キハ吾人ノ屢目

擊スル所ナリ

- (2) 患者絞扼運動ヲ發スルモ環部ノ依頓充分ナラバ成効ハ瞬時ノ後ニ在リ惶惶器械ヲ抽出スル等ノコトナクシテ沈着ノ態度ヲ以テ刀及ヲ送り切除シ了スベシ周圍ノ環溝ニ依リ保護セラレアルヲ以テ此際他部ヲ損傷スルノ危険ナケレバナリ
- (3) 術後少クトモ一時間ハ患者ヲシテ術者ノ監視ヲ離レシムベカラズ何トナレバ手術時出血僅少ナルハ驅血劑ノ應用ニ因スルモノニシテ三十分乃至一時間ノ後其作用消退スルト共ニ時トシテ大出血ヲ來スコトアレバナリ
- (4) 扁桃腺部ノ出血ハ之ヲ制止スルコト容易ナラズ此際「アドレナリン」ノ塗布亦奏効確實ナラズ一半格魯兒鐵液等止血藥ノ應用屢有効ナルモ之ニ依テ生ズル凝塊ハ眞ニ不快ノ極ト謂フベシ須ラク強大ナル綿紗塊ヲ作リテ「アドレナリン」液ヲ浸漬シタル後麥粒鉗子ヲ以テ充分ニ壓迫ヲ試ムベシ



第百四十六圖  
コリドル氏止血器



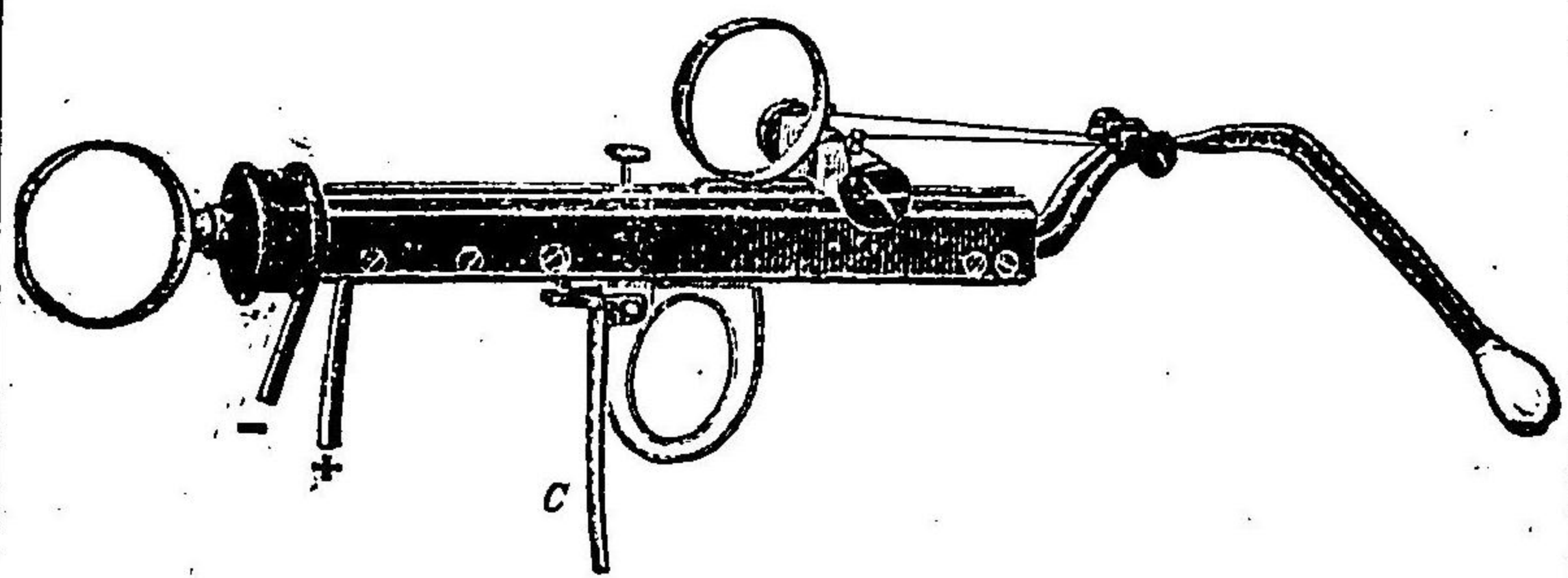
レウキース氏ハ切除スルモ殘部ノ存スルトキハ之ヲ麥粒鉗子ヲ以テ捻轉シ其把柄部ハ綿紗ヲ以テ包ミ齒間ニ固定セシメタリ又シエヒ氏ハ強固ナル絹糸ヲ以テ殘部

ニ周匝結紮ヲ計レリ其他リコルド氏扁桃腺止血器ヲ應用スルコトアリ  
(乙) 燒灼電氣蹄係切除法 Operation mit der galvanocautischen Schlinge.

準備及ビ局所麻醉ハ前法ニ同シ先ヅ壓舌器ヲ以テ舌背ヲ壓低シ冷却セラル白金線蹄係ヲシテ扁桃腺ノ基底ヲ周擁セシメ次デ電流ヲ通ジテ白金線ヲ赤灼ニ至ラシメツ、漸次縮小シテ絞斷スベシ此法ヲ施行スルニハ古加乙澀液ニ依リ咽頭反射機ヲ防遏スベキハ勿論且ツ可及的迅速ナルベシ然ラザレバ容易ニ絞扼運動ヲ來シ無益ノ火傷ヲ近隣ニ發スルコトアリ  
穿刺燒灼法 之ハ柔軟ナル腫大ニ適ス即チ扁平或ハ尖銳ナル燒灼子ヲ

大肥腺扁桃舌症

第百四十七圖  
シュムト氏燒灼電氣蹄係



以テ扁桃腺ノ實質内ニ刺入ス此ノ如クスルコト數ヶ所ナルトキハ反應炎症輕微ニシテ漸次扁桃腺ノ縮小スルヲ見ル此法ヲ反復セシニハ其間隔八日ヲ存セザルベカラズ  
切除絞斷何レノ法ヲ行フモ術後ハ流動性寒冷ナル食餌ヲ攝取セシメ且ツ頻回含漱セシムベシ

舌扁桃腺肥大症

*Hyperphasia tonsillae linguae*

原因 口蓋扁桃腺肥大症ニ於ケルガ如ク反復襲來セル加答兒ノ結果起リ腺病質ノモノニ多シ  
本病ハ壯年者ニ比較的多キガ如シ然レドモ



小兒モ亦之ニ罹ル

症候

時トシテ何等ノ症狀ヲ呈セズ他ノ疾患アリテ偶然發見セララル、コトアリ然レドモ舌扁桃腺肥大ニシテ會厭軟骨縁ニ接觸スルニ至レバ

毎常異物感アリ患者ハ聲咳若クハ嚥下

ニ依リ之ヲ制セントスル傾向ヲ有ス其

他多少分泌增多アリ又諸吟者ニ在テハ

發聲時容易ニ疲勞ヲ來シ且ツ高聲ヲ發

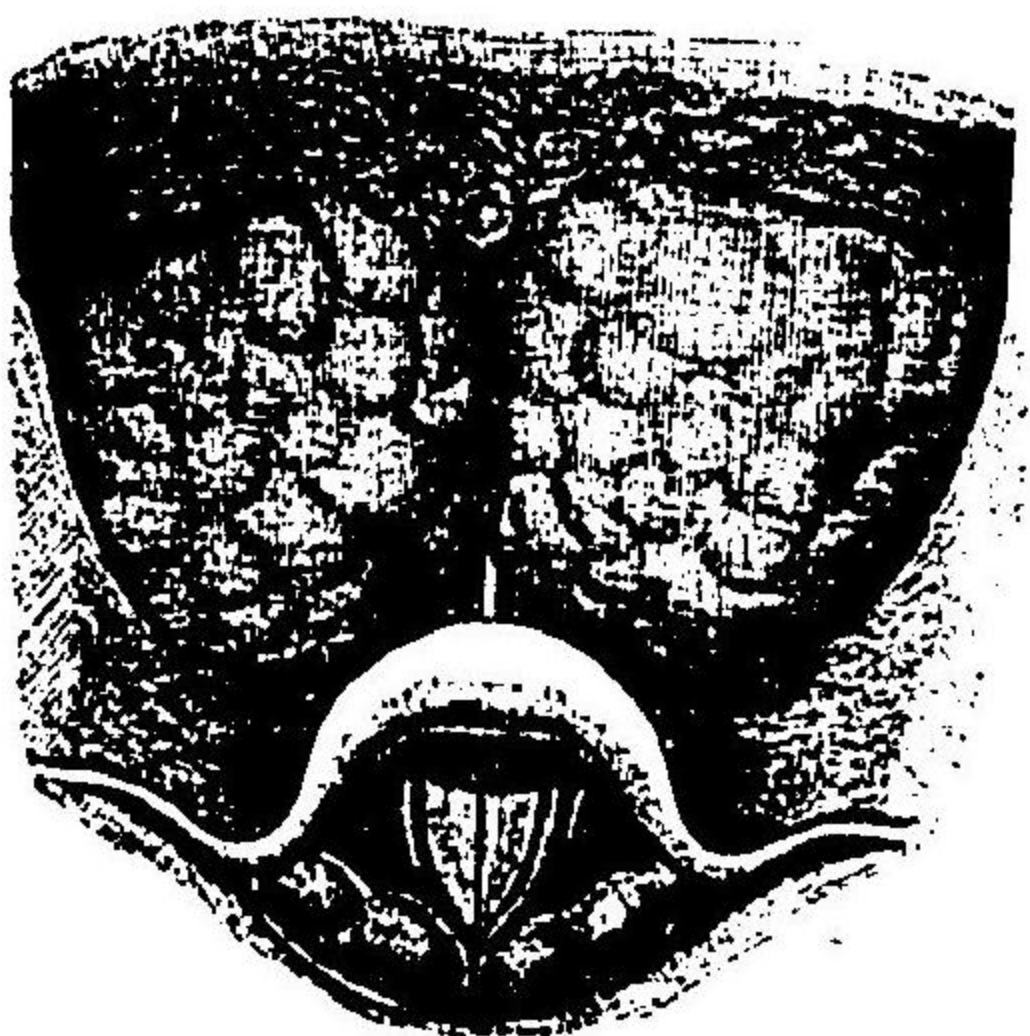
シ難キニ至ル之レ高調ノ聲音ニハ會厭

軟骨ノ舉上完全ナルヲ要スベキモ肥大

セル扁桃腺ノ爲メ障礙セラレバナリ

永續スレバ神經衰弱的症狀ヲ來ス  
他覺的徵候トシテ通常舌根ニ於テ瓊瑤大乃至小豆大ノ小腫瘤簇生シ時  
トシテ會厭軟骨ノ咽頭面及ビ遊離縁ニ接スルヲ見ル稀ニハ數個相融合  
シテ一團塊トナリ恰モ口蓋扁桃腺ニ類似ノ觀ヲ呈スルコトアリ然レド

第四百四十八圖  
舌扁桃腺肥大症



良性菌性咽頭角化症一名咽頭角

モ正中線ニ於テハ必ズ縱徑線上ニ長溝ヲ存ス何トナレバ之ハ舌根ノ縱線ニ一致スル部位ニシテ結締織ヲ存スルノミ腺様組織ヲ缺如スレバナリ

診斷

喉頭鏡検査法ヲ應用スレバ診斷容易ナリ殊ニ其著明ナルモノニ在テハ單ニ壓舌子ヲ以テ舌ヲ壓低スルノミニシテ既ニ其一部ヲ目撃シ得ルコト稀ナラズ

豫後

可良

療法

輕度ナルモノハルゴール氏液ノ塗布ヲ行ヒ收斂性含漱劑ヲ與ヘ高度ナルモノハ鉗鏡子ヲ以テ個々ニ切除シ又ハ電氣燒灼法ヲ行フベシ

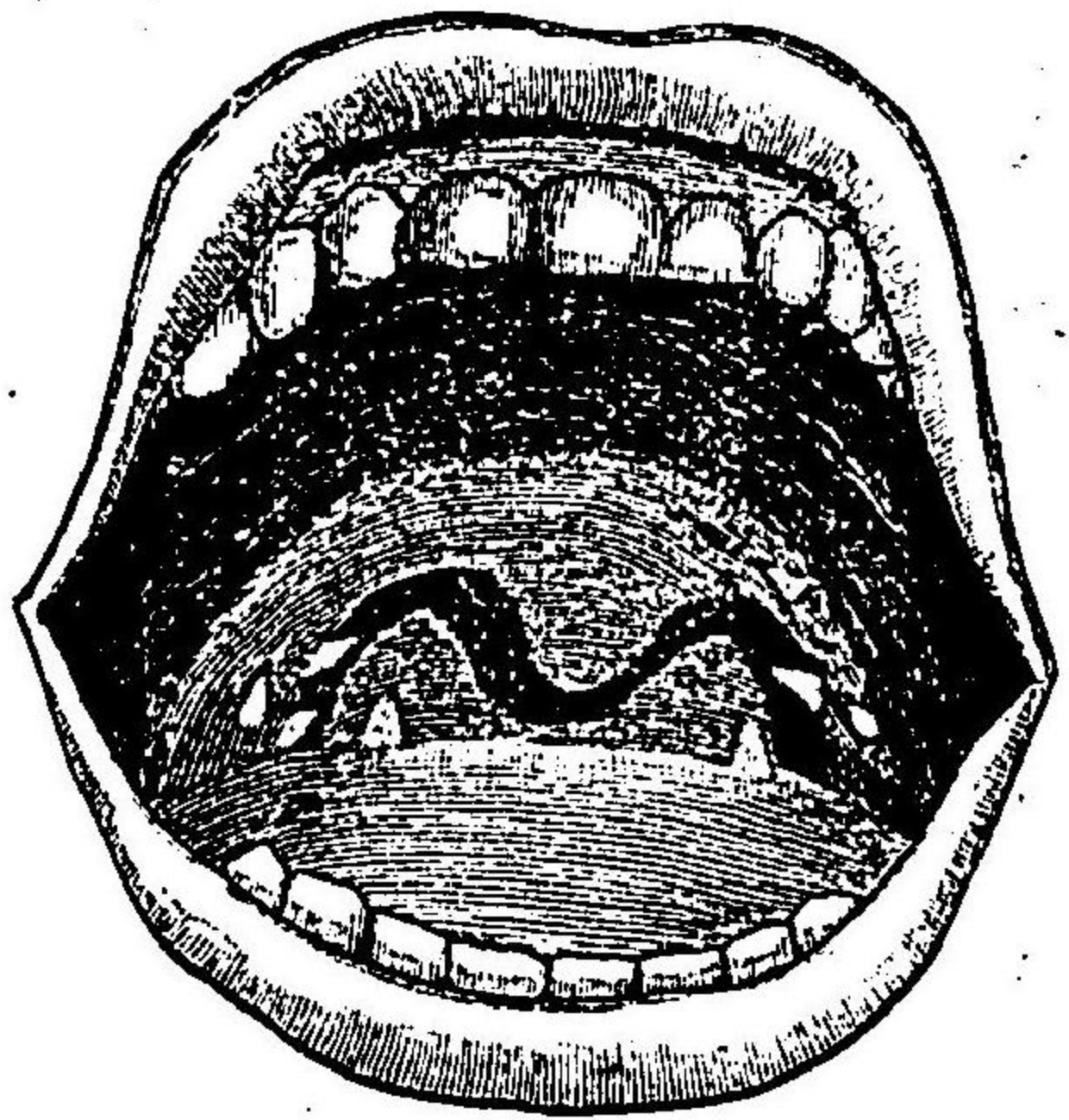
良性菌性咽頭炎一名咽頭角化症

Pharyngomycosis benigna sypkerkeratosis pharyngis.

本病ハ千八百七十三年ベールフレンケル氏ノ初メテ記載セシ所ニシテ氏ハ之ヲ以テレプトトリッキス菌 Leptotriopsis ニ由リ發スル粘膜炎ノ炎症ナリ



第四百九十圖  
咽頭角化症



ト謂ヘリ然レドモシーベンマン氏ノ如キハ「レプトトリッキス」菌ハ健康者ノ口腔ニモ存シ本病ノ原因上何等ノ關係ヲ有スルモノニ非ズシテ本症ハ上皮ノ角變増殖ニ外ナラズト主張セリ後者ノ說真ナルガ如シ本症ハ喫煙セザルモノニ發スルコト多シ

迷ヲ算シ其觀尖形、コンデコロムニ髣髴タリ好ンデ口蓋扁桃腺窩舌根側索及ビ咽頭後壁等ニ生ジ除去セントスルニ敢テ容易ナラズ周圍ノ粘膜多クハ全ク炎症ヲ缺キ或ハ只僅ニ存スルノミ顯微鏡下ニ於テ之ヲ檢スルニ上皮剝離塊ニシテ表層殆ンド全ク角變シ膜樣トナリテ相疊積シ其傍ニ「レプトトリッキス」菌ノ集團ヲ認ム

症候及解剖的變化 白色尖銳圓錐形ノ小隆起ニシテ長サ約二密

自覺症多クハ全ク缺如シ時トシテ乾燥異物ノ感アルニ過ギズ

療法 白色隆起ヲ切除スルモ容易ニ再生ス

局所療法トシテ無水亞兒個保兒昇汞偲里設林液ニコチン液等ヲ塗布シ或ハ其發生セル部位殊ニ腺窩ニ電氣燒灼法又ハ格魯誤酸三格魯兒醋酸等ノ腐蝕法ヲ行フ其他補助療法トシテ含漱ヲ厲行セシム

本症ハ種々ノ療法ニ對シ時トシテ甚ダ頑固ナルモ又時トシテ自ラ治癒消滅ニ就クコトアリ又豫防法トシテ喫煙ヲ命ズルコトアリ

扁桃腺結石 Mandelstein.

扁桃腺結石

扁桃腺結石ハ概シテ稀有ナリ通常小ナルモ稀ニ直徑四仙迷ノ大サニ達スルコトアリ

表面平滑或ハ覆盆子狀ヲ呈シ其色種々ニシテ帶綠灰白帶褐灰白ナルアリ乾燥セルモノハ時トシテ純白ナリ硬度ハ白堊樣或ハ一層硬固ニシテ



同心性重疊ヲ呈ス核ハ缺如シ屢腔洞ヲ形成ス  
其成分ハ炭酸石灰或ハ炭酸麻偏涅矢亞又ハ磷酸石灰或ハ磷酸苦土ヲ多  
シトス

本症ノ基原トシテ膿液殊ニ膿栓ノ乾固ヲ承認スルモノアルモ他ノ學者  
ハ之ヲ否認スルモノアリ即チ扁桃腺膿栓ハ腺窩ニ存スルモ結石ハ組織  
内ニ存スレバナリト

本症ハ主トシテ成人殊ニ高齡者ニ來ル

**症候** 其小ナルモノハ何等ノ自覺的徵候ヲ呈セザルアリ然レドモ通常  
異物感・嚥下痛ヲ訴ヘ時トシテ咳嗽頻發ス

其他殆ンド必發ノ症候トシテ扁桃腺炎及ビ之ニ續發セル化膿症ノ反復  
襲來スルアリ此際時トシテ膿瘍中ニ白點ヲ透見ス往々自潰シテ咳嗽ニ  
伴ヒ結石ヲ咯出スルコトアリ又屢吐劑ノ爲メ絞扼ニ際シ破レテ内容ヲ  
排出スルコトアリ

**診斷** 偏側ノ扁桃腺腫大反復性扁桃腺炎高齡ナル點及ビ觸診ニ依リ診

定スルヲ得ベシ

**療法** 其存在ヲ確認スレバ手術的摘出ヲ行フベシ

咽頭結核 Tuberculose des Rachens

**原因** 肺及ビ喉頭結核ニ續發スルモノ大多數ヲ占メ特發性ノモノハ極  
メテ稀有ニ屬ス

二十歳乃至三十歳ノ成人ニ多ク小兒ニハ稀ナリ而シテ男性ハ女性ニ比  
シ遙ニ多シ(S:1)

**症候** 本病ノ好發部位ハ軟口蓋懸壺垂口蓋弓咽頭後壁ニシテ口蓋扁桃  
腺及ビ舌根扁桃腺モ亦比較的屢其侵襲ヲ蒙ル

他覺的検査上結節・瀰蔓性浸潤及ビ潰瘍ノ三種ヲ區別ス  
粟粒結節乃至大結節ハ灰白色半透明ニシテ周圍ノ粘膜或ハ僅ニ發赤シ  
或ハ却テ蒼白色ヲ呈ス結節ノ成存期ハ短少ニシテ多クハ速ニ破潰シ表  
在性潰瘍ヲ形成ス而カモ一方ニ於テ尙ホ結節ノ混在スルハ屢目撃スル



所ナリ  
 瀰蔓性浸潤ニ在テハ粘膜膠様ニ腫脹シ病變稍深部ニ蔓延ス通常同時ニ散在性結節ヲ存ス  
 吾人ノ最モ多ク遭遇スル形態ハ潰瘍ナリ之ハ結節ノ破壊ニ因テ生ズ時トシテ小ナル圓形物質缺損トナリテ散在シ或ハ數個相聯合シテ鋸齒狀邊緣ヲ有スル大潰瘍面ヲ呈ス瘍底ハ扁平ニシテ豚脂様分泌物ヲ附麗シ或ハ肉芽顆粒ヲ發生ス瘍緣周圍ハ發赤浸潤ヲ呈シ且ツ屢小結節ヲ有ス項部淋巴腺通常腫大シ顎下淋巴腺モ亦屢之ニ參與ス  
 症狀中主要ナルハ患部ノ疼痛ナリ多クハ耳内ニ放散シ嚙下及ビ虚空嚙下ニ當リ著シク増劇シ食餌ノ攝取甚ダ困難ナリ加之浸潤セル口蓋帆ノ運動自在ナラズシテ嚙下ニ際シ液體鼻腔ニ逆流シ益苦惱ヲシテ大ナラシム其他言語鼻聲ヲ帶ビ口内惡臭ヲ放チ屢日嗜潮熱アリ  
 診斷 梅毒狼瘡及ビ癌腫性潰瘍等ヲ顧慮スベシ(後章類症鑑別表參照)而シテ本症ノ確診ハ分泌物及ビ組織片ノ細菌學的検査ニ依ラザルベカラズ

咽頭梅毒

第一期咽頭梅毒 硬性下疳ハ從來人ノ信ゼシ如ク稀ナラズ不正ノ交接

咽頭梅毒 Raehensyphilis

豫後 概シテ不良營養不給ノ爲メ終期ヲ迅速ナラシム  
 療法 局所療法中緊要ナルハ劇痛ヲ除キ食餌ノ攝取ヲシテ容易ナラシムルニ在リ即チ毎食前五—一〇%古加乙涇液又ハメントール阿列布油ヲ塗布シ若クハオルトホルムノ吹撒或ハ乳劑塗布ヲ行フベシ  
 初期ニシテ潰瘍面小ナルモノニハ電氣燒灼法ヲ行ヒ又ハクラウゼ氏ニ從ヒ先ヅ瘍面ヲ搔爬シタル後二〇—八〇%乳酸ヲ以テ腐蝕スルトキハ時トシテ癩痕形成ノ下ニ治療スルコトアリ

處方例

九十四、「オルトホルム」 一〇—二〇  
 阿列布油 一〇〇  
 右每食前一回塗布  
 九十五、「メントール」 一〇—二〇  
 阿列布油 一〇〇  
 右每食前一回塗布



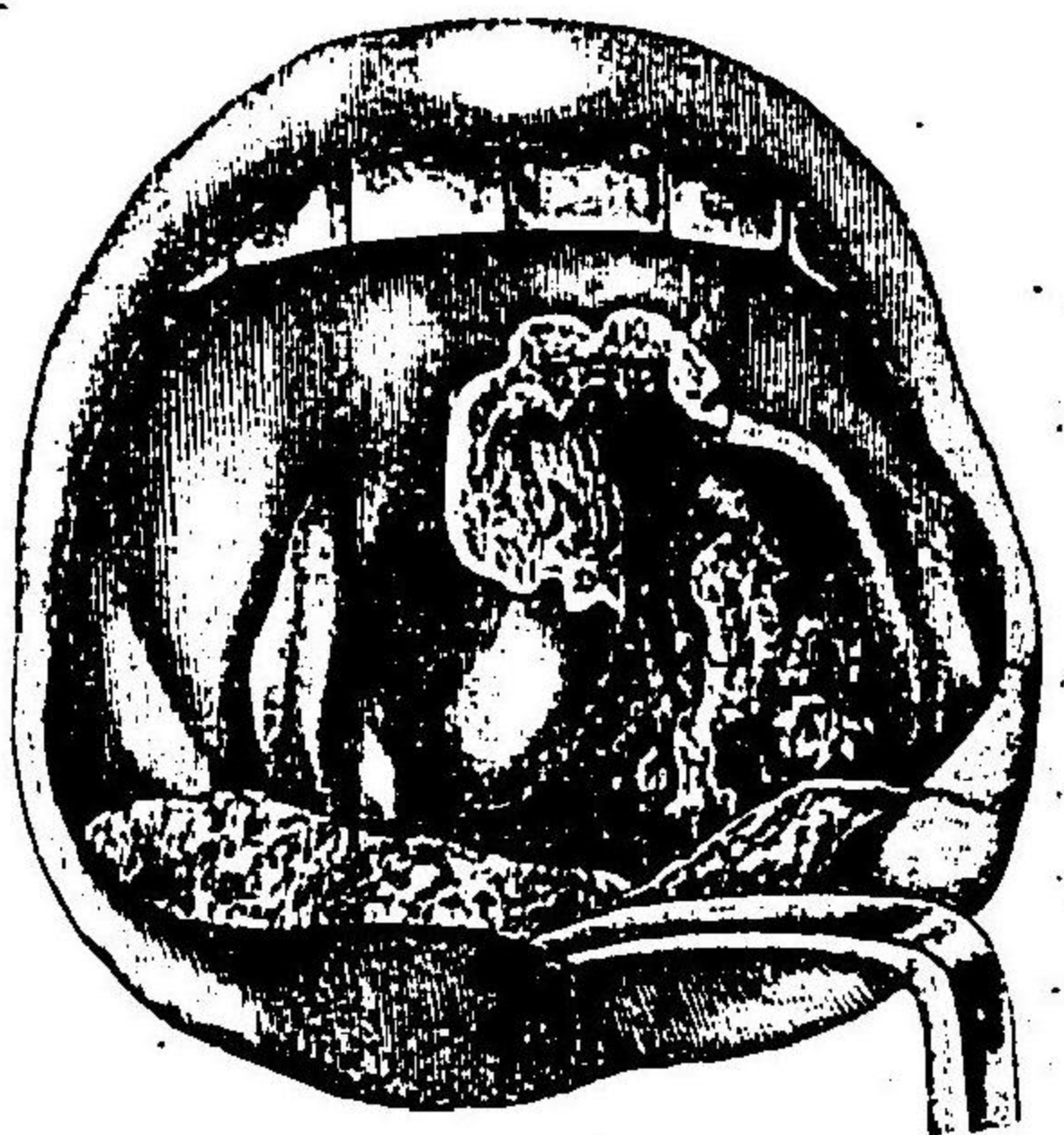
又ハ汚染セル飲食器具ノ媒介ニ依リ感染スルモノナリ通常偏側口蓋扁桃腺稀ニハ爾餘ノ部ニ生ジ邊緣稍隆起硬結シ周圍ハ發赤ス且ツ瘍底ニ不潔ノ附着物ヲ見ル稀ニ侵蝕性下疳アリ

第二期梅毒 梅毒性紅斑 *Erythema syphilitica* トナリテ現ハル、コトアリ之ハ相對性ニ赤色斑紋ヲ生ジ周圍ノ粘膜蒼白ニシテ境界判明ナリ遙ニ屢目擊スル病變ハ所謂扁平疥腫或ハ「*Plaque muqueuse*」*Condylomata lata* or

*Plagues muqueuses* ナリ圓形或ハ橢圓形ノ灰白色ニシテ健康粘膜面ニ比スレバ稍透明ナル扁平隆起トナリ好シデ口蓋扁桃腺、口蓋弓、口蓋帆及ビ懸壘垂等ニ來ル其舌根扁桃腺ニ發スル亦甚ダ稀ナラズ而シテ之ハ幾モナクシテ崩壞シ扁平灰白色ノ淺表性潰瘍トナリ一二ヶ月ニシテ消失ス

第三期梅毒 ハ感染後數年ニシテ發シ先天性梅毒ニ在テハ春機發動期若クハ其以後ニ發ス本期ノ病變ハ「*Gumma*」ニシテ破壞シ深襲性潰瘍ヲ生ズ而シテ護膜腫性潰瘍ハ好シデ口蓋帆側壁及ビ後壁ニ來リ圓形ニシテ邊緣峻急銳利錐鑿セルガ如ク瘍底ニハ汚穢灰白ノ粘液塊若

第五百十圖 護膜性潰瘍



クハ組織片ヲ附着シ之ヲ除去セントスレバ容易ニ輕度ノ出血ヲ來ス潰瘍ハ漸次深部ニ進行スル傾向アリ屢口蓋帆ニ穿孔ヲ生ズ又治癒ニ向ヘバ著シク牽縮セル星芒狀癩痕ヲ結成ス往々口蓋帆ト咽頭後壁若クハ側壁トノ間或ハ舌根ト後壁トノ間ニ高度ノ癒着ヲ來シ爲ニ鼻咽腔ト口部咽腔トノ交通ヲ斷チ又ハ下部咽腔ヲシテ著シキ狹窄ニ陥ラシム

症候 初期ノ下疳及ビ第二期症ニ於テハ共ニ輕微ノ嚙下困難ヲ訴フルニ過ギズ第三期症ニ至レバ大ニ増劇スルモ本病ニ特有ナルハ比較的疼痛ノ輕度ナルニ在リ口蓋帆穿孔アルモノハ開放性鼻瘻トナリ食餌攝取ニ際シ鼻腔ニ竄入スルノ煩アリ癒着性癩痕ノ上部ニ在ルモノハ其程度



ニ從ヒ鼻呼吸ヲ妨ゲ噴嚏困難乃至不能ヲ來シ下部咽喉ニ在ルモノハ嚙下ヲ妨グ著者ハ舌根ヨリ咽頭側壁及ビ後壁ニ亘レル高度ノ瘻着症ニシテ僅ニ約三密迷ノ圓形小孔ヲ貽シ空氣及ビ流動性食餌ノ通過ヲ許スノミ喉頭鏡検査ハ全ク施行スル能ハザルモノヲ實驗セリ

**診斷** 硬性下疳ノ診斷時トシテ困難ナルコトアリ其口蓋扁桃腺ニ好發スルト罹病當初發熱ヲ缺ケルト瘍縁周圍ノ硬結トニ注意スベシ

扁平腫ハ圓形若クハ數個融合セル不正形灰白色ノ扁平隆起ニシテ周圍ノ發赤アルヲ特徴トス尙ホ下顎隅部淋巴腺ノ無痛性腫脹ニ注意スベシ

潰瘍形成アルモノハ若シ表在性ナルトキハヘルペス及ビ結核等ニ因スルモノト鑑別セザルベカラズ然レドモヘルペスハ俄然發熱ト共ニ來リ通常同時ニ水泡疹ノ存在ヲ見ルヲ得ベシ結核性潰瘍ハ比較的淺表性ニシテ瘍縁不正鋸齒狀ヲ呈シ屢周圍ニ粟粒結節ヲ存ス潰瘍若シ深襲性ナルトキハ癰腫ト區別セザルベカラズ之ハ主トシテ高齢者ニ發ス其他後

章類症鑑別表ヲ參照スベシ

口蓋帆穿孔ハ梅毒ノ外咽頭癩ニ固有ナリ然レドモ此ハ他ニ癩性病變即チ結節神經肥厚痛覺脫失等ヲ併有スルニ依リ鑑別スルヲ得ベシ

茲ニ一言特ニ注意スベキハ懸壅垂ノ著シキ腫脹及ビ帶紫色發赤ナリ此際後鼻鏡検査ヲ怠ルベカラズ何トナレバ其後面ハ屢梅毒性潰瘍ノ占居スル所ニシテ實ニ第一發現部位タルコト多ケレバナリ

尙ホ護膜腫性潰瘍ハ好ンデ口蓋縫線ニ發ス殊ニ懸壅垂ニ近ク發生スレバ往々其脱落ヲ來スモノトス

**豫後** 疾患ノ種類及ビ程度ニ因リ差異アリ

**療法** 初期下疳期ニハ五%プロタルゴール硝酸銀液等ヲ塗布シ或ハ硝酸銀實質腐蝕法ヲ行ヒ且ツ硼酸鹽剝明礬等ノ含漱ヲ厲行セシムベシ

第二期及ビ第三期症ニ在リテハ全身療法ヲ主眼トス即チ第二期症ニハ水銀療法ヲ主トシ兼テ沃度加里ノ内服ヲ處シ第三期症ニハ沃度劑内用ヲ主トシ傍ラ水銀療法ヲ併施スベシ



其他局所療法トシテルゴール氏液、プロタルゴール液等ノ塗布、オルトホルム、「イトロール」、「アイロール」等ノ吹撒及ビ硼酸明礬溶液ノ含漱ヲ行ハシムベシ

水銀療法ハ灰白軟膏塗擦法ノ外、筋肉注射用トシテ左方ヲ處ス  
處方例

- 九十六、撒果失留酸水銀 五・〇
- 巴拉賓油 五〇・〇
- 右混和溶解爲注射料 (毎日一回一筒腎部筋内注射)
- 九十七、昇汞 〇・〇一
- 食鹽 一・〇
- 縮水 一〇・〇
- 右混和爲注射料
- 九十八、甘汞 每五日一回一筒腎部筋内注射
- 阿列布油 五〇・〇
- 右爲注射料(注射法同上)
- 九十九、黄色沃度汞 〇・五
- 甘草末 各適宜
- 甘草煎 各適宜
- 右混和爲三十九日三回食後一丸宛

咽頭癩

咽頭癩 *Lepra des Rachens.*

原因 ハンゼン氏發見ノ癩病桿狀菌ノ侵襲ニ由ル  
症候 咽頭癩ハ主トシテ結節ヲ以テ來リ斑紋狀ニ現ハル、コト殆ンド

絶無ナリトス

癩結節ハ瓊瑤大乃至棗實大ニシテ粘膜面ヨリ僅ニ突隆セル黄白色光輝アル浸潤ヲ呈シ屢中心ニ脐窩ヲ有ス此ハ軟口蓋、口蓋弓(殊ニ後口蓋弓)ヲ多シトス懸壅垂及ビ咽頭後壁ニ好發シ口蓋扁桃腺ニ發スルコト無シ而シテ其侵襲ハ通常濾胞ヨリ始マル

結節周圍ノ粘膜ハ赤色ニシテ境界明瞭ナリ屢中心ヨリ崩壞シ潰瘍ヲ形成ス圓形ニシテ瘍縁銳利瘍底ハ玻璃様黄色貧血ニシテ口蓋ニ簇生スレバ著シク肥厚膨大ス又潰瘍面漸次深襲シテ穿孔ヲ來スコトアリ  
主訴ハ咽頭乾燥感及ビ味覺減退ナリ口蓋帆ハ屢知覺脱失シ潰瘍アルモ疼痛ハ或ハ僅微或ハ全ク缺如ス  
潰瘍治癒スルトキハ梅毒ニ於ケルガ如ク著シク牽縮セル不正星芒狀癩痕ヲ結成ス從テ各部ノ癒着ヲ來スコト稀ナラズ

診斷 通常困難ナラズ他ノ身體部位ニ癩性變化アルヲ例トス  
經過 甚ダ遷延シ終ニ肺ノ癩性變化ニ因リ死スルヲ常トス



咽頭狼瘡

豫後 不良

療法 内服ニハ撒酸、撒曹、大楓子油、結列阿曹篤等ヲ與ヘ局部ニハ硝酸銀、格魯謨酸若クハ乳酸ノ腐蝕法ヲ行フ

處方例

百、撒里失爾酸  
右爲一包與十包、オアラト「ニ入レ」  
一日三回一包ツ、

百一、大楓子油

右入膠液一日三四分服  
(漸次增加一五〇ニ至リ持長スベシ)

五〇

咽頭狼瘡 *Lupus des Rachens.*

本病ハ原發性ニ來ルコト稀ニシテ多クハ顔面或ハ外鼻等ノ狼瘡ニ續發ス殊ニ顔面ヨリ頰粘膜ニ波及シ次デ咽頭ニ達スルモノ最モ多シ其咽頭ニ於ケル好發部位ハ口蓋帆及ビ懸壅垂ニシテ口蓋扁桃腺之ニ次ギ舌根及ビ咽頭後壁ニハ極メテ稀ナリ

症候 圓形麻實大乃至豌豆大ノ相互融合セル結節ヲ生ズ其色澤ハ周圍健康部ノ粘膜色ト著シキ差異ナシ又破壞スレバ潰瘍ヲ形成ス其性狀結

咽頭良性腫瘍

核性潰瘍ニ於ケルガ如ク鋸齒狀銳利ナラズ底面ハ弛緩セル蒼白色ノ肉芽ヲ有シ豚脂様分泌物ヲ缺ク加之潰瘍ノ周圍ニ於テ往々既ニ癩痕結成アルヲ見ル疼痛ハ或ハ缺如シ或ハ唯僅ニ存スルノミ

經過 結核ニ於テ迅速ナルニ反シ本病ニ於テハ緩慢ナリ時トシテ患部ヨリ結核菌ヲ證明シ得ルコトアリ

診斷 毎常容易ナルニ非ズ咽頭結核梅毒癩等ト誤診スルコトアリ

豫後 生命ニ關シテハ良ナルモ治癒ノ點ニ於テハ良ナラズ又再發ハ屢見ル所ナリ

療法 内服ニハ肝油、鐵劑及ビ規尼涅等ヲ與ヘ局部ニハ硝酸銀、格魯謨酸及ビ乳酸等ノ腐蝕法若クハ搔爬或ハ電氣燒灼法ヲ行フ

咽頭良性腫瘍 *gutartige Geschwülste des Rachens.*

咽頭ノ良性腫瘍ハ概シテ稀有ニ屬ス  
從來報告セラレタルハ囊腫、乳嘴腫、纖維腫、血管腫、脂肪腫、粘液腫及ビエヒ



ノコックス等ナリ  
 乳●嘴●腫● Papillom ハ就中最モ屢々見ル所ニシテ其好發部位ハ懸壺垂トス通  
 常其尖端ヨリ淡紅色類球形ニシテ表面凹凸不平ノ腫瘍トシテ懸垂シ多  
 クハ有莖性ナリ其他後口蓋弓ヨリ發生スルコト稀ナラズ然レドモ扁桃  
 腺ニ生ズルハ甚ダ稀有ニ屬ス  
 口蓋扁桃腺ニハ稀ニ夫レト同一ノ構造ヲ有スルポーリープ狀腫瘍ヲ生ズ  
 ルコトアリ之ヲ扁桃腺茸腫 Tonsillar polyp ト云フ  
 尙畸形腫瘍ノ一種トシテ具變性咽頭茸腫 Bekarter Rachempolypen アリ  
 著者ハ岡田博士ノ教室ニ於テ口蓋扁桃腺ニ發生セル有莖性豌豆大腫瘍  
 ノ一例ヲ實驗セリ之ハ主トシテ横紋筋纖維及ビ腺ヨリ成レル極メテ珍  
 奇ナル畸形的腫瘍ニシテ大日本耳鼻咽喉科會雜誌上ニ於テ報告セリ  
 症候 腫瘍ノ大サ及ビ發生部位ニ因リ一樣ナラズ其小ナルモノハ屢々何  
 等ノ症狀ヲ喚起セズ偶然發見セラル、コトアリ然レドモ大ナルモノニ  
 在テハ通常異物感アリ時トシテ嚥下及ビ言語障礙ヲ發ス殊ニ有莖性ニ

咽頭悪性腫瘍

肉腫、悪性淋  
巴腺

癌腫

シテ移動シ會脈軟骨ニ接觸シ若クハ喉頭入口部ニ竝入スル者ニ在テハ  
 咳嗽及ビ呼吸困難ヲ發スルコトアリ  
 其他血管腫ノ如キハ時トシテ出血ヲ來ス  
 診斷 概ネ容易ナリ疑ハシキモノハ組織學的検査ヲ行フベシ  
 豫後 良  
 療法 有莖性ノモノハ莖根部ヨリ剪除或ハ灼斷スベシ  
 廣基性ノモノハ燒灼電氣歸係ノ應用又ハ電氣分析法ヲ行フベシ

咽頭悪性腫瘍 *Insartige Geschwülste des Rachens.*

肉腫 *Carcom* 悪性淋巴腺腫 *malignes Lymphom* ハ好ンデ口蓋扁桃腺

ニ發シ又稀ニ舌根扁桃腺ニ生ズ

癌腫 *Carcinom* 亦口蓋扁桃腺咽頭側壁梨子狀窩及ビ下部咽腔ノ前壁即

チ喉頭壁ニ發生ス

症候 悪性腫瘍ハ其發育良性ノモノニ比シ著シク迅速ナルト組織ノ深



部ニ蔓延シ易キ傾向アルトニ因リ比較的速ニ著明ノ症狀ヲ呈スルモノトス殊ニ嚥下困難言語及ビ呼吸障礙ヲ以テ主徴トス然レドモ其強弱ハ腫瘍ノ發生部位ニ依リ一樣ナラズ假令バ舌根ニ生ズルモノハ口蓋扁桃腺ニ發スルモノニ比シ症狀顯著ナリ其他口内惡臭ハ肉腫及ビ癌腫ニ存シ且ツ疼痛及ビ異物感ヲ訴フ其良性腫瘍ト異ナレルハ下顎隅部淋巴腺ノ腫脹及ビ壓痛ノ存在ナリ

**診斷** 惡性淋巴腺腫ハ肉腫ニ於ケルガ如ク近隣淋巴腺ノ腫脹ヲ發スル

モ隣接組織ト癒着スル傾向ナク疼痛彼レニ比スレバ輕易ナリ

肉腫ハ壯年者ニ多ク通常表面平滑ニシテ硬度軟ナリ癌腫ハ之レニ反シ硬固ニシテ表面凹凸不平ナルヲ例トス又肉腫ハ初期ニ於テハ扁桃腺肥大症ト誤認スルコトアリ然レドモ其偏側ニ限局セルト腺窩ノ消失セルト發育ノ迅速ナルトニ依リ鑑別スルヲ得ベシ

其他癌腫ハ高齢者ニ來リ咽喉頭ニ原發スルハ稀ナリ又好ンデ下部咽腔前壁ニ發シ環狀及ビ披裂軟骨附近ニ蔓延スルヲ以テ喉頭ニ關スル症狀却

テ著明ナルコトアリ

惡性腫瘍ノ崩壞シテ潰瘍ヲ形成シタルモノハ護謨腫ト鑑別セザルベカラズ須ラク沃度劑ノ應用及ビ經過ノ觀察ニ依リ判定スルヲ要ス

一般ニ惡性腫瘍ノ確診ニハ組織學的研索ヲ行フベシ

**豫後** 不良ナリ幸ニ早期診斷ニ依リ手術ヲ施スモ再發ハ殆ンド免レ難シ

**療法** 全然健康部ヨリ除去スルヲ得バ外科的療法ヲ行フベシ

既ニ手術ニ適セザルモノハ電氣分析法ヲ試ムベシ其他對症的療法トシテ鹽素酸加里過滿飽酸加里液等ノ含漱ヲ行ハシメ疼痛ニ對シテハ古加乙涅槃メントール油ノ塗布或ハオルトホルム末ノ吹撒等ヲ行ヒ嚥下困難甚シケレバ食道護謨管ヲ用ヒテ食餌ヲ注入シ或ハ滋養洗腸ヲ行フベシ呼吸困難アルモノニハ時宜ニ依リ氣管切開術ヲ施コサルベカラズ淋巴肉腫ニハ亞砒酸ノ内服若クハ腫瘍内注射ヲ試ムベシ



咽頭異物

咽頭異物 Fremdkörper im Rachen.

愴惶食卓ニ就キ咀嚼充分ナラズシテ嚥下スルトキハ時トシテ稍大ナル食餌ノ頸部ニ箝滯スルコトアリ此ハ通常下部咽腔内環狀軟骨ノ後方ニ箝在スルモノニシテ爲メニ喉頭ヲ壓迫シ時トシテ喉頭入口部ヲ壓閉シテ窒息ニ陥ラシムルコトアリ

吾人ノ通常遭遇スルハ小形異物ニシテ魚骨針弛緩セル義齒及ビ菓莖等ナリ其好ニデ隱匿スル部位ハ舌會厭窩 Vallecula epiglottica 梨子狀窩口蓋扁桃腺窩等ナリ又時トシテ舌扁桃腺部ニ潜在ス其他下部咽腔ヨリ食道移行部ニ至ル間隨處其箝在スル所トナル

症候

鈍ニシテ大ナル異物ハ前述ノ如ク呼吸ヲ障礙ス從來窒息ヲ來セシ實例ニ乏シカラズ小ニシテ尖銳ナルモノハ常ニ刺痛ヲ發ス此ハ嚥下ニ際シ増劇ス時トシテ該損傷部ニ膿瘍ヲ形成シ又ハ汎ク蔓延シテフレグモノネヲ續發スルコトアリ然レドモ又時トシテ著明ノ症狀ヲ呈セズ數月乃至年餘潜伏スルコトアリ

繼發症中危險ナルハ喉頭後部ノ尖銳異物ニ因リ終ニ穿孔ヲ來シ氣腫ヲ惹起シ若クハ食餌氣管ニ流入シ異物性肺炎ヲ發スルニ在リ時トシテ異物ノ尖端血管ヲ損傷スルコトアリ就中危險ナルハ頸動靜脈ノ損傷ナリ

診斷

既往症一定ノ部位ニ於ケル刺痛異物感唾液分泌増加混血粘液ノ排出等ニ注意シ且ツ喉頭鏡検査法ヲ應用スレバ通常困難ナラズ指頭觸診法モ亦屢診斷ヲ助ク

小魚骨ノ如キ類透明ノ異物ハ線狀ニ牽張セル粘液ト誤ルコト稀ナラズ此ハ注意スベキノ點ナリ

豫後

合併症繼發症ナキモノハ良

療法

其存在ヲ確認スレバ鉗子ヲ以テ摘出スベシ若シ發見容易ナラザルトキハ裝綿セル卷綿子ヲ以テ其好發部位ヲ摩擦スベシ屢奏効ス然レドモ爲メニ尖銳ナル異物ヲシテ深部ヲ損傷セシムル虞アリ注意ヲ要ス食道消息子ノ應用モ亦同様ノ危險アリ



咽頭出血

咽頭出血 Blutungen des Rachens.

**原因** 全身病ノ一症狀トシテ來ル假令バ血友病、紫斑病、ツェルホーフ氏紫斑病、白血病等ナリ或ハ心臟及ビ肺臟ノ疾患假令ヘバ心臟瓣膜病、潰瘍性心内膜炎、肺氣腫等又ハ腸室扶斯、萎縮腎、肝臟萎縮、糖尿病等ニ因リ來ルコト稀ナラズ

局所的原因トシテハ咽頭ニ於ケル潰瘍及ビ化膿症ナリ

咽頭ニ於ケル擴張セル靜脈殊ニ舌根及ビ後壁ニ存スルモノハ醫咳若クハ強劇ナル咳嗽ニ因リ出血ヲ來シ人ヲシテ肺出血核ヲ疑ハシムルコト屢ナリ乾性咽頭炎ニ於テモ痂皮ノ剝離ト共ニ出血ヲ來スコトアリ

其他尖銳異物ヨリ來ルモノアリ又外傷殊ニ外科的手術後ニ發ス殊ニ口蓋扁桃腺切除ノ後一二時間ヲ經テ來リ甚シキハ八日ノ後痂皮ノ剝離ニ際シ發スルコトアリ

**症候** 組織内出血ト組織外出血トヲ區別ス甲ニ屬スルモノハ粘膜内或

ハ粘膜下溢血トシテ現ハレ其量多キモノハ所謂血腫ヲ形成シ呼吸及ビ嚥下障礙ヲ來ス乙ニ屬スルモノハ咯出セラレ或ハ食道稀ニハ氣管内ニ流入シ通常絞扼若クハ咳嗽ニ依テ排出セラル

**診斷** 咽頭出血ノ確診ハ其出血部位ヲ目撃シタルトキニ限ル其量ノ多寡ハ喉頭若クハ肺出血ト鑑別スルニ足ラズ然レドモ顯微鏡検査上血液ト共ニ扁平上皮ノ多數ヲ認ムレバ咽頭ヨリ來ルモノト斷定スルヲ得ベシ僅ニ其一ニヲ認ムルモ直ニ以テ咽頭出血ヲ斷言スベカラズ何トナレバ深部ヨリ來ルモノモ其咽頭通過ノ際剝離セル扁平上皮ヲ受納スベクレバナリ

**豫後** 原因ニ關シ差異アリ

**療法** 安靜、氷片嚥下ヲ命ジ出血部位ヲ詳ニスルヲ得バ之ヲ壓迫若クハ腐蝕シ(格魯謨酸又ハ燒灼電氣ヲ用ユ)其他麥角ノ内服、單寧液ノ塗布及ビ含漱ヲ可トス



神經性咽喉疾

神經性咽喉疾患 *Neurosen des Rachens.*

咽喉知覺脫失及鈍麻

(甲) 知覺障礙 *sensible Neurosen.*

(一) 咽喉知覺脫失及鈍麻 *Anästhesie u. Hyästhesie.*  
知覺鈍麻ハ貧血、萎黃病及ビ高斷萎縮ニ來ル  
知覺脫失ハ脊髓勞、球麻痺、歇私的里及ビ癲癇發作ノ後或ハ室扶斯、虎列刺等ニ來リ又舌咽神經及ビ迷走神經麻痺ニ因リテ起ル

咽喉知覺過敏

(二) 咽喉知覺過敏 *Hypersästhesie.* 急性及ビ慢性咽喉加答兒ハ殆ン

ド常ニ咽喉知覺過敏症ヲ有ス殊ニ酒客、結核患者及ビ妊婦ニ於テ最モ著明ナリ甚シキニ至テハ粘膜ノ接觸ナキモ單ニ口腔ヲ強ク開大スルノミニシテ既ニ絞扼運動ヲ發スルコトアリ其他腦膜炎ニ來リ又ハ飽食後ニ發ス

咽喉異常感覺

(三) 咽喉異常感覺 *Parästhesie.* 異常感覺ハ最モ屢々遭遇スルモノニシテ異物感、灼熱、搔痒、乾燥等ノ感ヲ訴ヘ或ハ頸部ニ異物ノ上下スルヲ感

ズルコトアリ(歇私的里性球 *Globus hystericus*).

此等ノ異常感ハ全ク原因ノ證明スベキモノナクシテ來ルコトアリ歇私的里、腦脊髓神經衰弱症等ノ如シ然レドモ多クハ多少ノ原因ヲ探求シ得ベキモノナリ

咽喉異物ノ場合ニ於テ確實ニ之ヲ摘出シ若クハ嚥下シタル後尙ホ數日間異物感アルコト稀ナラズ

懸壅垂ノ過長ナルモノハ舌根、會厭軟骨緣等ニ接觸シ異物感著甚ニシテ之ヲ排除センガ爲メ聲咳頻發スルコトアリ

舌根扁桃腺肥大モ亦會厭軟骨ニ觸レ煩ハシキ異物感ヲ訴フ側索咽喉炎及ビ顆粒性咽喉炎、口蓋扁桃腺肥大、鼻咽腔加答兒、乾性咽喉炎等皆異常感覺ヲ發スルヲ例トス

其他ホフマン氏ハ脊髓痙管症 *Syringomyelie* 患者ニシテ口腔及ビ咽喉ニ冰冷ノ感ヲ訴フルモノヲ見タリト云フ

ユーラツ及ビゴットスタイン氏ハ咽喉異常感覺ノ肺結核初期ニ多發スル



咽頭神經痛

ヲ唱道セリ

(四) 咽頭神經痛 Neuralgie 稀有ナリ主トシテ歇私的里性婦人ニ來ル而シテ月經困難ニ伴フコト多シ時トシテ咽頭神經痛ノ耳疾患ニ基因スルコトアリ之レ迷走神經耳枝ノ媒介ニ由ルモノナリ

豫後 原因ノ異ナルニ依リ一様ナラズ

療法 知覺脫失乃至鈍麻ニハ原因療法ノ外電氣ヲ應用シ且ツストリヒ

ニ一ン皮下注射ヲ行フ

知覺過敏ニハ飲酒喫煙及ビ峻烈ナル香料ヲ禁ジ加答兒ヲ治療シ麻醉藥

ノ内服抱水格魯拉兒臭素劑等ヲ與ヘ局部ニハ古加乙涅(メントール)液等

ヲ塗布スベシ

異常感覺アルモノハ前述ノ原因ヲ精査シ顆粒側索肥大舌根囊狀腺ノ増

殖等アラバ之ヲ燒灼或ハ切除シ乾性炎ニハルゴール氏液ヲ塗布シ此際

合漱ニハ收斂性ノモノヲ避クベシ(神經質家ニハ臭素劑及ビ纈草劑ヲ與

ヘ兼テ精神療法ヲ行フベシ

神經痛アルモノニハ臭剝阿魏纈草等ノ内服藥ヲ與ヘ且ツ電氣療法ヲ行フ耳疾患アラバ適當ノ處置ヲ要ス

(乙) 運動障礙 motorische Neuronen.

咽頭痙攣

(一) 咽頭痙攣 Spasmus 強劇ナル痙攣ハ恐水病ニ來ル此ハ嚥下運動

ニ際シ現ハル、ヲ常トス然レドモ後ニハ單ニ食物ヲ目撃スルノミニ

シテ既ニ痙攣ヲ發シ患者ヲシテ飲食ヲ嫌忌セシム加之甚キハ水ヲ觀

望スルモ痙攣發作ヲ來ス嚥下不能ノ爲メ唾液ハ口裂ヨリ流出ス

ローゼンベルヒ氏ハ振頭麻痺症患者ニ於テ頭部及ビ手指ノ振頭ト同時

ニ口蓋帆筋ノ痙攣ヲ發スルヲ見タリト云フ

其他顔筋痙攣及ビ歇私的里等ニ來ル

豫後 時トシテ不良

療法 鎮痙藥例ヘバ莫兒比涅抱水格魯拉兒臭素劑等ヲ與フベシ哥囉仿

謨迷腺亦効ヲ奏スルコト稀ナラズ



(二) 口蓋帆麻痺 Gammensegelähmung.

原因 成人ニ在テハ通常中樞性疾患ニ基因シ偏側舌萎縮及ビ口唇ノ麻痺ヲ伴フコト多シ殊ニ慢性進行性球麻痺脊髄勞進行性筋萎縮症側索硬化症及ビ腦軟化症等其他顔面神經麻痺ニシテ膝狀節ノ上方ニ障礙アルモノニ發ス

末梢性口蓋麻痺ハ多ク實扶帝里後ニ發ス從テ小兒ニ屢之ヲ見ル又稀ニ腺窩性扁桃腺炎ノ後ニ發スルコトアリ  
其他瀕死ノ際往々此麻痺ヲ見ル

症候 兩側麻痺ハ小兒ニ發スルコト稀ナラズ然レドモ通常偏側ヲ多シトス偏側麻痺ニ在テハ發聲時懸壺垂健側ニ舉上セラレ兩側ノ麻痺ニ在テハ其程度ニ依リ口蓋帆或ハ全ク舉上セズ或ハ完全ナラズシテ鼻咽腔ヲ下方ヨリ閉鎖スル能ハズ從テ聲音鼻聲トナリ嚥下ニ際シ食餌鼻腔ニ竄入ス咽雷亦不能トナル  
咽頭括約筋麻痺ニ在テハ食塊舌根部及ビ舌會厭窩ニ滯留シ嚥下スル能

ハズ流動性飲料ハ容易ニ喉頭内ニ流入シ咳嗽及ビ窒息感ヲ發ス  
豫後 實扶帝里後麻痺ハ容易ニ治癒スルモ中樞性疾患ニ基因スルモノハ概ネ不良ナリ

療法 中樞性麻痺ニハ驅梅法ヲ試ミ神經經過中ノ障礙ハ出來得ベクン  
外科的療法ヲ行フベシ  
末梢性麻痺ニハ電氣療法ヲ行フ即チ消極ヲ局部ニ積極ヲ頂部或ハ下顎隅部ニ貼ス新鮮ノ場合ニハ感傳電氣ニ依リ良効ヲ奏スルコト多シ而シテ電氣ノ強度ハ口唇ニ導子ヲ附シ攣縮ヲ來スヲ以テ度トス  
其他ストリヒニールノ皮下注射ヲ賞用ス

處方例

- 百二、硝酸新萬里規尼涅 〇〇五
- 偏里設林 五〇
- 鹽水 五〇
- 右混和殺菌爲皮下注射料
- 隔日一回半筒宛

口部及ビ喉頭部咽喉ノ疾患



咽頭潰瘍ノ類症鑑別の型式 Differentialia.  
Etiologisches Schema der Ulceratio pharyngis.

區別病	咽頭結核	咽頭狼瘡	咽頭梅毒	咽頭癌腫
男女ノ別	男子ニ多ク女子ニ稀ナリ(1:5)	比較的女子ニ多シ	男子ニ多シ	男子ニ多シ
年齢	二十歳乃至三十歳ニ最モ多シ	十五歳乃至二十歳ニ多シ	三十歳乃至三十五歳ニ多シ	四十歳乃至六十歳ニ最モ多シ
既往症	血族中結核患者アルコト多シ	顔面狼瘡ヲ有スルコト多シ	既往ニ梅毒ノ感染ヲ證明シ得ベシ	血族中ニ癌腫患者アルコト多シ
症候	發生稍、緩徐ニシテ疼痛アリ殊ニ嚥下ニ際シ増	發生極メテ緩慢、自覺的症候甚ダ輕微ナリ	疼痛比較的輕微ナリ	發育迅速ニシテ疼痛著甚屢、耳内ニ放散ス、嚥

發生部位	他覺的候	沃剝効力ノ有無
上部及ビ中部咽腔ニ多シ	劇ス且ツ發熱アリ 概シテ表在性多 發性潰瘍ニシテ一部ハ相互融合ス、瘍縁屢、鋸齒狀ヲ呈シ瘍底ニ豚脂様分泌物アリ肉牙ハ弛緩性蒼白色ニシテ出血シ易ク周圍ニ發赤浸潤アリ且ツ屢、小結節ヲ見ル	陰性
上部及ビ中部咽腔ニ多シ	稍、深キ潰瘍ニシテ多クハ多發シ時トシテ相融合シ瘍縁銳利ナラズ瘍底ニハ蒼白色肉芽アリ豚脂様物ナシ周圍ニ炎症發赤ナク屢、癰痕形成及ビ小結節ヲ見ル	陰性
上部及ビ中部咽腔ニ多シ	單獨或ハ少數ノ深襲性潰瘍アリ邊縁銳利峭崖狀ニシテ彎曲シ瘍底ニ乳皮様被膜アリ周圍ハ發赤腫脹ス	陽性
喉頭部咽腔ニ多シ	下困難、惡液質等アリ 多クハ孤立セル深襲性潰瘍ニシテ瘍縁噴火孔狀ヲ呈シ底面ニ壞疽片アリ周圍ハ腫起浸潤ヲ呈シ著シク硬固ナリ且ツ近隣部ノ淋巴腺腫脹シ疼痛アリ	陰性



咽腔科學終

第四編 喉頭科學 Laryngologie

總論 Allgemeiner Teil

第一章 喉頭ノ解剖要領 Anatomie des Kehlkopfes.

喉頭ノ解剖要領

環狀軟骨

喉頭ノ基礎質ハ三個ノ不對軟骨ト三個ノ有對軟骨トヨリ成ル

一、環狀軟骨 Cartilago cricoidea or Ringknorpel.

不對軟骨ノ一ニシテ指環狀ヲ呈シ下縁ハ殆ンド地平位ニ在ルモ上縁ハ前下方ヨリ後上方ニ向ヒ斜走ス其前方ナル狹小部所謂弓部ノ上縁ニ一小截痕アリ環狀甲狀靱帶ノ附着點タリ又後方ナル板部ハ外面中央ニ縱走櫛狀隆起ヲ有ス此ハ後環狀披裂筋ノ起始點タリ其兩側稍陷凹ス板部ノ上縁兩端ニハ鞍狀關節面アリ披裂軟骨基底ト關節ス而シテ板部ト弓部トノ移行部外面ニハ甲狀軟骨下角ニ對スル小關節面アリ(第百五十一圖)

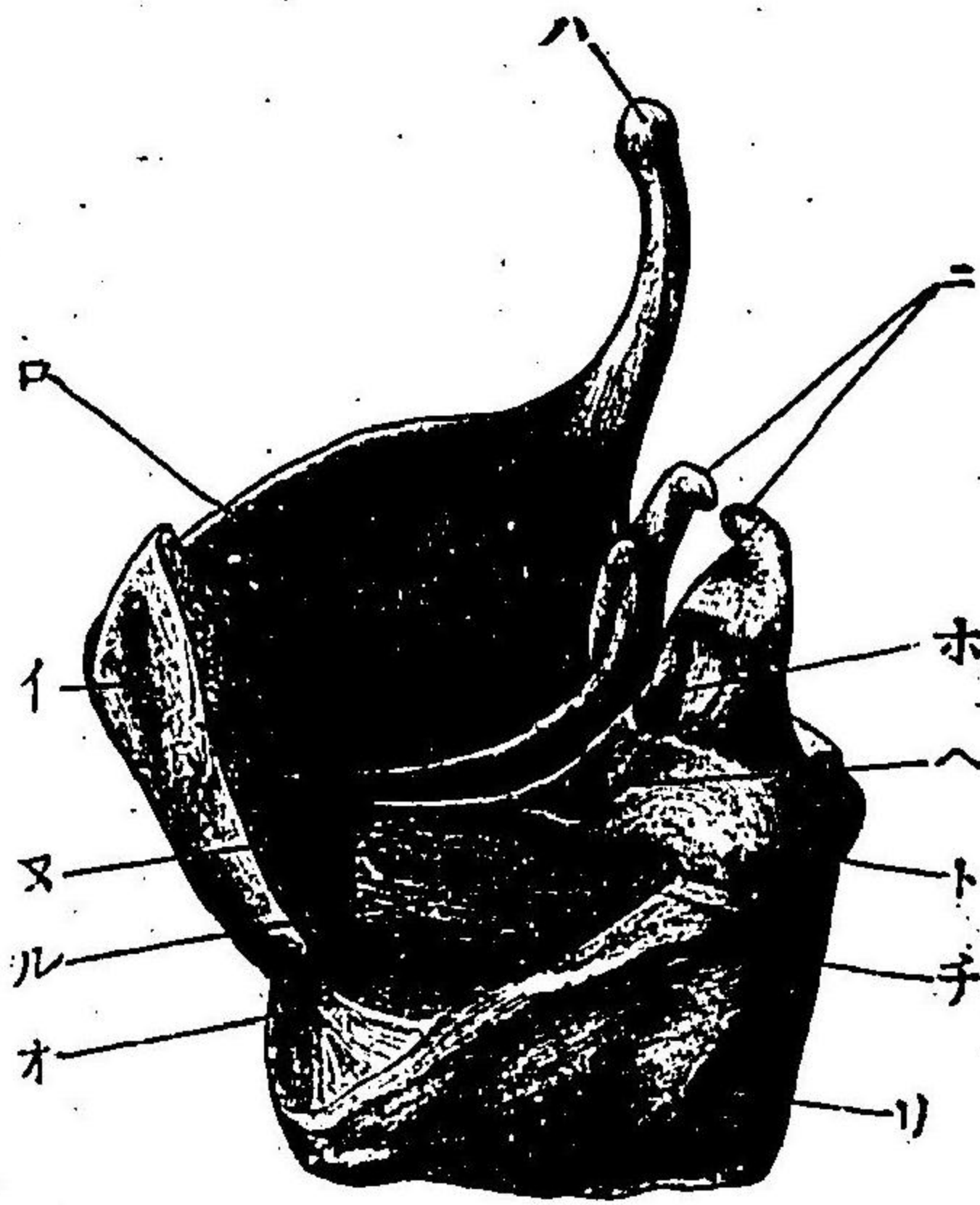


甲状軟骨

二、甲状軟骨 Cartilago thyroidea or Schilddrüse.

不對軟骨ニシテ二個ノ不正方形側板ヨリ成ル其前縁最モ短クシテ對側ノ同縁ト男子ニ於テハ九十度女子ニ於テハ百二十度ノ角度ヲ以テ相聯接シ所謂喉頭隆起或ハアダム氏結節トナリテ前頸部皮下ニ突出ス上縁ハS字狀ヲ呈シ左右兩側ノ相會スルニ因リ其正中線ニ於テ上・甲・狀・軟・骨

第五百一十一圖 喉頭軟骨及韌帶



- (イ) 甲状軟骨接合部
- (ロ) 同軟骨上部
- (ハ) 同軟骨三角
- (ニ) 甲状軟骨
- (ホ) 甲状軟骨三角
- (ヘ) 甲状軟骨突起
- (ト) 同軟骨突起
- (チ) 同軟骨突起
- (リ) 同軟骨突起
- (イ) 同軟骨突起
- (ロ) 同軟骨突起
- (ハ) 同軟骨突起
- (ニ) 同軟骨突起
- (ホ) 同軟骨突起
- (ヘ) 同軟骨突起
- (ト) 同軟骨突起
- (チ) 同軟骨突起
- (リ) 同軟骨突起
- (イ) 同軟骨突起
- (ロ) 同軟骨突起
- (ハ) 同軟骨突起
- (ニ) 同軟骨突起
- (ホ) 同軟骨突起
- (ヘ) 同軟骨突起
- (ト) 同軟骨突起
- (チ) 同軟骨突起
- (リ) 同軟骨突起

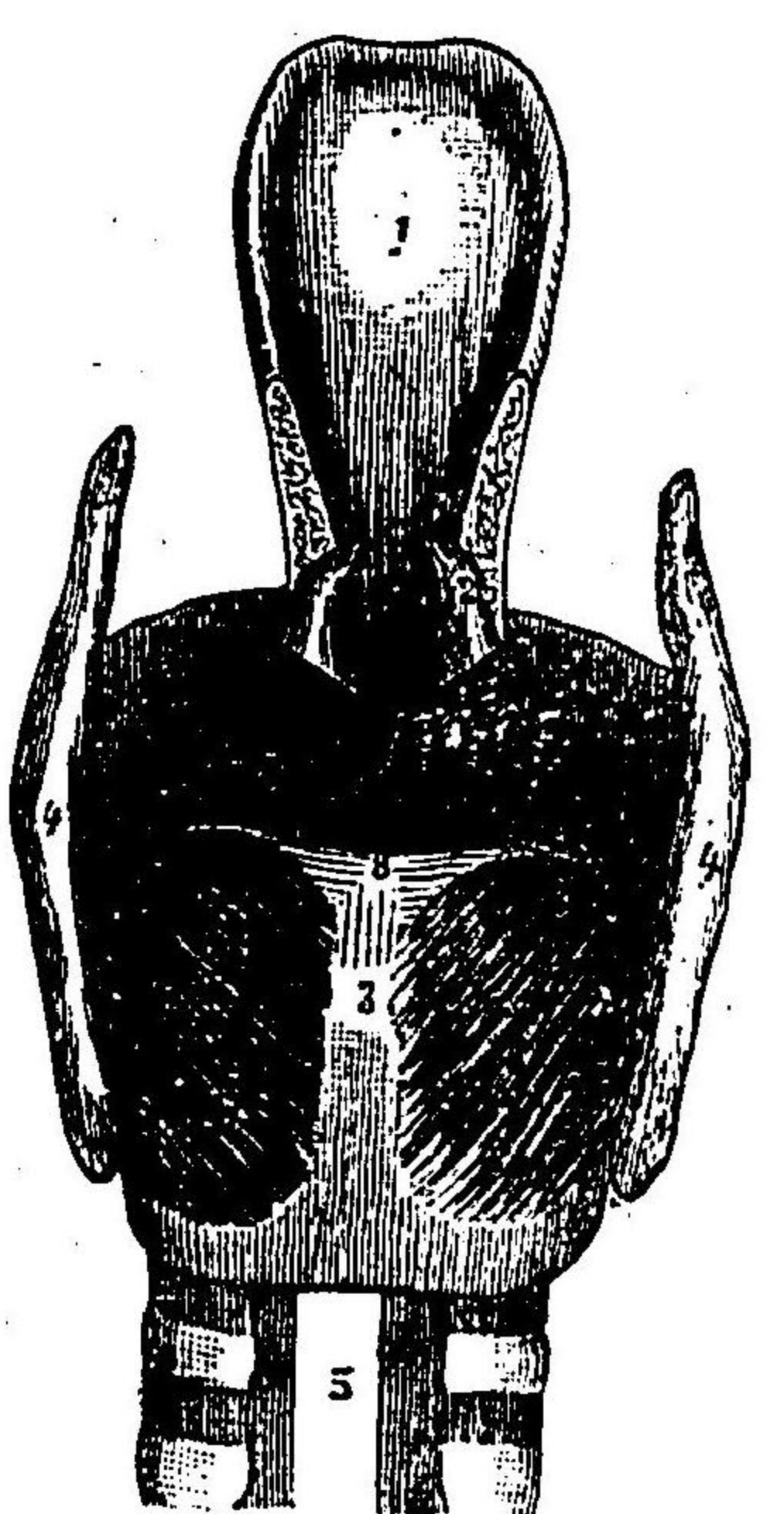
截痕 Incis-  
sura thyreo-  
idea super-  
ior 形成  
シ中甲状  
舌骨韌帶  
ノ附着點  
トナル後  
縁ハ上下

會厭軟骨

三、會厭軟骨 Cartilago epiglottica or Kehlkopf.

ニ延長シテ上角及ビ下角ヲ形成シ前者ハ甲状舌骨韌帶ニ依リテ舌骨大角ト連絡シ後者ハ小關節面ヲ以テ環狀軟骨外面ト關節ス(第五百十三圖) 甲状軟骨ノ運動軸ハ其兩下角ヲ貫通セル假想線中ニ在リ從テ甲状軟骨ヲ前下方ニ傾斜セシメ或ハ環狀軟骨ヲ舉上セシムルヲ得ベシ

第五百二十二圖 喉頭後面



- (1) 會厭軟骨
- (2) サントリニ氏軟骨及ヒ披裂軟骨
- (3) 環狀軟骨
- (4) 甲状軟骨
- (5) 氣管
- (6) 後環狀披裂筋
- (7) 披裂會厭筋及斜走披裂筋
- (8) 横走披裂筋



葉柄 *Petiolus* ハ下方ニ位シ弾力性結締織ノ媒介ニ依リ上甲狀軟骨截痕ノ直下部内面ニ附着ス此部ハ會厭軟骨結節 *Tuberculum epiglottidis* トナリテ喉頭内ニ隆起ス

本軟骨ハ約九十度ノ運動範圍ヲ有シ安靜時成人ニ在テハ殆ンド鉛直位ヲ執ルモ嚥下ニ際シテハ後下方ニ傾斜シ以テ喉頭入口部ヲ閉鎖ス然レドモ小兒ニ在テハ屢々水平位ニ在リ喉頭内視診ヲシテ困難ナラシムルコト少カラズ

本軟骨ノ形態ハ人ニ依リ著シク不同ニシテ彎曲ニ強弱ノ差アリ然レモ一般ニ二様ノ彎曲ヲ呈ス即チ下面(喉頭面)ハ左右ニ陷凹シ上下ニ凸出ス

披裂軟骨

四、披裂軟骨 *Cartilagineus arytenoideae* or. *Griesboeckenknoepel*.

有對軟骨中最大ナルモノニシテ環狀軟骨ノ上縁ニ坐シ諸軟骨中最モ緊要ナル官能ヲ營ムモノナリ是レ其位置ニヨリ聲門ノ形態及ビ廣袤ニ直接影響ヲ與フレバナリ

其形態ハ三面錐體形ニシテ内外及ビ後ノ三面ト前後及ビ外ノ三縁並ニ

小角軟骨

基底及ビ尖頂ヲ區別ス  
後面ハ陷凹廣濶三角形ヲ呈シ内面及ビ外面(前外面)ハ共ニ稍々突隆ス又前後兩縁ハ殆ンド鉛直ニシテ銳ク外縁ハ外下方ニ向テ傾斜シ比較的鈍ナリ基底ハ鞍狀關節面ニシテ環狀軟骨板ノ夫レト相關接ス尙二個ノ突起ヲ發ス一ハ短鈍ニシテ外縁ヨリ後外方ニ向ヒ側及ビ後環狀披裂筋ノ附着點タリ之ヲ筋突起 *Processus muscularis* ト云フ一ハ尖銳ニシテ前縁ヨリ前方ニ向ヒ地平ニ突出ス之ヲ聲帶突起 *Processus vocalis* ト云フ其纖維基質ハ黃色ヲ呈シ聲帶ニ混入ス(第百五十一圖ス)

五、サントリニー氏軟骨一名小角軟骨 *Cartilago Santoriniana* s. *corniculata*.

本軟骨ハ披裂軟骨上ニ在リ且ツ之ト同一ノ軟骨膜ヲ以テ被覆セラル(第百五十一圖)

六、ウリスベルグ氏軟骨一名楔狀軟骨 *Cartilago Wisbergi* s.

楔狀軟骨







- (3) 舌會厭靱帶 *Lig. glosso-epiglotticum*  
之レニ中及ビ側靱帶ノ區別アリ而シテ甲ハ會厭軟骨前上部ノ中央ヨリ舌根中央ニ至リ乙ハ會厭軟骨側縁ト舌根側部トヲ聯接ス
- (4) 咽頭會厭靱帶 *Lig. pharyngo-epiglotticum*  
會厭軟骨莖部ヨリ咽頭側壁ニ至ル
- (5) 甲狀會厭靱帶 *Lig. thyreo-epiglotticum*  
會厭軟骨莖部ヨリ甲狀軟骨翼接合角内面ニ至ル
- (6) 披裂會厭靱帶 *Lig. ary-epiglottica*  
會厭軟骨側縁ヨリ披裂軟骨ニ至ル
- (7) 中甲狀環狀靱帶一名圓錐靱帶 *Lig. crico-thyroidem medium s. Lig. conicum*  
(第百五十三圖ニ)
- (8) 環狀軟骨弓部上縁ト甲狀軟骨下縁中央トヲ連接スルモノナリ  
側甲狀環狀靱帶 *Ligg. crico-thyroides laterales*  
甲狀軟骨下角ト環狀軟骨トノ連接ヲ強固ナラシム

- (9) 環狀氣管靱帶 *Lig. crico-tracheale*  
環狀軟骨ト最上氣管輪トヲ連接ス
- (10) 環狀披裂靱帶 *Lig. crico-arytaenoidcum*  
此ハ環狀披裂關節強ノ強勢靱帶タリ
- (11) 披裂サントリニー氏軟骨靱帶 *Lig. ary-santoriana*  
披裂軟骨尖端トサントリニー氏軟骨トノ連繫ヲ營ム
- (12) 以上ノ外喉頭内ニ最モ必要ナル二靱帶アリ  
上甲狀披裂靱帶 *Lig. thyreo-arytaenoidcum superior*  
此ハ所謂假聲帶即チ聲帶 *falscher Stimmband resp. Taschenband* ナル粘膜襞内ニ存シ甲狀軟骨翼接合角ノ内面中部ヨリ發シ披裂軟骨ノ前外面小結節ニ附着スルモノナリ
- (13) 下甲狀披裂靱帶 *Lig. thyreo-arytaenoidcum inferior*  
此ハ眞聲帶 *valve Stimmband* 内ニ位シ三稜柱狀ニシテ上甲狀披裂靱帶起始點ノ直下部(前連合)ヨリ發シ後外方ニ走リテ披裂軟骨ノ聲帶



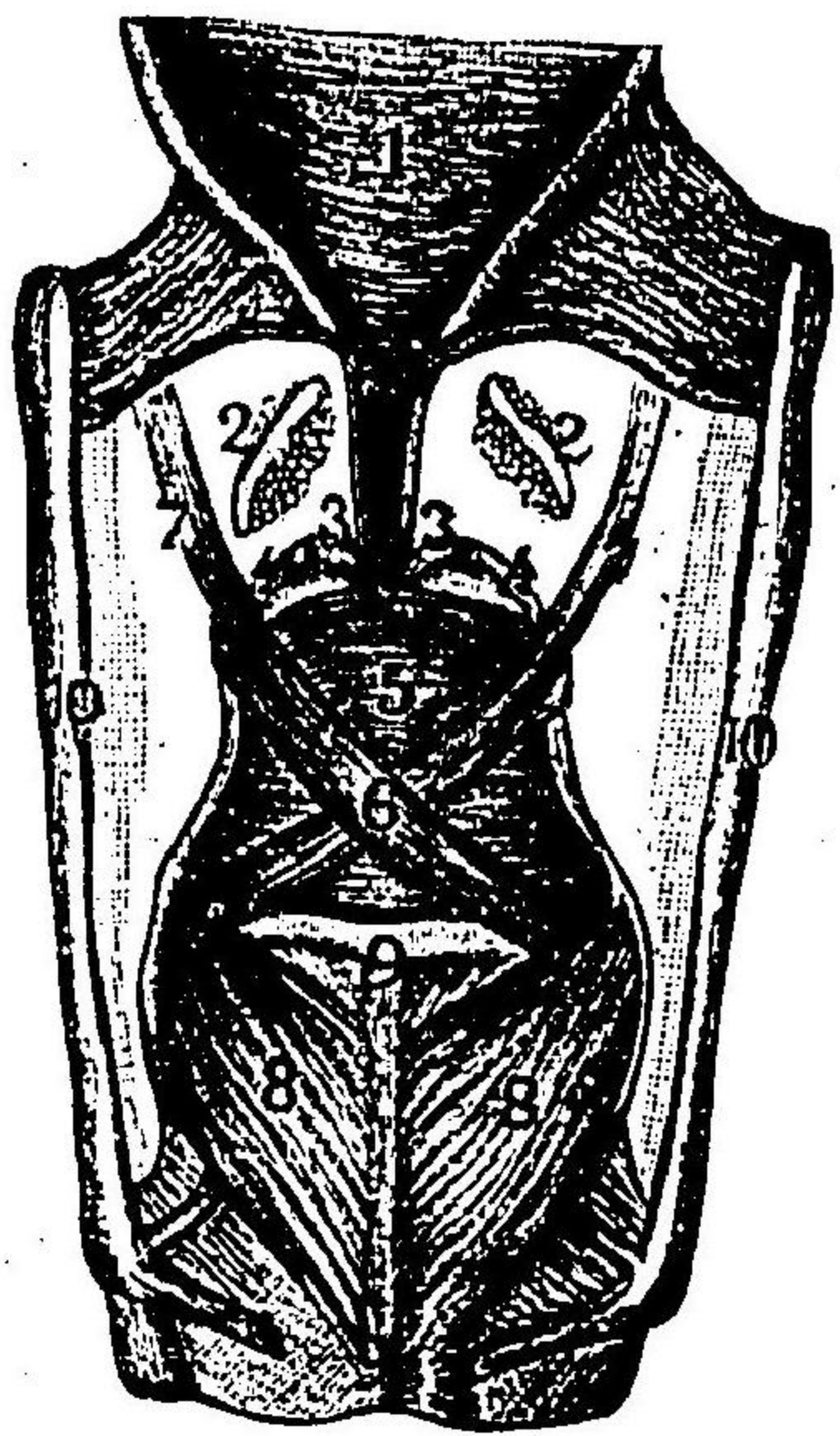
喉頭筋

突起ニ附着ス

喉頭筋 Kehlkopfmuskeln.

喉頭ハ其官能上呼吸器トシテハ聲門ヲ開大シ發聲器トシテハ之ヲ狹小

第四百五十五圖 喉頭ノ後面



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

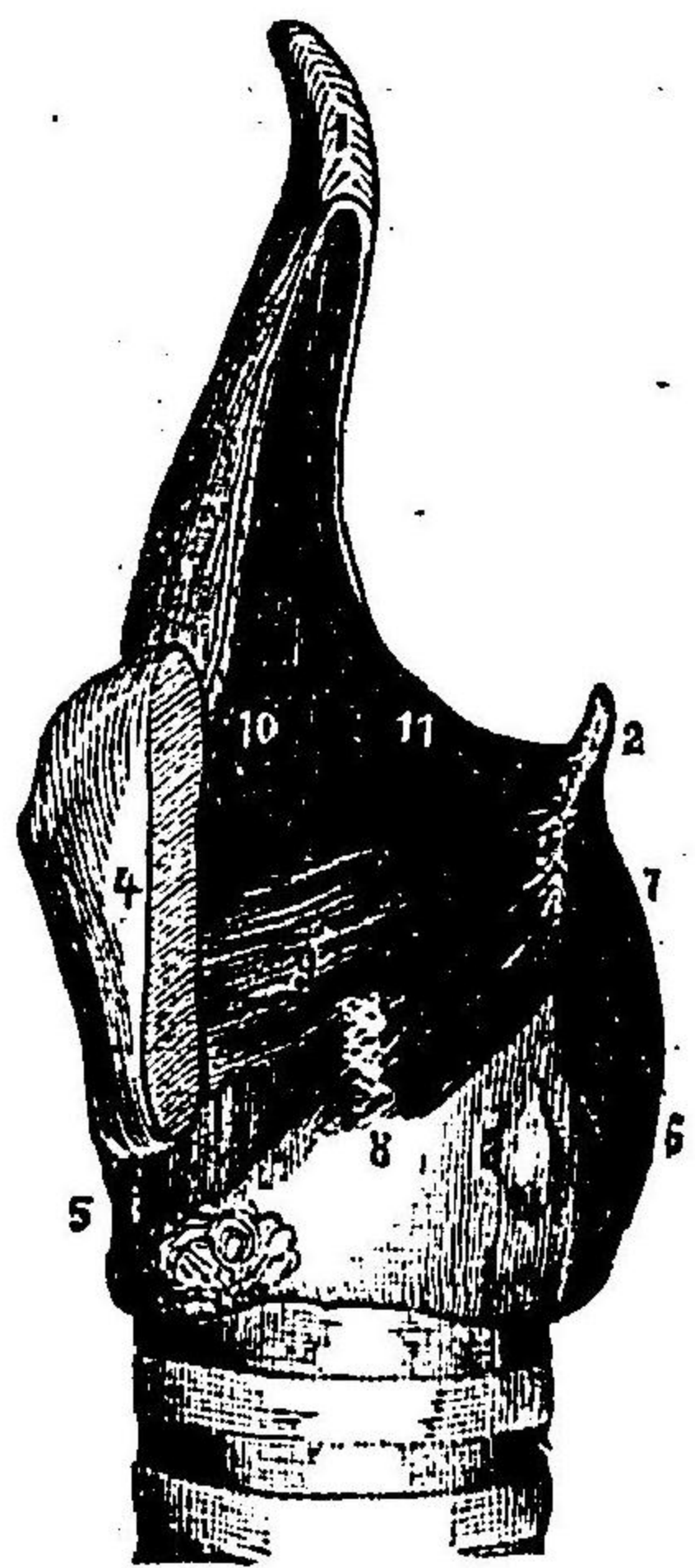
1 會喉軟骨  
2 クリスベルク氏軟骨  
3 サントリニ氏軟骨  
4 披裂軟骨  
5 斜走軟骨  
6 環狀軟骨  
7 後環狀軟骨  
8 甲狀軟骨  
9 環狀軟骨  
10 甲狀軟骨

セシムヘキ重任ヲ有ス即チ筋簇ヲ大別シテ聲門擴張筋 Glottisverweiterer ト聲門狹窄筋 Glottisverengerer トノ二種トス其一部ハ喉頭外筋ニシテ一部ハ喉頭内筋ニ屬ス主要ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ  
(甲) 聲門開大筋ニ屬スルモノ

後環狀披裂筋一名後筋 M. crico-arytaenoidens posterior & M. posterior.

環狀軟骨板ノ後面櫛狀隆起ヨリ發シ外上方ニ走ルニ從ヒ集束シテ披裂軟骨ノ筋突起ニ至リ附着ス(第四百五十四圖8及第四百五十五圖6)

第四百五十五圖 喉頭諸筋



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11

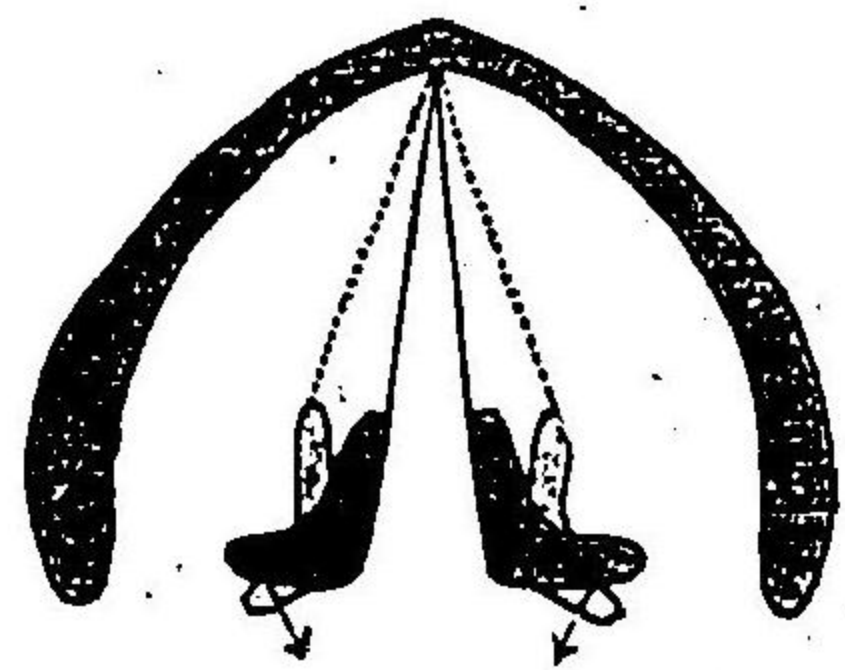
1 會喉軟骨  
2 環狀軟骨  
3 披裂軟骨  
4 斜走軟骨  
5 環狀軟骨  
6 後環狀軟骨  
7 甲狀軟骨  
8 環狀軟骨  
9 甲狀軟骨  
10 披裂軟骨  
11 甲狀軟骨

本筋ノ作用ハ第四百五十六圖ニ示スガ如ク披裂軟骨ヲシテ其鉛直軸周圍ニ廻轉セシメ從テ其聲帶突起及之ニ附着セル聲帶ヲ外方ニ轉移セシム  
(乙) 聲門狹窄筋ニ屬スベキモノ  
(1) 側環狀披裂筋 M. crico-arytaenoidens lateralis  
環狀軟骨弓ノ側部上縁ヨリ發シ後上方ニ斜走シテ披裂軟骨ノ筋突起ニ



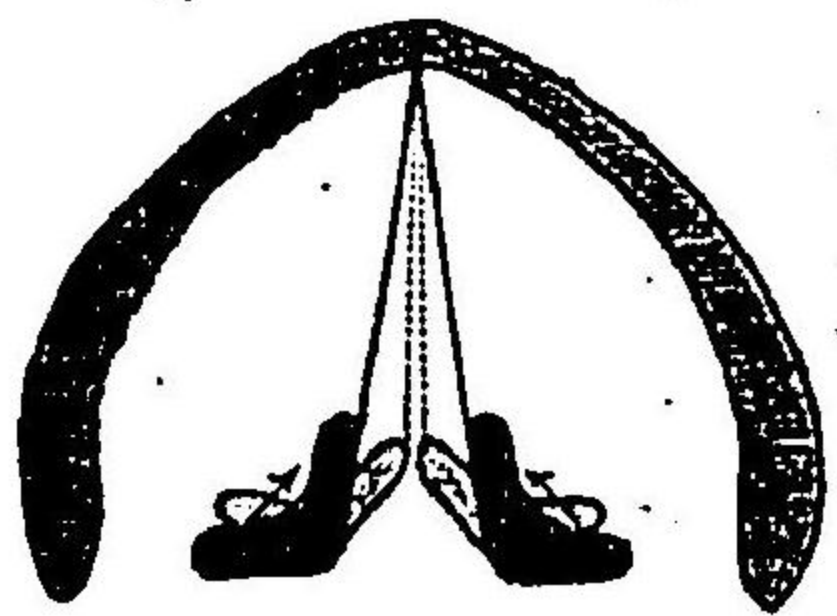
圖六十五百第

ス示チ川作ノ筋裂披狀環後



圖七十五百第

ス示チ川作ノ筋裂披狀環側



附着ス(第百五十五圖8)  
本筋ノ作用、後環狀披  
裂筋ノ拮抗筋ニシテ披  
裂軟骨ヲシテ其鉛直軸  
ノ周圍ニ於テ彼ト反對  
ノ方向ニ廻轉セシメ從

テ聲帶突起ヲ内轉シ聲帶ヲシテ相互接近セシム(第百五十七圖)  
(2) 横走披裂筋 *M. arytaenoides transversus*

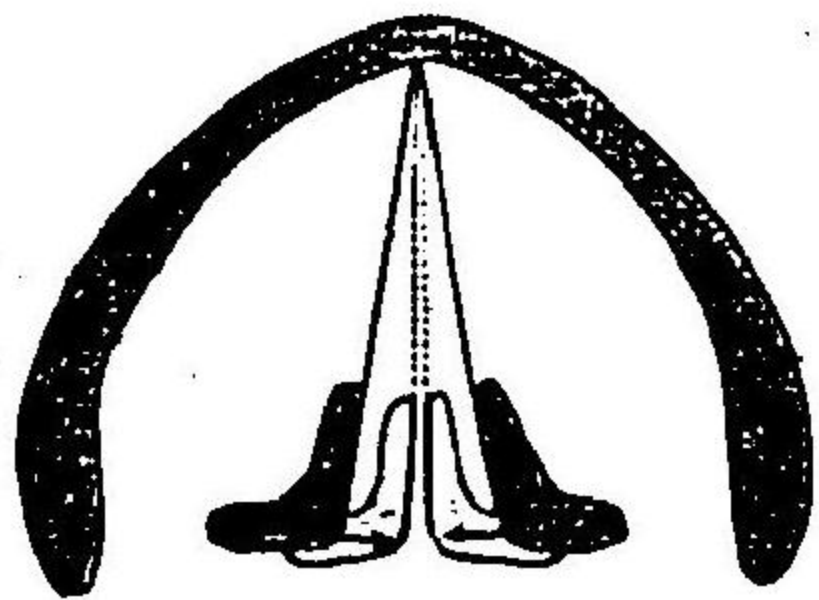
此ハ一側披裂軟骨ノ後面外縁ヨリ發シ横走シテ他側同名軟骨ノ同名部ニ附着ス(第百五十四圖5)

(3) 斜走披裂筋 *M. arytaenoides obliquus*

此ハ披裂軟骨ノ筋突起後方ヨリ發シ内上方ニ斜走シ他側同名軟骨ノ尖端ニ至ル(第百五十四圖6)  
横走及斜走披裂筋收縮スレバ(第百五十八圖)ニ示スガ如ク披裂軟骨内面

圖八十五百第

ス示チ川作ノ筋裂披走斜及横



其全廣袤ニ於テ左右相接近シ從テ聲門ハ狹窄  
若クハ閉鎖セララル  
(4) 甲狀披裂筋 *M. thyro-arytaenoides*  
内外二群ニ分ツ  
内○甲○狀○披○裂○筋 *M. thyro-arytaenoides internus* 一名  
内筋 *M. internus* ト云フ三稜柱狀ニシテ下甲狀

披裂靱帶ト共ニ眞聲帶内ニ存ス故ニ又聲帶筋 *M. vocalis* ノ名アリ  
外○甲○狀○披○裂○筋 *M. thyro-arytaenoides externus* 内外ヨリ壓平セラレ甲狀軟骨  
翼接合部内面ヨリ發シ披裂軟骨内面ニ接着シ一部ハ假聲帶内ニ進入ス  
本筋ノ作用、外筋ハ上甲狀披裂靱帶ヲ正中線ニ近接セシメモルガンニ  
一氏竇ノ外壁ニ於ケル壓ニ因リテ該竇ヲ狹小シ兼テ聲帶ヲ左右相接近  
セシム、内筋ハ聲帶ノ前後兩固定點ヲ接近セシメ聲音ノ高低ニ必要ナル  
ベキ硬度ト弾力性トヲ賦與ス而シテ内外兩筋共同收縮スレバ兩聲帶殆  
ンド相觸接スルニ至ル



(5) 環狀甲狀筋 *M. crico-hyoidens*

本筋ハ(第百五十九圖)ニ示スガ如ク環狀軟骨弓ノ前面ヨリ發シ甲狀軟骨

下縁ニ附着

ス其作用ハ

環狀軟骨ノ

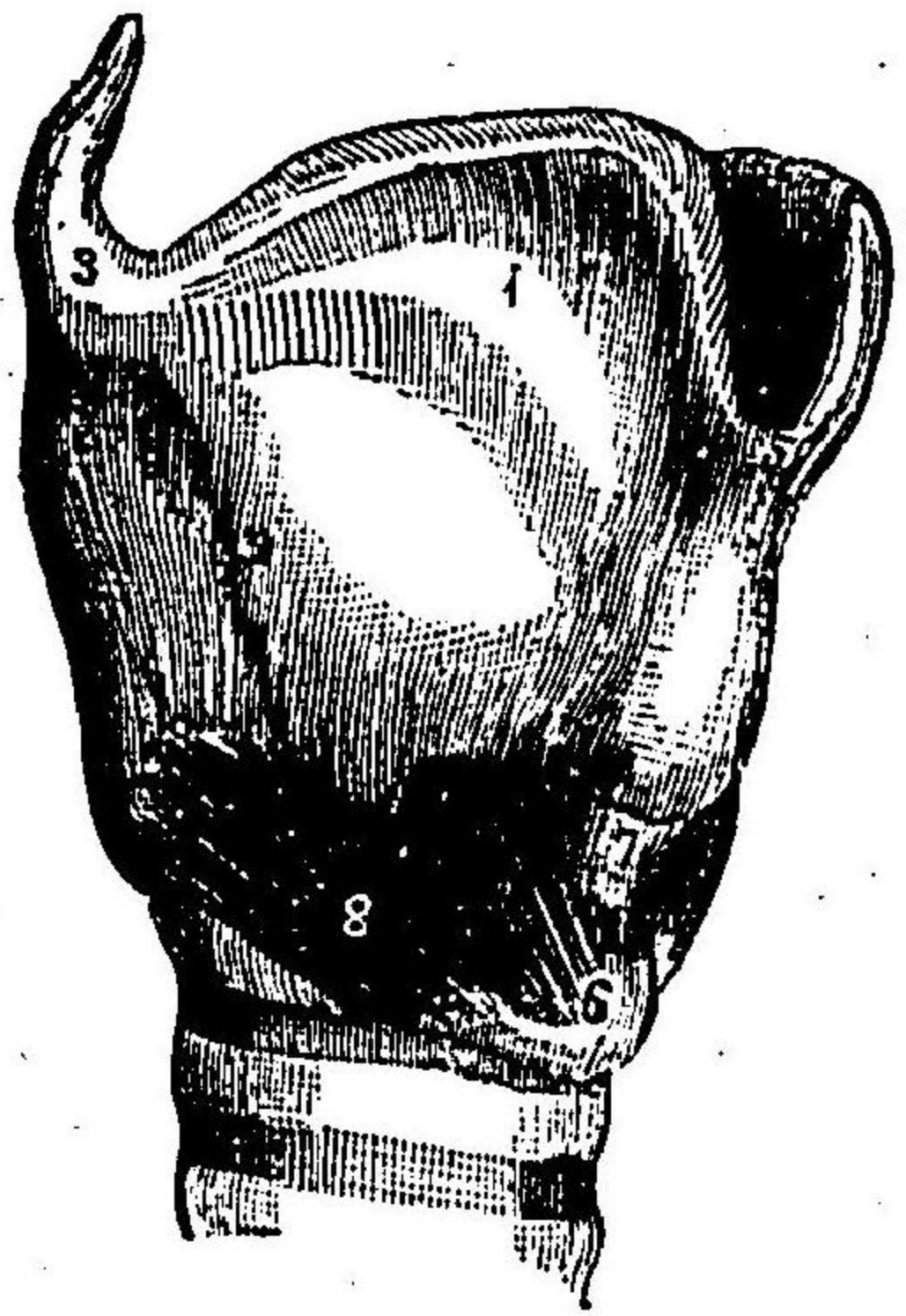
前部ヲ舉上

シ從テ其板

部ハ下行シ

聲帶ノ前後

第百五十九圖 喉頭ノ右側面



- (1) 甲狀軟骨板部
- (2) 同斜線
- (3) 同上角
- (4) 同下角
- (5) 同軟板
- (6) 環狀軟骨弓部
- (7) 圓錐軟帶
- (8) 環狀甲狀筋

附着點ヲ離隔セントシ爲メニ聲帶ハ著シク緊張セラル、モノトス  
今喉頭筋ノ作用ヲ一括スレバ左ノ如シ

後環狀披裂筋 . . . . . 聲門開大筋

橫走披裂筋

斜走披裂筋

聲門狹小筋

側環狀披裂筋

甲狀披裂筋

環狀甲狀筋

聲帶緊張筋

以上ノ外喉頭前面ニハ尙ホ近隣ニ連接スル筋肉アリ即チ左ノ如シ

(6) 胸骨甲狀筋 *M. sterno-hyoidens*

有對筋ニシテ胸骨柄及ビ第一肋骨ヨリ發シ甲狀軟骨翼ノ下部ニ停止ス

此ハ喉頭ヲ下方ニ牽掣スルノ作用アリ

(7) 甲狀舌骨筋 *M. thyro-hyoideus*

本筋ハ胸骨甲狀筋ノ連續ト見做スベキモノニシテ甲狀軟骨翼ノ下部ヨ

リ發シ上行シテ舌骨體及ビ其大角ニ附着ス而シテ高調ノ發聲ニ際シ甲

狀軟骨ヲ舌骨ニ向テ舉上スルノ作用ヲ有ス此ノ如ク甲狀軟骨固定セラ

レタル後始メテ環狀甲狀筋ノ收縮ニヨリ聲帶ヲ前後ニ緊張セシムルコ

トヲ得ヘシ

喉頭粘膜炎 *Kehlkopfschleimhaut.*

喉頭粘膜炎



喉頭上皮ハ主トシテ毳毛上皮ヨリ成ル然レドモ其後壁即チ披裂軟骨間部眞聲帶及ビ會厭軟骨ノ遊離縁ハ磚狀上皮ヲ以テ被ハル初生兒ニ在テハ眞聲帶ノ一小部ヲ除キ他ハ全部毳毛上皮ヲ具フ上皮層下ニ厚薄不等ノ基礎膜アリ或ハ無組織性ナリト云ヒ或ハ纖維性ナリトモ云フ  
 固有層ハ腺及ビ彈力纖維束ニ富ム殊ニ後者ハ聲帶附近ニ於テ著シク發生シ連續セル膜ヲ形成ス之ヲ彈力膜 Membrana elastica ト云フ就中聲帶ノ遊離縁ニ於テ最モ強厚ナリ  
 粘膜炎下層ハ部位ニ依リテ發育一様ナラズ即チ會厭軟骨ノ舌面披裂會厭襞披裂軟骨間部假聲帶(資帶)及ビ喉頭下腔後壁等ニ於テハ甚ダ多量ニシテ粘膜炎ノ移動性大ナルモ聲帶會厭軟骨ノ喉頭面及ビ喉頭下腔前壁ニ於テハ僅微ニシテ粘膜炎ノ接着緊固ナリ從テ甚ダ移動シ難シ此組織學的關係ハ病的變化ヲ知ルニ最モ須要ニシテ炎症性及ビ非炎症性浮腫ノ前者ニ多クシテ後者ニ比較的稀ナルハ其理由實ニ茲ニ存ス  
 腺ノ存在 粘液腺ハ概シテ多ク或ハ散在シ或ハ集簇ス其最モ多キハ喉

頭後壁披裂會厭襞内面假聲帶モルガンニ一氏資及ビ前連合下部等ニシテ甲狀披裂筋ノ收縮ニ依リ粘液ヲ分泌シ粘膜炎一般殊ニ聲帶ヲ濕潤シ其振動ニ便ナラシム  
 眞聲帶ハ古來腺ヲ缺クト謂ヒシモベト、フレンケル氏ハ前及中三分ノ一境界部ニ於テ其遊離縁ノ下面ニ葡萄狀腺ノ存在スルハ敢テ稀有ナラズト云ヘリ  
 斯ノ如ク上皮及ビ腺配置ノ部位ニ依リ相違アルヲ熟知スルハ臨床上甚ダ緊要ナリトス蓋シ結核性潰瘍ハ腺ニ富饒ナル部位ニ發スルコト多ク又格魯布性疾患ハ圓柱及ビ毳毛上皮部ニ來リ且ツ實質的里性病變ハ多ク磚狀上皮部ニ發現スレバナリ  
 粘膜炎ノ色 眞聲帶ハ通常白色(髓樣白色)ヲ呈シ爾餘ノ部ハ概シテ紅色ナリ  
 喉頭内腔 Cavum laryngem ハ假聲帶(資帶)及ビ眞聲帶ノ存在ニヨリ上中及ビ下ノ三部ニ分タル



一、上部喉腔又ハ喉頭前庭 Vestibulum laryngis. 此ハ假聲帶ヨリ上方ニ位スル部ニシテ心臟形ナル一大孔即チ喉頭口

Aditus laryngis ニ依リ

テ下部咽腔ト交通ス

喉頭口ハ前方ハ會厭

軟骨側方ハ披裂會厭

皺襞後下方ハ所謂披

裂軟骨間截痕 *Incisura*

*interarytenoidea* ト稱ス

ル粘膜皺襞ノ上縁ヨ

リ成ル而シテ此披裂軟骨間截痕ハ深吸氣ニ際シ著シク廣大ナルモ發聲

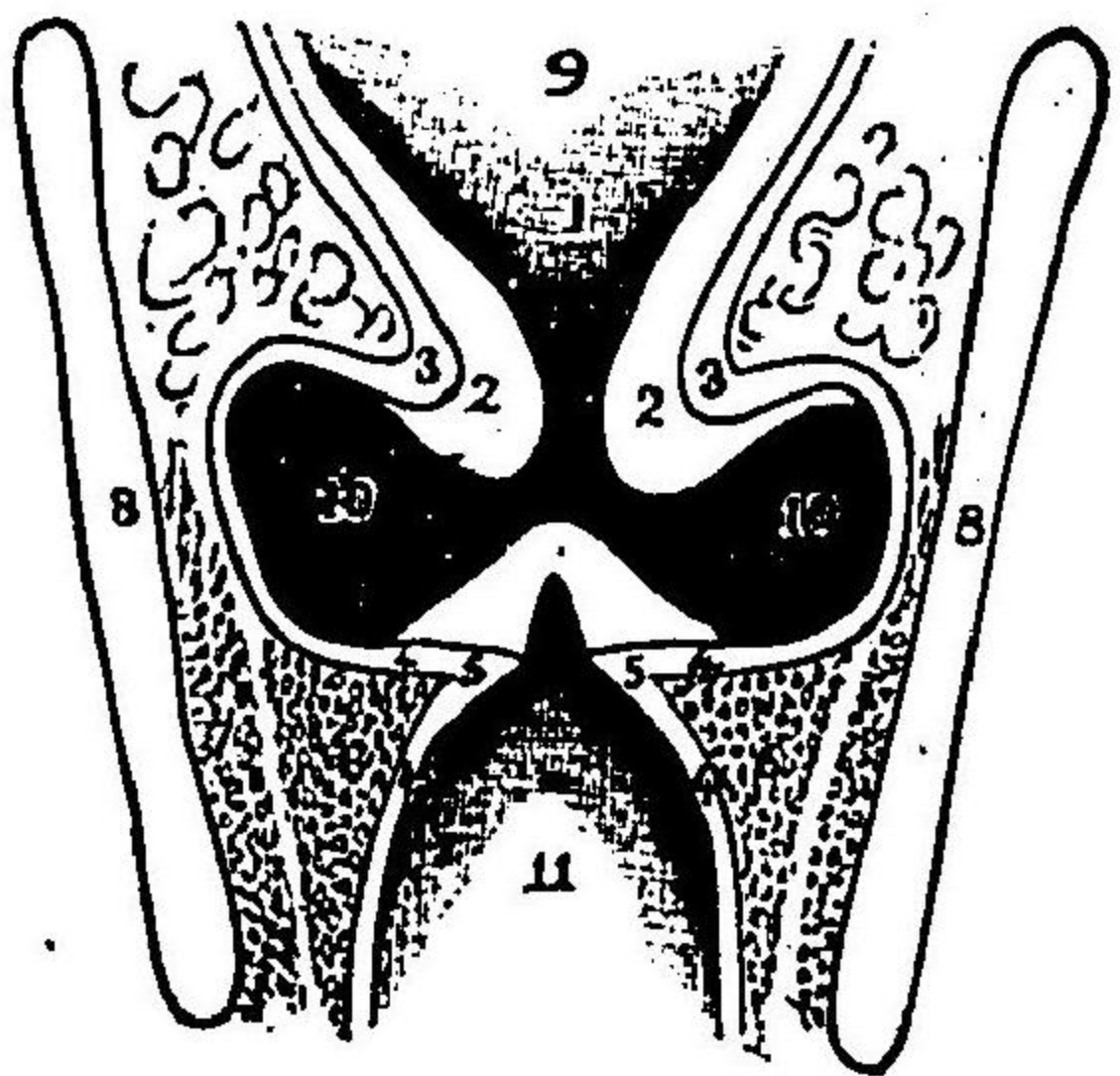
時ニハ全ク消失ス披裂會厭皺襞ニハ二個ノ著明ナル隆起アリ前上方ニ

アルヲ楔狀結節又ハウリスベルグ氏結節 *Tuberculum Wisbergi* ト云ヒ(第百

六十一圖6)後下方ニ位スルヲサントリニ一氏結節或ハ小角結節 *Tubercu-*

第百六十圖

喉頭前庭ノ縱斷面



11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

會厭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨

喉頭軟骨

喉頭軟骨

喉頭軟骨

喉頭軟骨

喉頭軟骨

*Ann Santorini* ト云フ共ニ同名軟骨ヲ包藏スルニ由テ生ズ(第百六十一圖7) 喉頭前庭ノ前壁ハ會厭軟骨ノ後面ヨリ成ル其最下部ニ腺群ノ在存ニ因

リ成立セル隆起アリ之ヲ會厭軟骨結節 *Tuberculum epiglotticum* ト云フ(第百

六十一圖2)又會厭軟骨

ノ前面ニハ三個ノ粘膜

皺襞ヲ見ル中舌會厭皺

襞 *Plica glosso-epiglottica me-*

*dia* 側舌會厭皺 *Plicae*

*glosso-epiglotticae laterales* 及

ヒ咽頭會厭皺 *Plicae*

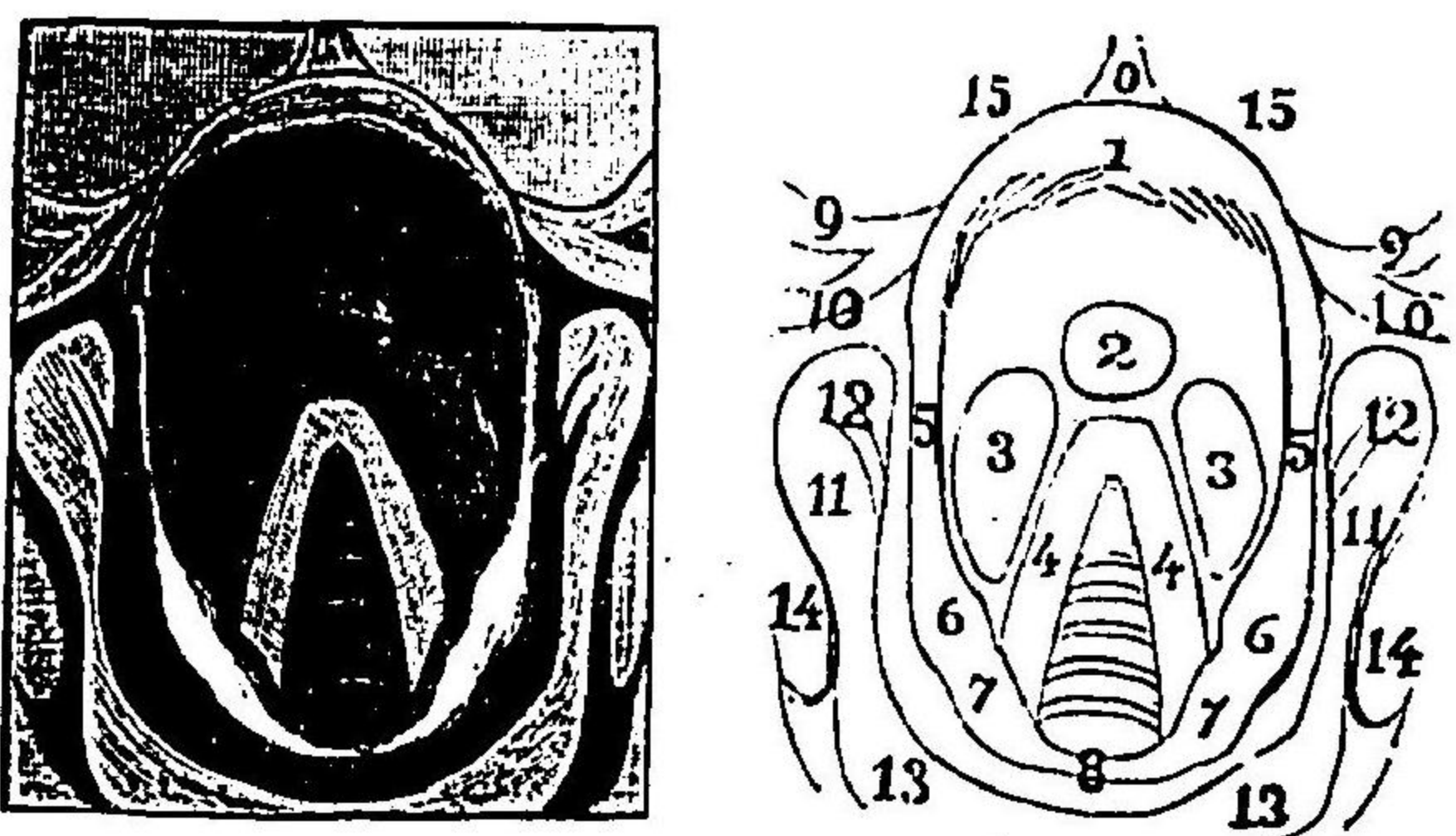
*pharyngo-epiglotticae* 是レナ

リ(第百六十一圖0, 9, 10)

前庭ノ側壁ハ披裂會厭

皺裂ノ内面ヨリ成リ又

第百六十圖



15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

中舌會厭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨 喉頭軟骨



後壁ハ披裂軟骨間部粘膜ヨリ成ル而シテ披裂會脈皺襞ノ内面下部ハ直接資皺襞ニ移行ス其遊離縁ニ於テ彈力纖維束強厚トナリ假聲帶即チ資帶ヲ形成ス斯クンテ左右兩資皺襞間ニ生ズル罅隙ヲ前庭門 *Rima vestibuli* ト云フ

二 中部喉腔 *mitlerer Kehlkopfraum.*

此部ハ狹隘ニシテ上方ハ資帶下方ハ聲帶側方ハ喉頭竇又ハモルガンニ  
一 氏竇 *Ventriculus laryngis s. Sinus Morgagni* ヨリ界セラレ而シテ該竇ノ罅隙狀入口部ヲ竇口 *Orificium ventriculi* ト云フ又左右兩聲帶間ノ裂口ヲ聲門 *Rima glottis s. Stimmritze* ト稱ス之ヲ細別シテ二部ニ分ツ即チ兩披裂軟骨ノ聲帶突起間ヲ聲門軟骨間部 *Pars intercartilaginea* ト云ヒ夫ヨリ前方ニ位スル部ヲ膜間部 *Pars intermembranaea* ト云フ而シテ左右聲帶ノ前端附着部ヲ前連合 *vorderer Commissur* ト名ク

三 下部喉腔又ハ喉頭下腔 *Regio hypoglottica.*

上方ハ聲帶前方ハ圓錐韌帶後方ハ環狀軟骨板ニヨリ界セラレ下方ハ環

喉頭血管

狀軟骨下縁ニ設ケタル假想平面ニ於テ直接氣管ト交通ス

喉頭血管 *Blutgefäße des Kehlkopfes.*

動脈ニハ上中及ビ下喉頭動脈ノ三アリ

上喉頭動脈 *A. laryngea superior* ハ甲狀腺動脈ヨリ發シ舌骨甲狀韌帶又ハ

甲狀軟骨ヲ穿通シテ喉頭内ニ達シ聲帶ヨリ上方ニ位セル上及ビ中部喉腔ニ分布ス

中喉頭動脈 *A. laryngea media* ハ又名環狀甲狀動脈 *A. cricothyroidea* ト稱

シ同名韌帶ヲ貫キ聲帶ヨリ以下ノ喉腔前部ニ分枝ス

下喉頭動脈 *A. laryngea inferior* 下甲狀腺動脈ヨリ發シ甲狀環狀關節ノ下部

ヨリ喉腔ニ入り主トシテ喉頭下腔ノ後部ニ分布ス

靜脈ハ動脈ノ經路ニ伴ヒ盛ニ吻合ヲ營ミ終ニ血液ヲ内頸靜脈 *V. jugularis interna* ニ送致ス

淋巴管 *Lymphgefäße des Kehlkopfes.*

喉頭竇附近ニ於テ甚ダ富饒ナリ而シテ前庭部ノモノハ舌骨甲狀韌帶上

喉頭淋巴管



喉頭神經

ニ存スル淋巴腺ニ注グ中及ビ下部喉腔ノモノハ環狀軟骨ノ下方氣管ノ後壁ニ存スル淋巴腺ニ注流ス

喉頭神經 *Kehlkopfnerven.*

上及ビ下喉頭神經 *N. laryngeus superior et inferior.* ニシテ共ニ迷走神經ヨリ發ス

上喉頭神經ハ梨子狀窩底ヲ通過シ此部ニ線狀隆起ヲ生ズ之ヲ上喉頭神經<sup>○</sup>變<sup>○</sup> *Plica nervi laryngei superioris* ト云フ(第百六十一圖)本神經ハ内外二枝ニ分ル

内枝ハ舌骨甲狀韌帶ヲ貫通シテ喉頭粘膜ニ多數ノ知覺枝ヲ分布シ外枝ハ甲狀環狀筋ニ分布シテ運動ヲ主宰ス

下喉頭神經一名回歸神經 *N. recurrens* ハ右側ニ於テハ鎖骨下動脈ヲ左側ニ於テハ大動脈弓ヲ周廻シ兩側共ニ總頸動脈及ビ下甲狀腺動脈ノ後側ヲ經テ上行シ殊ニ左側ノモノハ氣管ト食道トノ間溝ニ沿ヒ終ニ咽頭括約筋下緣下部ヨリ喉頭内ニ入り甲狀環狀筋ヲ除キ他ノ喉頭諸筋ニ運動

喉頭ノ生理

喉頭ハ呼吸機關タリ

枝ヲ配賦ス

第二章 喉頭ノ生理要領 *Physiologie des Kehlkopfes.*

(甲) 喉頭ハ呼吸機關タリ 安靜呼吸ニ際シ聲門ハ三角形ヲ呈シ其基底緣甚ダ大ナラザルモ深呼吸ニ於テハ左右ノ聲帶相互著シク離隔シ廣基性三角形ニ變ズ是レ聲門開張筋(後環狀披裂筋)ノ作用ニ依ルモノナリ

(乙) 深部呼吸器系ニ對スル保護機關タリ 異物ノ外方ヨリ氣管若クハ氣管支ニ闖入セントスルヤ其形態的關係及ビ反射機能ニ依リ之ヲ防遏スルノ作用アリ更ニ緊要ナルハ嚥下時ニ於ケル關係ナリ 嚥下運動ニ際シ喉頭入口部ノ閉鎖セラレザル可ラザルハ古來普ク人ノ知ル所ナリ此ハ會厭軟骨ノ後方傾斜ニ依ルモノナレドモ喉頭閉鎖筋ノ作用ニ因スル聲門閉鎖モ亦嚥下運動ニ關スル必要ナル條件タリ此事タルヤ會厭軟骨缺損症ニシテ猶且ツ嚥下障礙ヲ有セザルモノアルニ徴シ

深部呼吸器系ニ對スル保護機關ナリ



喉頭ハ發聲機  
關タリ

テ明白ナリトス今嚥下運動ニ際シ喉頭ニ起ルベキ變化ヲ觀察スルニ左ノ如シ

- (1) 下顎固定位ニ在テ喉頭ハ先ヅ上前方ニ舉上セラレ舌根直下部ニ轉位ス此ハ舌骨先ヅ舉上セラレ同時ニ甲状舌骨筋ノ作用ニ由リ喉頭ハラシテ舌骨ニ接近セシムルニ因ル
- (2) 次デ莖狀舌筋ノ作用ニ由リ後方ニ牽縮シタル舌ハ會厭軟骨ヲ壓下ス
- (3) 會厭軟骨ハ此際尙ホ甲状會厭筋及ビ披裂會厭筋ノ作用ニ由リ嚥下セラレ茲ニ完全ニ喉頭入口部ヲ閉鎖スルニ至ル
- (4) 其他同時ニ聲門閉鎖筋ノ反射的攣縮ニ由リ聲門閉鎖ヲ來ス
- (5) 此クシテ餌塊ハ喉頭入口部ヲ超ヘ食道内ニ進入ス
- (6) 嚥下運動終了スレバ會厭軟骨ハ自己ノ彈性ニ由リ舊位ニ復歸ス

(丙) 喉頭ハ發聲機關タリ 喉頭ハ二個ノ膜舌ヲ有スル一種ノ吹笛ニ外ナラズ聲帶ハ振動膜ニ一致シ且ツ吹管又ハ通風管トシテハ氣管

聲音ノ高低

支及ビ氣管ヲ又其共鳴裝置トシテハ咽腔、口腔及ビ鼻腔ヲ有ス  
今○聲○音○ノ○發○生○上○必○要○ナ○ル○要○約○ヲ○舉○グ○レ○バ○左○ノ○如○シ○

- (1) 聲帶ハ適宜緊張セザルベカラズ
- (2) 聲門ハ閉鎖セザルベカラズ發聲ノ瞬時兩聲帶ハ均シク正中線ニ向テ接近スルヲ要ス聲門ニ密迷以上開放スレバ嘔聲ヲ來シ其哆開尙ホ高度ナレバ終ニ失聲トナル
- (3) 呼氣ハ一定ノ強度ヲ有セザルベカラズ
- (4) 呼氣ハ其未ダ聲帶ニ達セザルニ先チ他ニ遁逃スベカラズ

以上ノ要約ヲ具備スレバ初メテ正規ノ音聲ヲ發スルヲ得ベシ而シテ咽腔、口腔及ビ鼻腔ノ正規常態ニ存スルアリテ其氣注共鳴スレバ聲音著シク増強セラル、モノナリ

聲音ニ於テ吾人ハ高低ト強弱ト音色トヲ區別ス

(A) 聲音ノ高低 Tonhöhe. 一ニハ聲帶ノ長サニ關シ、二ニハ聲帶ノ緊張ニ關シ、三ニハ呼氣ノ強度ニ關ス則チ聲帶ノ短キホド、緊張ノ強キホド



聲音ノ強弱

振動セシメラル、コトノ甚シキホド其一定時間ニ於ケル振動數愈大ニシテ聲音高調ナリ諸家ノ調査ニ依ルニ安靜時ニ於ケル聲帶ノ長サ、十四歲以下ノ小兒ニ在テハ約一・一・密迷、壯年ノ男子ニ在テハ一・七・五—一・八・二密迷、婦人ニ在テハ一・二・六—一・三・五密迷ヲ算ス宜ナルカナ小兒ノ聲帶最モ短クシテ聲音最モ高調ニ、婦人ノ聲帶男性ニ比スレバ著シク短小ニシテ其聲音ノ高調ナルヤ、春機發動期ニ達シ童兒ノ聲帶其長サヲ加フルヤ音調頓ニ低キニ就ク亦以テ聲帶ノ長短直接ニ聲音ノ高低ニ關スルヲ知ルニ足ル、甲狀環狀筋ノ收縮スルヤ聲帶緊張セラレ其發スル聲音高調ナリ、腹筋ヲ役スル甚シキホド肺中ノ空氣壓ヲ加ヘテ呼出セラレ其聲帶ヲ振動セシムルコト愈、強シ此際聲音固ヨリ高調トナル

(B) 聲音ノ強弱 *Tonsilike*. 其強サハ振動ノ大サ及ビ呼氣ノ壓ニ正比例シ一秒時ノ振動數ニ關セズ故ニ肺及ビ胸廓ノ發育佳良ナルモノハ否ラザルモノニ比シ聲音著シク強盛ナリトス

(C) 音色 *Timbre*. 此ハ個人的特性ニシテ喉頭咽腔及ビ鼻腔ノ解剖的造

音色

聲音ノ律或ハ譜

構ニ關ス即チ聲帶振頰ノ種類、吹管及ビ共鳴裝置ノ形態並ニ性狀ニ依リ人聲ノ音色ニ變異ヲ來ス

聲音ノ律或ハ譜 *Sinnregister*. 人ノ聲音ニ種々ノ譜アリ其主要ナルモノニアリ一ヲ胸聲ト云ヒ二ヲ頭聲ト云フ

胸聲 *Bruststimme*. 之ハ甚ダ上音ニ富ミ全胸廓内ノ空氣響鳴ス故ニ此際胸壁著シク振頰シ手ヲ以テ按ズレバ明ニ其振頰ヲ感觸スルヲ得ベシ而シテ其聲音ハ一般ニ低調ニシテ喉頭ハ稍、下降シ副管爲メニ延長セラル喉頭鏡検査上、聲帶ハ其全長全幅ニ於テ振動シ發聲時聲門ノ閉鎖比較的緊密ナルヲ要ス而シテ會厭軟骨ノ舉起不充分ナリ

頭聲或ハ假聲 *Kopfstimme* or. *Falschstimme*. 此ハ上音ニ乏シク胸廓内ノ響鳴殆ンド缺如シ從テ胸壁ノ振頰觸ルベカラズ而シテ其聲音高調ニシテ喉頭ハ舉上シ舌骨ニ接近固定セラレ副管爲ニ短縮シ口蓋帆ハ著シク後上ニ牽縮シ口腔及ビ咽腔ノミ共鳴機關トナリ其發スル聲音恰モ頭部ヨリ來ルガ如シ此時實際頭蓋骨ハ振頰ス故ニ頭聲ノ名アリ喉頭鏡検査上、會



會厭軟骨ト聲  
音高低トノ關  
係

脈軟骨ハ著シク舉起シ聲帶ハ其全幅ニ於テ振動セズ唯遊離縁ノ狹薄ナル一帯振動スルノミ聲門ノ閉鎖ハ胸聲ニ於ケルガ如ク緊密ナルヲ要セズ後端一部ハ左右全ク相接着スルモ前方ニハ比軟の廣キ橢圓形間隙ヲ殘シモルガンニ一氏竇入口部狹小トナル

會厭軟骨ト聲音高低トノ關係

高調ノ聲音ヲ發スルヤ會厭軟骨ハ自ラ著シク舉起シ低調ナルニ從ヒ其舉起愈々不完全ナルハ事實ナリ吾人ノ喉頭鏡検査ヲ行フニ當リ可及的廣ク喉頭内景ヲ觀視センガ爲メ高調ノ「アエー」等ヲ發セシムルノ理由實ニ茲ニ存ス

モルガンニ一氏  
竇ノ生理的  
作用

モルガンニ一氏竇ノ生理的作用

眞聲帶ノ上方ニ假聲帶アリ兩者ノ間ニモルガンニ一氏竇ヲ存ス其生理的作用ニアリ一ニハ眞聲帶ノ爲ニ餘地ヲ留メ以テ自在ニ振動スルヲ得セシメ二ニハ竇内ニ存スル葡萄狀腺ヲシテ粘液ヲ分泌シ眞聲帶ヲ濕潤滑澤ナラシメ以テ其振動ニ障礙ナカラシム

竇帶ト發聲ト  
ノ關係

竇帶ト發聲トノ關係

竇帶即チ假聲帶ハ正規常態ニ在テハ發聲上何等ノ關係ナシト雖ドモ病的狀態ニ在テ聲帶ノ官能不完全若クハ廢絶セル場合ニハ竇帶ノ代償的作用ヲ營ムヲ見ルコトアリ此際兩側竇帶ハ其鈍厚ナル彈性ニ乏シキ遊離縁相互接觸振動シ粗烈不快ナル聲音ヲ發生ス之ヲ竇帶話 *Taschenband-sprache* ト云フ且ツ其發スル咳嗽ハ犬吠ノ如シ之ヲ格魯布咳 *Croupkusten* ト云フ

人ノ發シ得ベ  
キ聲音ノ區域

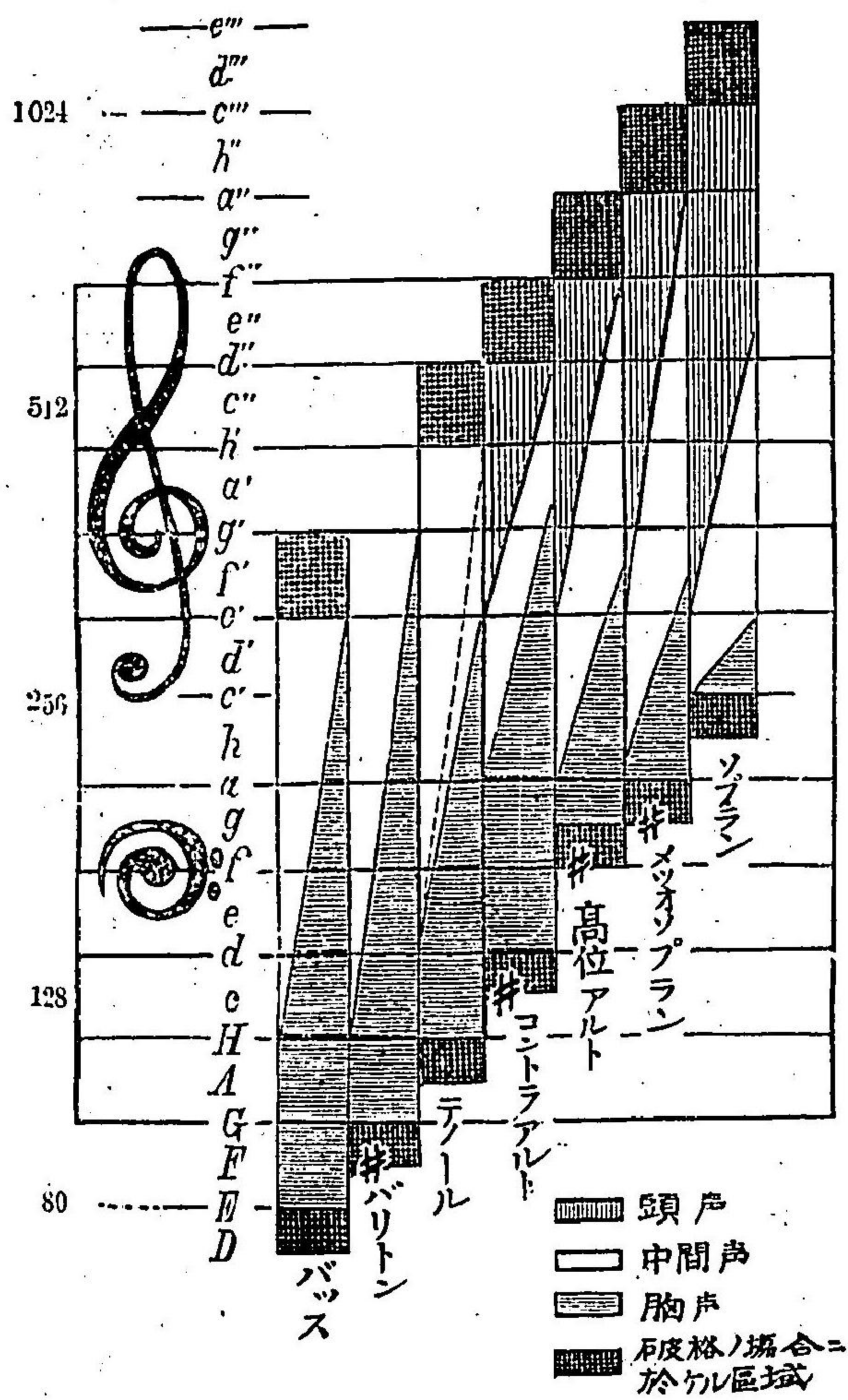
人ノ發シ得ベキ聲音ノ區域

小兒ハ其聲帶最モ短クシテ最モ高調ノ聲音ヲ發シ成育セル男子ハ聲帶最モ長クシテ最モ低調ノ聲音ヲ發シ婦人ノ音聲其中間ニ在ルハ前頁記述セルガ如シ而シテ男子所發ノ最低聲音ヲ「バース」*Bas* ト云ヒ最モ高調ナルヲ「テノール」*Tenor* ト云ヒ其中間ナルヲ「バリトン」*Bartion* ト云フ又婦人及ビ小兒所發ノ最モ低調ナルヲ「アルト」*Alt* ト云ヒ最モ高調ナルヲ「ソプラノ」*Soprano* ト云ヒ其中間ナルヲ「メソソプラノ」*Mesosoprano* ト云フ



第百六十二圖

ストックハウゼン氏ニ據ル



諸聲ト話聲

諸聲ト話聲

Gesangsstimme und Sprechstimme

諸聲ハ聲帯ノ振動極メテ整然タリ恰モ樂器ニ依リ發生スルモノ、如シ此際副管(共鳴装置)ハ正規ノ形態ヲ取り雜音ヲ缺如スルモノトス前項記載ノ「バス」「テノール」「アルト」「ソプラノ」等之ニ屬ス

話聲トハ純正音ノミナラズ之ニ雜音ヲ混在スルモノニシテ聲帯ノ振動及ビ副管ノ形態共ニ諸聲ニ於ケルガ如ク整然タラザルナリ

呬聲或ハ呬語

呬聲或ハ呬語

Fistelsstimme resp. Fistersprache.

諸聲ニ於テモ尋常ノ話聲ニ於テモ共ニ多少整然タル聲帯ノ振動ヲ以テ必要ナル無件トス然レドモ呬聲ニ在テハ其發生上聲帯ノ振動ヲ要セズ聲門ハ膜様部ニ於テ全ク閉鎖スルモ後方軟骨部ニ於テハ開放シ呼氣ノ逸出スルニ任カス此際一種ノ吹様摩擦音ヲ發シ咽腔及ビ口腔等副管ノ特異形態ニ依リ強盛セラレ無響性音トナリ現出スルモノナリ

聲音變換

聲音變換

Mutieren.

生理的機轉タル聲音變換ハ男性ニ在テハ女性ニ於ケルヨリモ其發現甚



ダ遅徐ニシテ且ツ著明ナリトス而シテ此ハ喉頭ノ發育迅速且ツ強大ナルニ由來ス小兒期ニ於テハ男女兩性共ニ聲音高調ナルモ春機發動期ニ至ルヤ男性ニ在テハ著シク變聲シ不快粗烈ナル低調若クハ假聲ニ類セル聲音トナル女性ニ在テハ甚ダ輕微ニシテ依然高調ノ聲音ヲ發ス此際喉頭粘膜ハ充血ヲ呈ス而シテ聲音變換ノ持續ハ一様ナラズ一乃至二年時トシテ三年ニ亘ルコトアリ

去勢聲音

去勢聲音 *Famuchenschnitte*.

春機發動期前ニ睪丸剔出術 *Castration* ヲ行フトキハ喉頭ノ發育男子ニ於テモ停止シ聲音變換著明ナラズシテ爾後常ニ高調ニ止マルモノトス之ヲ去勢聲音ト云フ

第三章 喉頭検査法 *Untersuchungsmethoden des Kehlkopfes.*

喉頭鏡検査法

喉頭鏡検査法 *Laryngoscopie.*

某光源ヨリ發スル光線ヲ集合シテ之ヲ咽頭内ニ送入セル小鏡面ニ投ジ

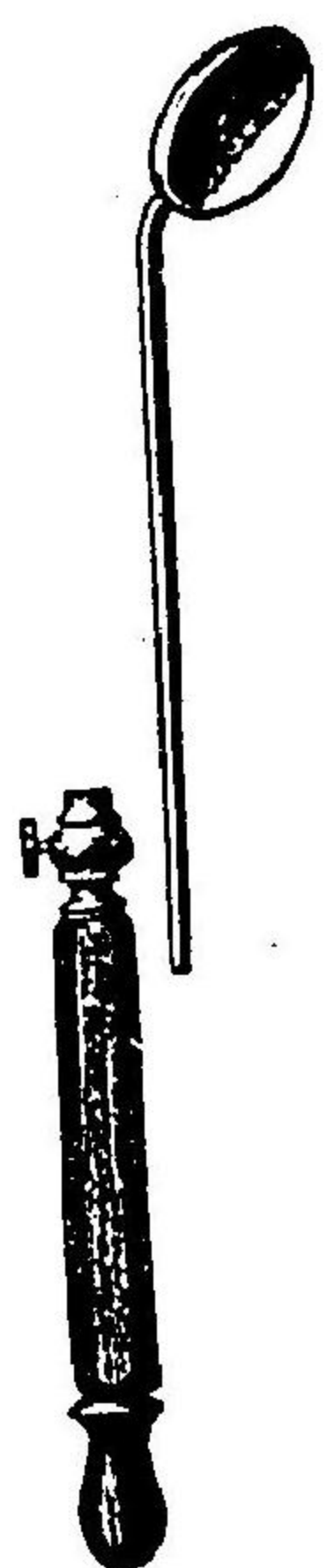
之ヨリ更ニ下方喉頭内ヲ射照シ喉頭内景ヲ其小鏡面ニ映ゼシメ之ヲ看視スルノ法ナリ  
之ニ要スル器械左ノ如シ

- (1) 反射鏡 *Reflector*. 耳科學總論ニ於テ述ベタル如ク額帶附反射鏡口保反射鏡何レヲ用フルモ可ナリ唯ダ必要ナル條件ハ其燒距ノ比較的大ナルモノ即チ一八—二〇仙迷ナルヲ以テ便利ナリトス是レ燒點近キニ過グレバ甚シク被檢者ノ口腔ニ接近セザルベカラズ從テ種種ノ器械ヲ取扱フニ當リ大ニ困難ヲ感ズベケレバナリ

- (2) 喉頭鏡 *Kehlkopfspiegel* 此ハ直徑一—二五仙迷ノ硝子製圓形平面鏡ニシテ普ネク人ノ知ル如ク金屬匣ヲ以テ圍繞セラレ之ニ百二十度乃至百二十五度ノ

圖三十六百第

鏡頭喉



角度ヲ以テ金屬製長莖ヲ固着セルモノニシテ其







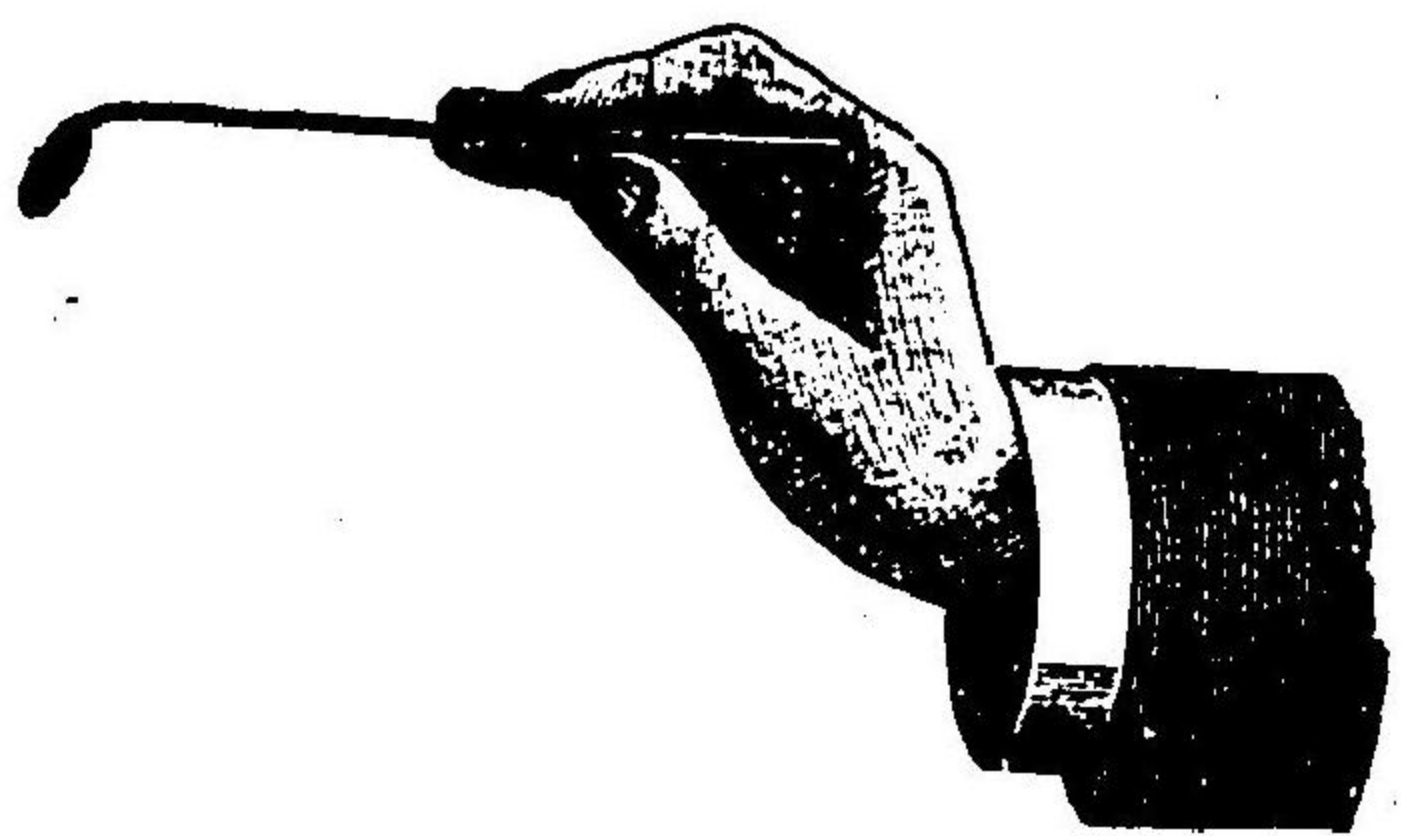
喉頭鏡検査ニ  
於ケル二三ノ  
注意

アリ元來咽頭粘膜ハ一般ニ知覺鋭敏ニシテ急劇ノ接觸ハ直ニ嘔吐運動ヲ惹起スルモノナレドモ緩徐ニ觸ルレバ能ク之ヲ防遏スルヲ得ベシ故ニ喉頭鏡背面ヲ以テ徐々ニ懸垂垂及ビ口蓋帆ヲ後上方ニ壓排スベシ斯クシテ鏡面前下方ニ向ヘバ檢者ハ之ニ喉頭像ノ映ズルヲ見ル而シテ呼吸及ビ「アー」[アー]「ビー」(Al, Al, His)等ノ發聲ニ際シ聲帶ノ運動狀態並ニ喉頭下腔乃至氣管ノ景況ヲ精査スベシ其常像ハ附圖第五表ノ三ニ示セルガ如シ而シテ喉頭ノ後部殊ニ披裂軟骨部ハ目擊容易ナレドモ前部ノ看視ハ一般ニ困難ナリ其望診區域ノ大小ハ一ニ檢者ノ手腕ニ依ルモノトス

喉頭鏡検査ニ於ケル二三ノ注意

(1) 喉頭鏡ノ保持法ニ就テ 未熟ノ檢者ハ之ヲ保持スルニ恰モ能書家ノ筆ヲ執ルガ如クシテ末端ノミヲ支摘シ且ツ無難作ニ挿入シテ失敗ヲ招クハ吾人ノ常ニ見ル所ノ弊害ナリ何トナレバ細長ナル器械ノ柄端ヲ摘ミテ先端鏡部ヲ狹隘ナル咽腔ニ送致シ加之此部ニ靜止

第百六十六圖  
喉頭鏡ノ保持法



セシムルハ難事申中ノ難タルモノナリ從テ徒ニ粘膜諸部ニ接觸シ嘔吐ヲ促スハ理ノ當然ナリ故ニ之ヲ把持スルニハ必ず尋常執筆法ニ則リ上圖ニ示スガ如ク之ヲ輕ク拇示及ビ中ノ三指ニ委ネ且ツ咽腔ニ送入スルニハ鏡面ヲシテ舌背ニ平行ナラシメ後方ニ進ムニ從ヒ多少鏡面ヲ廻轉スル如クシ既ニ咽腔ニ達シタル後ハ環指若クハ環小兩指ヲ以テ患者ノ頰部ニ貼シツ、固

(2)

定シ手指ノ動搖ヲ防グヲ可トス  
鏡面防曇法ニ就テ 口内水蒸氣ニヨリ乾冷ノ鏡面ニハ必ず曇ヲ生ジ映像爲ニ判明ナラズ故ニ其豫防法トシテ古來鏡面ヲ燈火上ニ致シ加温スルヲ例トセリ  
然ルニ之ヲ直ニ口腔内ニ送入スレバ火傷ヲ起シ又ハ之ヲ發スルニ



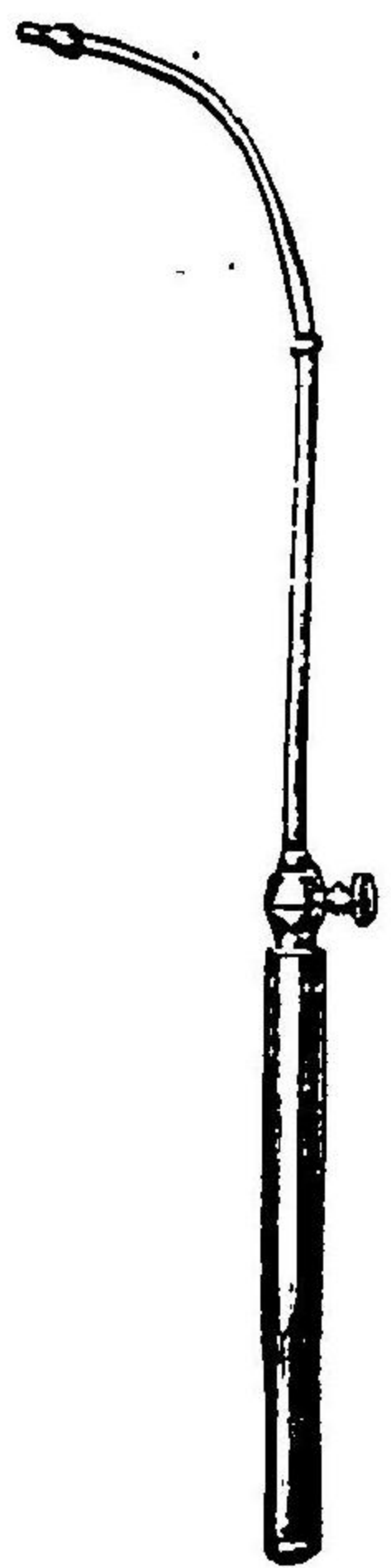
至ラザルモ患者ニ驚愕恐怖ノ念ヲ抱カシムルコトアリ放ニ毎回先  
 ズ自己ノ手背ニ貼シテ其冷熱如何ヲ檢スルノ習慣ヲ養成スベシ  
 其他〇・五%リゾール溶液、五%曹達液等亦鏡曇ヲ防グヲ得ベシ  
 舌ノ保護ニ就テ、強劇ニ舌ヲ牽出シ爲ニ繫帶部ヲ損傷スルコト稀  
 ナラズ之ヲ防グニハ下唇ヲ以テ下齒列ヲ被ヒ若クハ綿紗片ヲ舌ト  
 齒列トノ間ニ箱入スベシ

(1) 喉頭鏡検査ノ障礙

咽頭ノ知覺過敏症、最モ屢々遭遇スル障礙ニシテ無益ノ接觸ニヨリ  
 テハ勿論時トシテ檢者ノ未ダ喉頭鏡ヲ手ニセザルニ先チ單ニ口腔  
 ヲ開大シ若クハ舌ヲ挺出セシムル而已ニシテ業ニ已ニ絞扼運動ノ  
 發現スルモノアリ此ノ如キハ概シテ男子(殊ニ喫煙及ビ大酒家ニ多  
 ク女子ニハ比較的稀ナリ)故ニ鏡檢時ニハ必ズ惶惶喉頭鏡ヲ送入ス  
 ルコトナク先ヅ充分安靜ノ呼吸ヲ豫行セシムベシ又呼吸中斷ハ容  
 易ニ絞扼運動ヲ喚起スルモノナリ故ニ呼吸ヲ厲行セシムレバ之ヲ

圖七十六百第

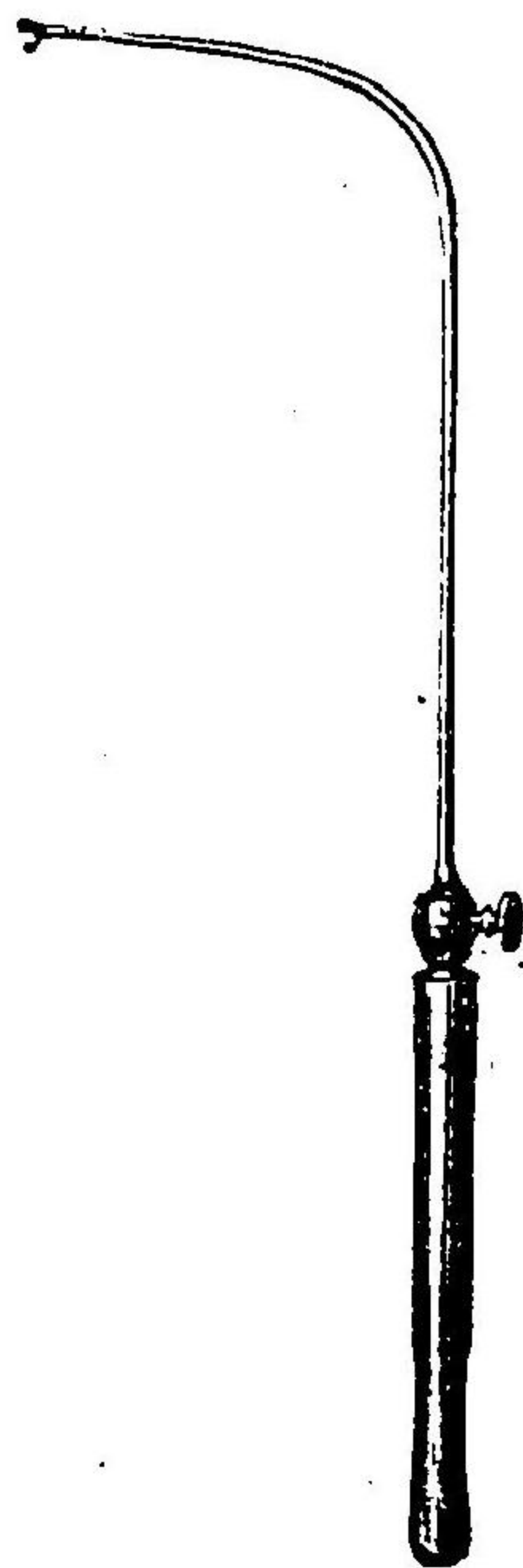
器綿夾染塗頭喉



(2)

圖八十六百第

氏-キスリアル  
器舉竹軟脈會



未發ニ防遏スルヲ得ルコト多シ其他被檢者ノ熟練檢査ノ迅速及ビ  
 檢査時刻ノ撰定(飽食後ヲ避クルヲ可トス)等ニヨリ目的ヲ達スルヲ  
 得ベシ

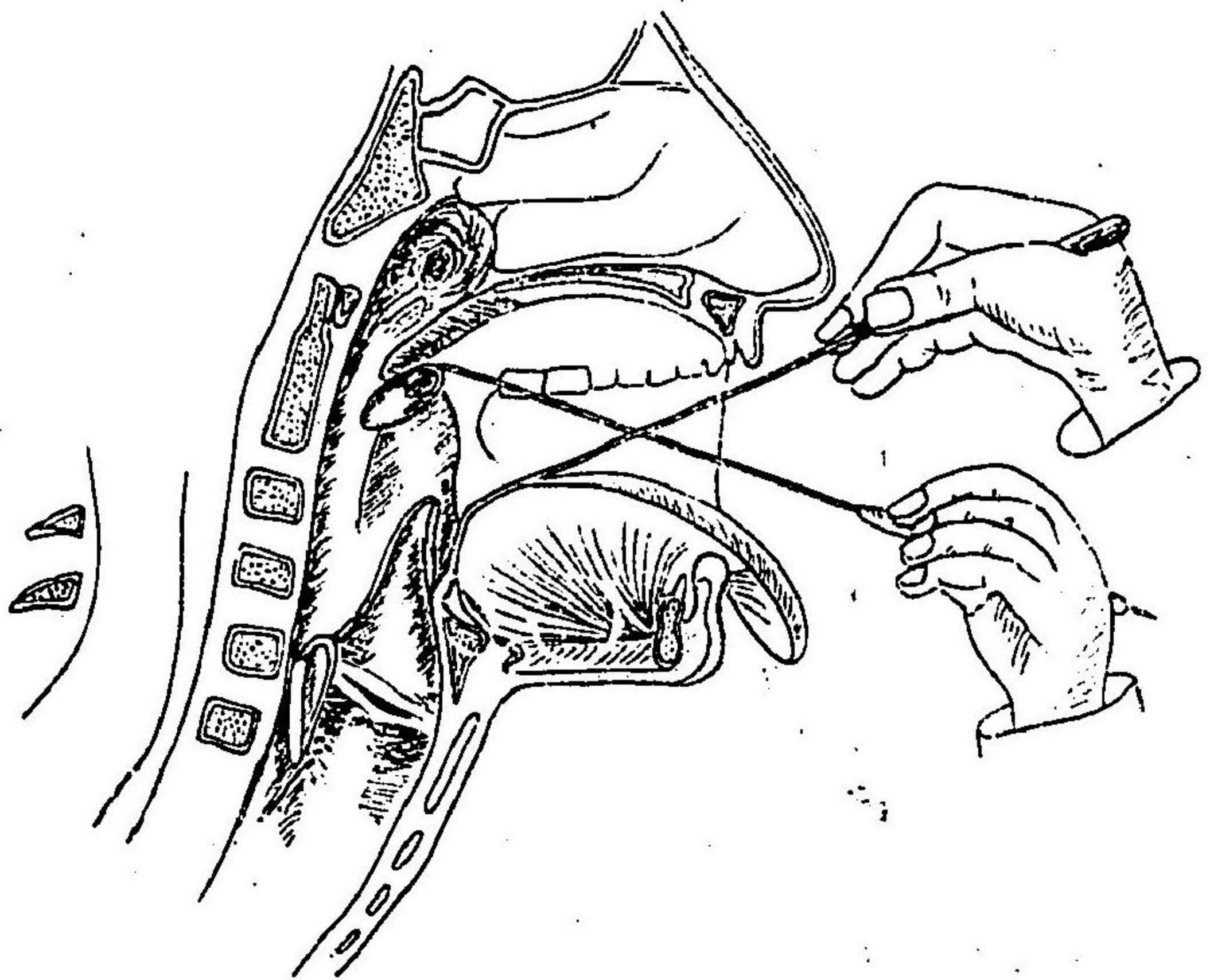
非常ニ困難ナル場合ニハ五—一〇%古加乙涅槃ノ塗布ニ依リ之ヲ

制止スベシ  
 會脈軟骨ノ  
 後方傾斜及  
 舉上不全  
 通常舌ノ壓  
 低及ビ挺出  
 並ニ高調ノ  
 發聲ニ依リ  
 會脈軟骨ハ  
 自ラ擡起シ



圖九十六百第

狀ノルス檢鏡デヒ用ナ器舉氏一キスリアル



喉頭口開大スルヲ例ト  
ス然レドモ其運動著シ  
ク不完全ニシテ内景ヲ  
窺フヲ得ザルコトアリ  
然ルトキハ豫メ五—一  
〇%ノ古加乙混液ヲ以  
テ舌根部殊ニ中會厭舌  
皺襞部第百六十一圖〇  
ニ塗布シタル後ルブリ  
ンスキー氏會厭軟骨舉  
器ヲ以テ舌根部ヲ前下  
方ニ壓低スベシ然ルト  
キハ槓杆ノ理ニヨリ會  
厭軟骨ノ遊離縁自カラ

- (3) 前上方ニ轉移シ鏡檢ノ目的ヲ達スルヲ得ベシ  
會厭軟骨ノΩ狀彎曲。此畸形高度ナルトキハ聲帶ハ只發聲時辛ウ  
シテ認メ得ベキノミ而カモ同時ニ兩側ヲ看視スルヲ得ズ故ニ數回  
検査ヲ反復シ映像ヲ綜合シテ判定セザルベカラズ
- (4) 咽頭ノ狹隘。口蓋扁桃腺肥大等ニヨリ狹隘ナルトキハ可及的小ナ  
ル喉頭鏡ヲ使用スベシ其高度ナルモノハ豫メ切除セザルベカラズ
- (5) 困難ナルハ扁桃腺周圍膿瘍ノ現存ナリ  
口腔ノ癍痕下顎關節強剛等ニヨリ開口充分ナラザル場合ニハ之ヲ  
除去スルニ非ザレバ到底目的ヲ達シ難シ
- (6) 小兒ノ喉頭。概シテ困難ナリ最モ難キハ不從順ナル腕白兒童ニ於  
テ屢遭遇ス或ハ頭首ヲ振轉シ器械ヲ奪取シ或ハ口ヲ閉閉シテ鏡檢  
ヲ拒障スルコト稀ナラズ威嚇若クハ温言以テ之ニ接シ辛ウジテ目  
的ヲ達シ得ルコトアリ又口閉ハ鼻ヲ撮ムニ依テ制止シ得ルコト多  
シ又假令小兒從順ナリトスルモ爾他前記ノ障礙ニヨリ終ニ鏡檢法

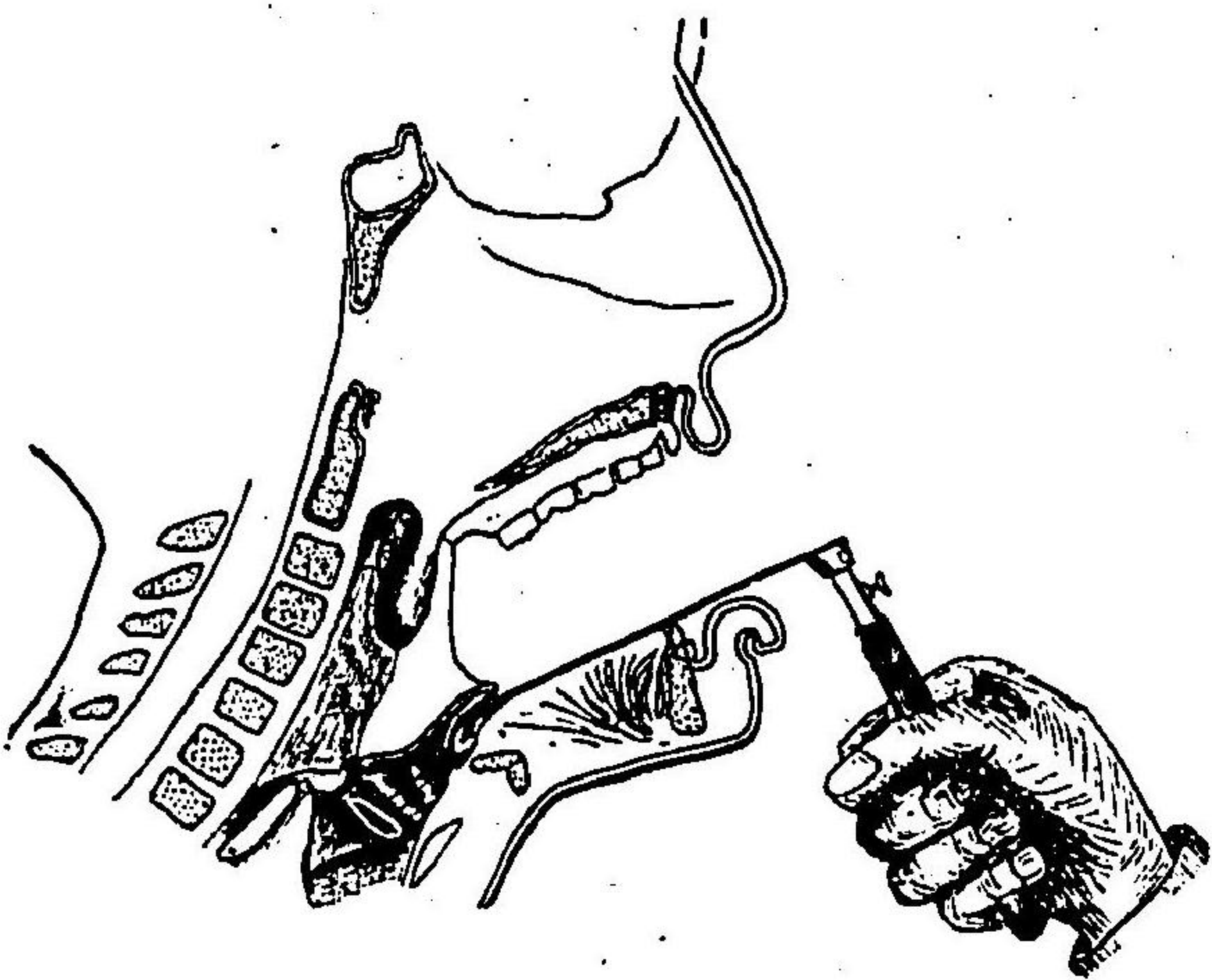






第百七十七圖

キスルイ氏直達檢視ノ狀



第百七十三圖

キスルイ氏前額電燈



仰屈セシメ檢者ハ同氏ノ前額電燈裝置ニヨリ喉頭ヲ直視スル者ナリ  
本法ハ喉頭後壁ヲ詳檢シ得ルノミナラズ氣管ノ狀態ヲモ通覽スルノ便  
アリ又小兒ニハ迷朦ノ下ニ本法ヲ應用シ能ク目的ヲ達シ得ルコトアリ

喉頭科學各論

喉頭粘膜炎

急性加答兒性  
喉頭炎

喉頭科學各論 *spezieller Teil*

第一章 喉頭粘膜炎ノ疾患 *Krankheiten der Kehlkopfschleimhaut*

急性加答兒性喉頭炎 *Laryngitis acuta catarrhalis*

**原因** 感冒ヲ以テ主因トス過度ノ發聲熱性飲料大酒喫煙辛辣ノ食餌並ニ格魯兒貌羅謨及ビ沃度等刺戟性瓦斯ノ吸入亦其原因タリ  
其他急性傳染病例ヘバ麻疹猩紅熱百日咳丹毒及ビインフルエンザ等ニ續發シ或ハ鼻腔咽腔ノ急性炎ヨリ繼發ス  
**症候** 本病ノ主徴ハ聲音ノ變化ニシテ其輕度ナルモノハ曇濁乃至粗糙ナルニ止マリ高度ナルモノハ全ク嘶啞シ失聲症 *aphonia* トナル且ツ聲咳或ハ咳嗽アリ又喉内灼熱乾燥ノ感ヲ訴フ疼痛ハ通常著明ナラザルモ會厭軟骨披裂會厭皺襞及ビ喉頭後壁ノ炎症甚シキ場合ニ於テハ嚥下時又ハ咳嗽ニ際シ屢劇痛ヲ感ズ

喉頭粘膜炎ノ疾患



咳○ハ多ク短且ツ粗ニシテ犬ノ吠ユルガ如ク喀○痰ハ或ハ僅少或ハ全ク  
 缺如ス而シテ通常初期ニハ甚ダ粘稠(生痰 Sputum crutum)ナルモ後ニハ帶  
 黄色不透明トナル(熟痰 Sputum coctum)  
 全身状態ハ區々ニシテ或ハ惡寒發熱ヲ來シ頭痛及ビ全身倦怠劇甚ナル  
 アリ或ハ全ク發熱ヲ缺キ單ニ全身違和ヲ訴フルニ過ギザルコトアリ  
 喉頭鏡検査ヲ行フニ粘膜ハ發赤腫脹ヲ呈シ粘液性若クハ膿性分泌物ヲ  
 附着ス

然レドモ其所見毎常一樣ナラズ分泌物間乾燥痂皮ヲ結成シ粘膜面ニ固  
 着スルコトアリ患者ハ煩ハシキ咳嗽ニ依リ之ヲ咯出セントス爲ニ屢出  
 血ヲ喚起ス此ノ如キヲ急性乾性喉頭炎 Laryngitis sicca acutaト稱ス又炎症  
 時トシテ全喉頭ニ蔓延シ或ハ時トシテ其一部ニ限局スルコトアリ之ニ  
 由リ臨床上喉頭炎ヲ細別シテ左ノ諸種トス  
 會厭軟骨部炎 Epiglottitis. 主トシテ會厭軟骨部ノ侵サル、モノニシテ其  
 舌面若クハ會厭軟骨結節部ニ高度ノ發赤腫脹アリ遊離縁ハ鈍圓トナリ

畸醜ヲ呈ス而シテ該軟骨ノ運動大ニ制限セラル本症ニ於テハ喉頭部ノ  
 異物感及ビ嚥下困難アリ  
 急性竇帶炎 Laryngitis ventriculalis. 此ハ主トシテ兩側竇帶ノ著シク侵  
 襲セラル、モノニシテ其高度ナルモノニ在リテハ遊離縁左右相互接觸  
 シ爲ニ殆ンド全ク聲帶ヲ掩蔽スルコトアリ  
 急性聲帶炎 Chondritis vocalis acuta. 聲帶ノ變化著明ナルモノニシテ高度ノ  
 發赤腫脹アリ爲ニ聲帶ハ其固有白色ヲ失ヒ遊離縁鈍圓トナル而シテ發  
 赤ハ時トシテ全聲帶ニ亘リ又時トシテ只其邊縁ニ局在スルコトアリ  
 急性披裂軟骨間部炎 Interycaenoiditis acuta. 主トシテ喉頭後壁ノ發炎セ  
 ルモノニシテ著シク腫脹シ爲ニ聲門閉鎖ヲ障礙スルコト多シ  
 急性聲帶下喉頭炎 Laryngitis hypoglottica acuta. 喉頭下腔即チ聲帶直下部粘  
 膜ノ腫脹高度ニシテ多クハ聲帶ト平行シ喉頭鏡検査上恰モ第二聲帶ヲ  
 觀ルガ如シ

合併症

主要ナルハ筋簇ノ麻痺ナリ就中内甲狀披裂筋及後環狀披裂



筋ニ來ルヲ多トス而シテ此等ノ筋麻痺ハ重症加答兒ニノミ併發スルニ非ズ他覺症ノ僅微ナルモノニ來ルコト亦稀ナラズ此際聲音嘶啞著シク高度ナリ又時トシテ聲門痙攣 *Spasmus glottidis* ヲ發ス其他不攝生家ニシテ療養ヲ等閑ニ附スルモノ若クハ麻疹「インフルエンザ」等ニ基因スル喉頭炎ニ在テハ加答兒性潰瘍ヲ生ズ

尙ホ茲ニ舉グベキハ喉頭出血ナリ其量通常僅少ナルモ時トシテ劇甚ナルコトアリ是レ亦不攝生家ニ見ル所ノ一症候タリ然レドモ「インフルエンザ」性喉頭炎及ビ妊婦ニ發スルモノハ屢所謂出血性喉頭炎 *Laryngitis haemorrhagica* ニシテ聲帶、竇帶及ビ後壁ニ於ケル粘膜内外出血ヲ來スモノナリ其高度ナルモノハ血腫又ハ凝血ニ依リ喉頭内腔ヲ狹隘ナラシメ窒息ニ陥ラシムルコトアリ

**經過** 輕度ノ單純性喉頭炎ハ通常數日ヨリ一二週日ニシテ治癒スルモ出血性喉頭炎若クハ合併症アルモノハ三週乃至八週日ニ遷延ス又聲音過勞、飲酒、喫煙濫用等ノ不攝生或ハ循環障礙ノ存スルモノニ在テハ多ク

慢性症ニ移行ス時トシテ又粘膜下結締織炎(フレグモ―ネ性炎)ニ變ズルコトアリ

**豫後** 概シテ佳良

**療法** 原因療法ヲ緊要トス飲酒、喫煙及ビ談話ヲ禁ジ近隣部ノ炎症アルモノハ之ヲ治療シ感冒其原因タルモノニシテ初期ナルニ於テハ發汗劑ヲ投ジ頭部ニブリースニツ氏器ヲ施シ發熱アルモノニハ解熱劑ヲ與ヘ咳嗽甚シキトキハ莫兒比涅、古埵乙涅、ヘロイン、韭沃斯、越幾斯等ヲ内服セシメ兼テ緩下劑ニヨリ便通ヲ整フベシ

其他吸入ヲ命ジ分泌旺盛ナルトキハ祛痰劑ヲ與フ(出血性喉頭炎ニハ之ヲ避ケザルベカラズ)

**處方例**

- |                     |              |       |
|---------------------|--------------|-------|
| 百三、遠志浸 (三〇—四〇) 一〇〇〇 | 百四、「アゴモルファン」 | 各〇〇一五 |
| 鹽酸莫兒比涅              | 稀鹽酸          | 一〇〇   |
| 杏仁水                 | 單 舍          | 八〇〇   |
| 單 舍                 | 縮 水          | 一〇〇〇  |
| 右混和一日三四分服           | 右混和一日三四分服    |       |



百五、食鹽 各二〇—四〇  
 臭那 水 二〇〇〇  
 右混和爲吸入料  
 百六、古達乙退 〇・一五  
 杏仁水 各一〇〇  
 酒精 各一〇〇  
 右爲滴劑一日三四十滴宛

百七、「ヘロイン」 〇・〇〇五  
 乳糖 〇・五  
 右爲一包與六包一日三四一包宛  
 百八、食鹽 四・〇  
 「イヒチカール」 三・〇  
 水 二〇〇〇  
 右混和爲吸入料

局所療法ハ急性喉頭炎ニ於テ通常必要ヲ見ザルノミナラズ却テ之ニ因リ往々慢性症ニ變ゼシムルノ害アリ  
 加答兒性潰瘍ノ形成アル場合ニ於テモ發聲器ノ安靜ヲ嚴守セシメ且ツ一%單寧水三%硼砂液或ハ二%硼酸水等ノ吸入ニヨリ多クハ治療ス  
 喉頭筋麻痺アル場合ニハ感傳電氣療法ヲ併施スベシ

小兒急性喉頭炎一名假性格魯布

小兒急性喉頭炎一名假性格魯布 Laryngitis

aenta hypoglottica der Kinder (Pseudocroup).

原因 大人ニ於ケルガ如シ營養不良ナル腺病性小兒殊ニ二歳乃至五歳ノモノニ多シ

症候 偽膜形成ナクシテ俄然喉頭狹窄症狀ヲ發ス其狀真性格魯布ニ酷似ス故ニ假性格魯布ノ名アリ  
 其發スルヤ通常夜間ニシテ安眠セル小兒突然呼吸困難ニ因リテ其夢ヲ破ラレ聲音嘶啞及ビ粗糙高調ノ所謂犬吠性咳嗽頻發シ顔貌紫藍色ヲ呈シ不安恐怖ノ狀アリ喉頭下降シ心窩及ビ肋間腔ニ吸氣の陥沒ヲ來シ將ニ窒息セントスルガ如シ而シテ此等ノ症狀ハ數時間ニシテ消散シ發汗ヲ以テ再ビ眠ニ就ク然レドモ次夜ニ至リ前記ノ危險症狀反復ス  
 他覺的鏡檢上聲帶下粘膜ノ腫脹アリ聲帶ニ平行ス其狀恰モ第二ノ聲帶充血セルヲ見ルガ如シ而シテ定期的發作性症狀アルハ恐ラク分泌物粘稠乾燥シテ蓄積シ一ハ器械的ニ喉頭ヲ狹隘ナラシメ又一ハ反射的聲門痙攣ヲ來スニ因ルモノナラン

診斷 毎常容易ナリトセズ



誤診シ易キハ喉頭實布の里ナリ然レドモ假性格魯布ニ在テハ實布の里性偽膜ヲ缺キ危險ナル窒息症狀モ倏忽ノ間ニ消散シ且ツ次夜ニ於テ反復襲來スルノ特徴アルニヨリ區別スルヲ得ベシ

**豫後** 概シテ良ナルモ時トシテ窒息ニ陥リ鬼籍ニ入ルコトアリ

**療法** 發作時ニハ室内ノ換氣及ビ濕潤ニ注意シ頸圍ノ酒精摩擦、ブリー、スニツツ氏器法若クハ氷器法、食鹽重曹ノ吸入糖水、牛乳等ノ温飲料ヲ與フ發作強劇ナルトキハ胸骨部ニ芥子泥ヲ貼シ吐劑ヲ應用スベシ其他鎮咳ニハ古堊乙涅、阿片丁幾等ヲ投シ窒息症狀甚シキトキハ氣管切開術或ハ插管法ヲ行フベシ

急性フレグモ一ネ性喉頭炎

急性「フレグモ一ネ」性喉頭炎

Laryngitis acuta phlegmonosa.

本病ハ固有粘膜層ノ外主トシテ粘膜下層ニ漿液性浸潤ヲ來シ又屢々化膿性トナリ膿瘍ヲ形成スルモノナリ

**原因** 急性單純性喉頭炎ヲ惹起スベキ原因ハ同時ニ又本病ノ原因タリ然レドモ急性「フレグモ一ネ」性咽頭炎ニ於ケルガ如ク主トシテ丹毒、膿毒症、窒扶斯、痘瘡等ニ因リ細菌性炎症ヲ來シ加之異物若クハ結核性、梅毒性及ビ癌腫性浸潤乃至潰瘍ノ周圍ニ於テ局部性「フレグモ一ネ」ヲ發ス其他所謂特發性ニシテ原因ノ詳ナラザルモノアリ

**症候** 其必發ノ徵候トシテ聲音嘶啞及ビ咳嗽アリ炎症高度ナルモノ殊ニ其聲門近傍ニ於テ強度ナルモノニ在テハ喉頭狹窄症狀アリ而シテ本病ノ襲來屢々急劇ニシテ而カモ著明ナルモノ多シ

然レドモ輕症ノモノ又ハ局部性「フレグモ一ネ」ニ在テハ症狀顯著ナラズ時トシテ原疾患ノ症狀ニ依リ掩蔽セラル、コトナキニ非ズ

喉頭鏡検査上粘膜ハ著シク潮紅ス然レドモ浮腫高度ナルモノニ在テハ多ク却テ蒼白ニシテ表面ハ透明能ク深部ノ狀況ヲ透見セシメ且ツ粘膜ノ腫脹著明ニシテ多クハ緊張ス之ヲ觸ル、ニ彈力性ヲ有ス

病變ハ喉頭全部ニ亘ルコトアルモ亦其一局部ニ限在シ若クハ一局部ニ



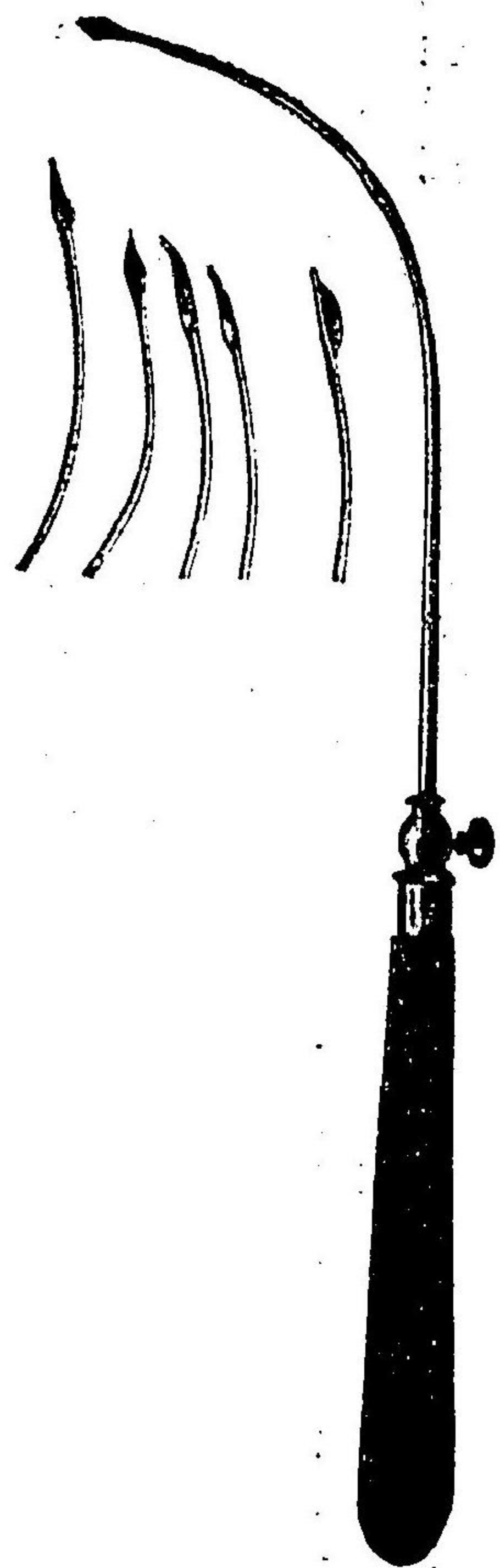
於テ比較的顯著ナルコト稀ナラズ而シテ此ハ好○ン○デ○粘○膜○下○層○ノ○發○育○著○明○ナル○部○位○ニ○占○居○ス○即チ會厭軟骨ノ前面會厭軟骨前安魏那 *Angina puer-*  
*epiglottica*)又ハ其全面會厭軟骨部炎 *Epiglottitis*)披裂會厭皺襞或ハ披裂軟骨  
 間(披裂軟骨間部炎 *Interarytenoiditis*)聲帶部(聲帶炎 *Laryngitis phlegmonosa ven-*  
*tricularis*)及ヒ聲帶下腔(急性聲帶下喉頭炎 *Laryngitis hypoglottica acuta* 等ナリ  
 聲帶モ亦著シク腫脹浮腫狀ヲ呈スルコトアリ之ヲ聲門水腫 *Oedema glo-*  
*tidis*ト稱ス内甲狀披裂筋纖維膿瘍ヲ形成スルニ至レバ腫脹益々増劇シ深  
 部ノ膿液ヲ透見スベシ

**經過及豫後** 經過通常劇烈ニシテ窒息症狀ヲ發スルモノ多ク從テ豫  
 後疑ハシキモノトス

**療法** 浮腫甚シキトキハ喉頭鏡看視ノ下ニ亂刺ヲ行フベシ之ニ由リ狹  
 窄症ヲ減弱シ若クハ消退セシムルヲ得ベシ

膿瘍ヲ生ズレバ可及的速ニ之レヲ切開スベシ又屢々氣管切開術ノ必要ア  
 リ

第百七十四圖  
喉頭切開刀



其他水霰法ヲ施ス

潰瘍ノ存在スルモノハ併セテ之ヲ治療セザルベカラズ

**慢性加答兒性喉頭炎** *Laryngitis chronica catarrhalis.*

**原因** 本病ハ通常急性喉頭加答兒ヨリ續發ス然レドモ亦一ノ職業的疾  
 患トナリテ來ル即チ謠吟者、說教師、教師、號令官等若クハ穀粉商、石工、火夫、  
 煙草製造人等ニ在テハ特ニ急性症ノ前驅スルコトナクシテ慢性症ニ罹

慢性加答兒性  
喉頭炎



ルコト多シ其他心臟及ビ呼吸器ノ慢性疾患並ニ鼻腔咽腔等ノ慢性病ニ併發ス

本病ハ成人殊ニ男子ニ多發ス

**症候**

喉頭部ニ於ケル乾涸搔抓ノ感聲音嘶嘎聲咳及ビ粘稠ノ咯痰ヲ以テ主徴トス會厭軟骨ノ肥厚著シケレバ異物ノ感甚シ

聲音變化ニハ種々ノ階級アリ即チ輕微ノ曇濁ヨリ至失聲ニ至ル時トシテ著變ナキモ長時談話ノ後粗糙トナリ嘎變スルコトアリ又高度ノ嘶嘎

アルモ分泌物ノ咯出ニヨリ著シク輕快スルコトアリ

分泌物ハ通常少量ニシテ硝子樣粘性ナルモ時トシテ灰白乃至暗色ヲ呈スルコトアリ又時トシテ膿性ニシテ乾固シ劇烈ノ咳嗽ニヨリ粘膜表

層ノ損傷ヲ來シ血液ヲ混ズルコトアリ

呼吸困難ハ通常缺如ス然レドモ聲帶下腔ニ於ケル粘膜下層ノ慢性症ニ在テハ急性炎症ノ附加スルニ際シ或ハ夜間分泌物ノ集積スルニ當リ突

然著シキ狭窄症狀ヲ來スコトアリ

他覺的症候ハ病變ノ坐所及ビ深淺ニ依リ一樣ナラズ一般ニハ慢性炎症ニ於テモ發赤腫起及ビ分泌增加若クハ減退アリ

發赤ハ通常單純ノ鮮紅色ニ非ズシテ多少帶黃帶褐帶青或ハ帶紫紅色ヲ呈ス加之屢鼻粘膜ニ於テ見ルガ如ク健康粘膜ノ紅色ニ比スレバ却テ褪

消シ黃白色或ハ灰白色ヲ帶ブルコトアリ之ヲ白色肥厚 *Wasse Hypertrophie* ト云フ然レドモ概シテ血管ハ擴張充實ス殊ニ靜脈ノ怒張セルハ屢見ル所ナリ

其他屢出血稀ニ上皮剝脫乃至表在性潰瘍ノ存在ヲ認ム

腫膜ハ急性炎ニ於ケルガ如ク單純ノ淋巴及ビ圓形細胞ノ浸潤ニ止マラズシテ粘膜各層及ビ粘膜下組織ノ肥厚増殖ニ基因ス

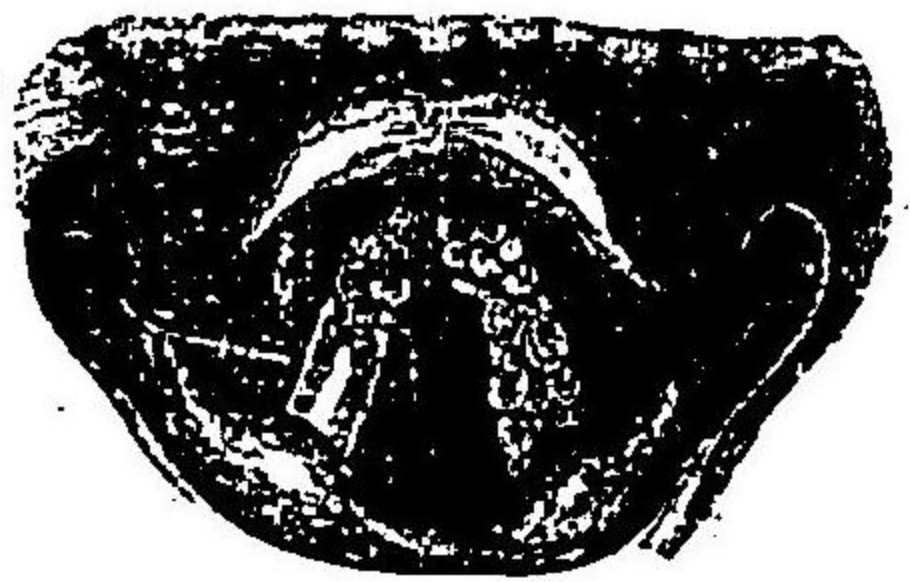
聲帶侵サルレバ其遊離緣鈍圓トナリ光澤ヲ失シ稍充血怒張セル血管ヲ露出シ或ハ全ク發赤ヲ缺ク此ハ殆ンド常ニ兩側ニ發ス其偏側ニ來ルモノハ概ネ單純性慢性炎ニ非ズシテ結核等ノ疑ヲ措クベキモノトス

聲帶ニハ時トシテ限局性上皮及ビ結締組織ノ増殖ヲ來シ其觀恰モトラ



第百七十五圖

聲帶「ムーホラト」



ホームニ類スルアリ之ヲ聲帶トテラホーム「Tracheom der Stimmbinder」ト云フ又其前及ビ中三分ノ一境界部ニ於テ一小結節ヲ生シ次デ對側同部ニ同様物ヲ生ズルコトアリ之ヲ結節性聲帶炎 Choritis nodosa ト云フ所謂謠人結節 Singerknollen ナリ

會厭軟骨ハ比較的屢肥厚シ不正形トナリ粘膜ノ潮紅著シク且ツ靜脈怒張シ加之運動自在ナラズ從テ喉頭内部ノ鏡檢甚ダ困難トナル  
假聲帶即チ聲帶ハ慢性炎ノ好發部位ニシテ著シク肥厚腫大シ瘤狀トナリ粘膜或ハ著シク潮紅或ハ却テ蒼白灰白色ヲ呈シ聲帶ヲ掩蔽スルノミナラズ發聲時聲門ノ未ダ閉鎖セザルニ先チ聲帶ノ遊離緣左右相互觸接振動シ爲ニ聲音粗雜トナリ(聲帶話 Tracheobandsprache)且ツ呼吸困難ヲ發ス  
披裂軟骨部及ビ披裂軟骨間部ハ最モ多ク侵サル、部位ニシテ發赤僅微ナルヲ常トス加之灰白色ヲ呈シ屢後壁ニ三個乃至數個ノ肥厚セル縱走

皺襞ヲ生シ發聲ニ際シ聲門間ニ侵入シ高度ノ嘶啞ヲ來スモノトス  
**合併症** 急性炎ニ於ケルガ如ク最モ多キハ筋ノ完全若クハ不全麻痺

ナリ殊ニ横走及ビ斜走披裂間筋並ニ内甲狀披裂筋ニ於テ屢之ヲ見ル其  
他長時持續スルモノニハ喉頭バビデルミ―聲帶下腔肥厚症及ビモルガ  
ン―氏資肥厚症ヲ繼發シ又加答兒性潰瘍及ビ喉頭後壁裂創等ヲ來ス  
コトアリ

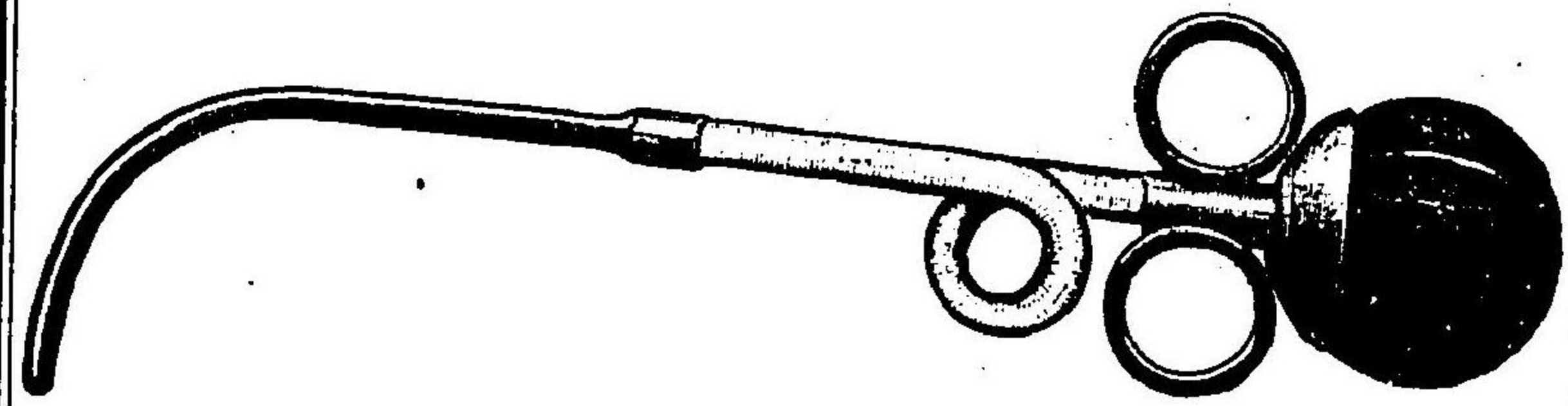
**豫後** 本病ハ治癒頗ル困難ナルコト多シ殊ニ經過一年餘ニ亘ルモノニ  
於テ然リ

**療法** 原因ヲ驅除スルヲ以テ最モ主要トス即チ職業的辯者ハ暫ク其職  
ヲ廢シテ靜養セシメ兼テ飲酒喫煙ヲ禁シ塵埃ノ吸入ヲ避ケシムベシ鼻  
呼吸障礙アルモノハ先ヅ之ヲ治療シ且ツ併發セル咽頭及ビ鼻咽腔加答  
兒ニハ適當ノ處置ヲ施スベシ一般ニ藥液吸入法及ビ含漱ハ廣ク應用セ  
ラル、モ奏効確實ナラズ  
輕度ノ瀰蔓性腫脹ニハ局所療法ヲ行フ即チ二〇―一〇％硝酸銀液一―



圖 六 十 七 百 第

器 射 注 頭 喉 氏 ト ヲ ム シ



一〇%格魯魯兒亞鉛液或ハ單寧偏里設林(一〇%)  
 (一)ノ喉内注入ヲ行ヒ其他、ゾツオドル亞鉛、  
 硝酸銀、單寧及ビ明礬劑等ノ喉内吹粉ヲ行フ  
 喉内藥液注入法、喉頭注射器ヲ用フ、先ヅ術  
 者ハ其左手ニ保持セル喉頭鏡ニ依リ喉内ヲ  
 看視シツ、患者ヲシテ「エー」ト發音セシメ其  
 瞬間ニ於テ右手ニ把持セル喉頭注射器ノ小  
 桿ヲ壓シ液藥ヲ滴下セシムベシ此ノ如ク發  
 聲時ニ於テスレバ聲帶ノ振動ニヨリ藥液ノ  
 喉内各部ニ觸接スルコト恰モ咽雷ニヨリ能  
 ク咽頭各部ニ撒蔓スルガ如シ然レドモ未熟  
 ノ術者ニ在テハ注入ノ時期發聲時ニ一致セ  
 ズ爲ニ藥液ハ氣管内ニ竄入シ患者ヲシテ咳  
 嗽頻發ノ苦悶ニ惱マシムルコト多シ注意セ

圖 七 十 七 百 第

器 射 注 頭 喉 氏 レ ケ ン レ フ

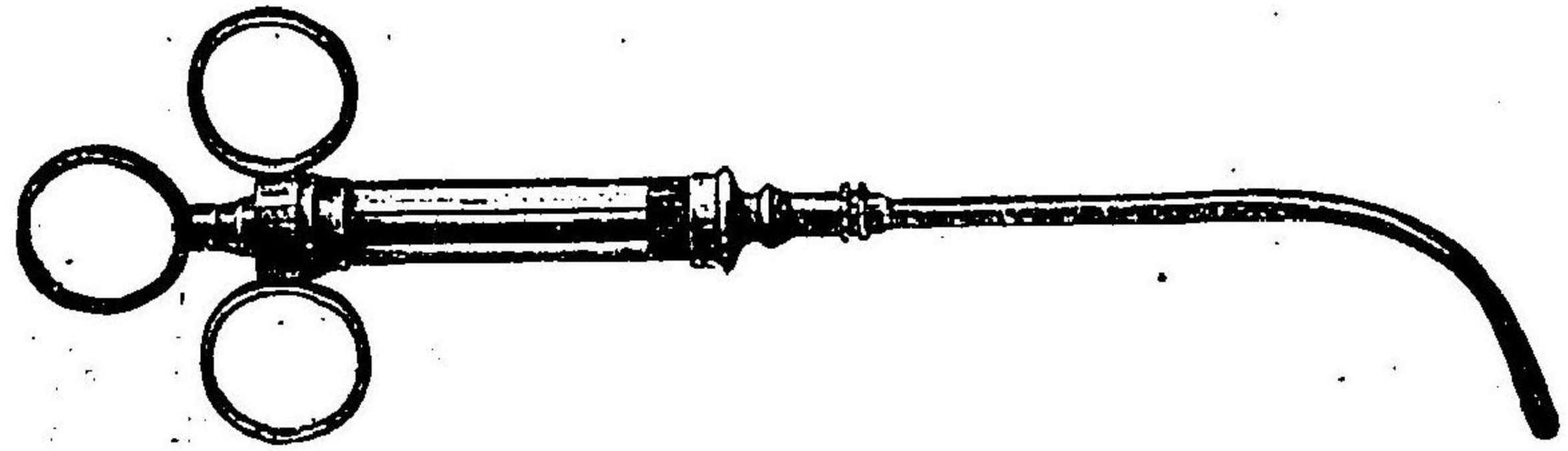


圖 八 十 七 百 第

器 粉 吹 氏 シ イ タ ス ト ッ プ 及 ケ ス ル ー ビ カ

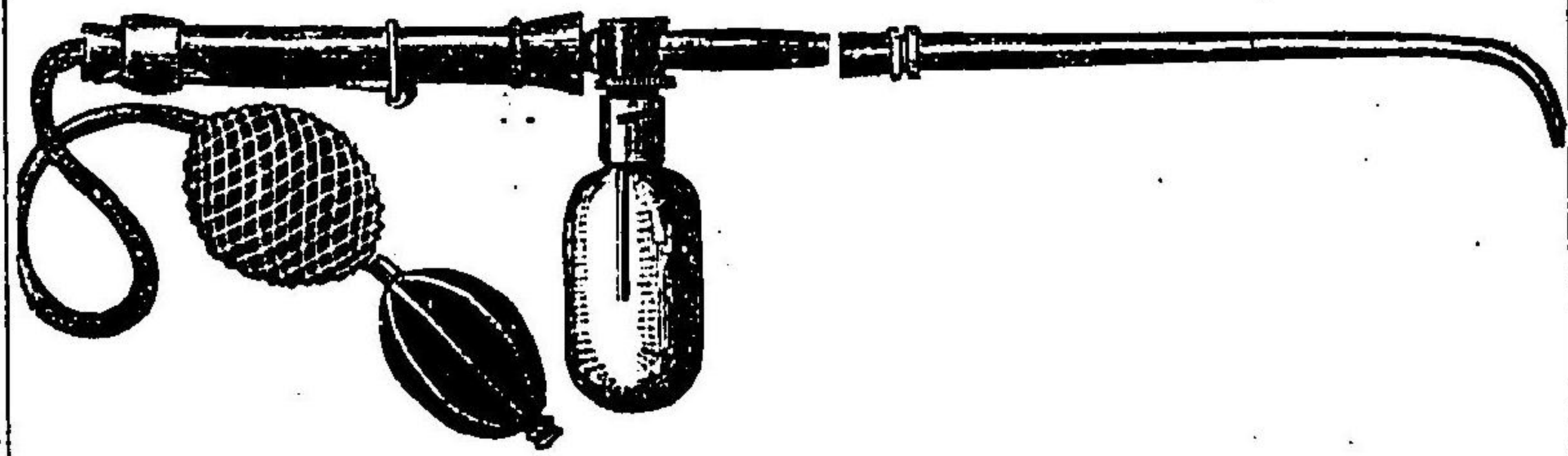
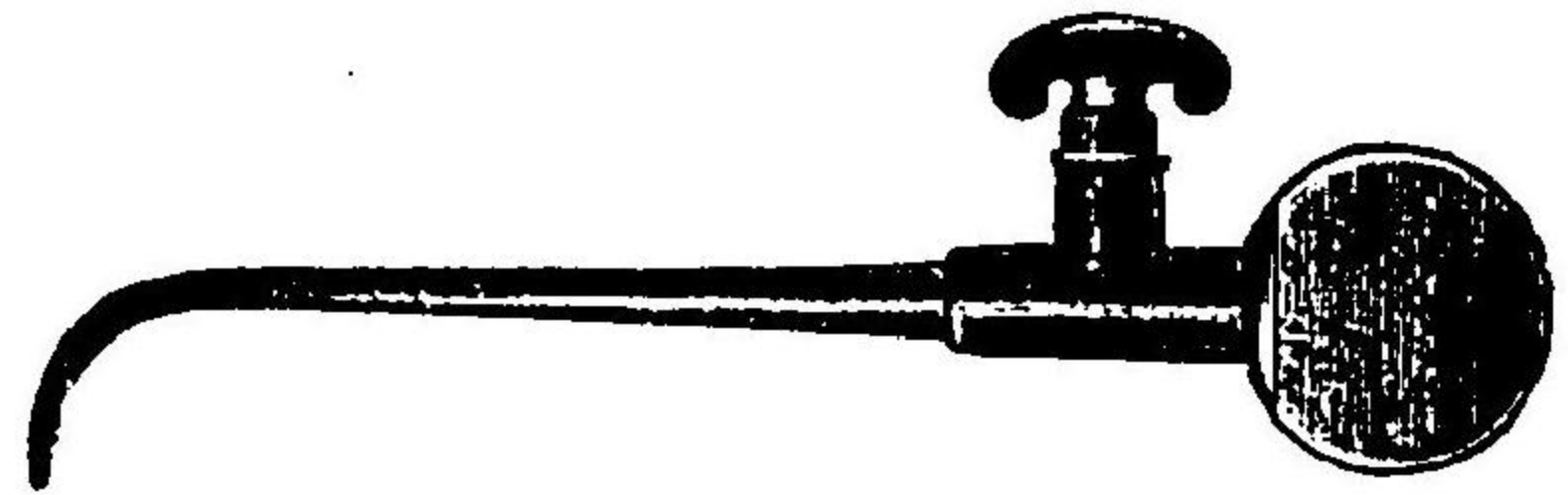


圖 九 十 七 百 第

器 粉 吹 頭 喉 氏 レ ケ ン レ フ





ザルベカラズ

一般ニ藥液注入ニハ先ヅ稀薄ノモノヨリ漸次濃厚ノモノニ移スベシ殊ニ硝酸銀ニ於テ然リ

藥粉吹撒法 亦喉頭鏡看視ノ下ニ第百七十八及ビ第百七十九圖ニ示スガ如キ吹粉器ヲ以テ適當ノ部位ニ撒布スルヲ要ス

處方例

百九、*アツオヨドル* 亞鉛 一〇—二〇

乳糖(若クハ滑石) 一〇〇

右混和一日一回宛約小豆大量ヲ發聲時ニ吹撒ス

百十、明礬

等分ノモノ

右混和爲吹撒料一日一回吹撒

百十一、硝酸銀

滑石

右混和爲吹撒料

〇〇五—〇二

一〇〇

百十二、單寧

澱粉

右混和爲吹撒料一日一回吹撒

等分ノモノ

其他加答兒性潰瘍面ニシテ治シ難キモノニハ一週毎ニ一回硝酸銀實質ヲ以テ腐蝕シ又結節性聲帶炎ノ如キハ格魯謨酸腐蝕法若クハ電氣燒灼法ヲ行ヒ或ハ喉内觀血的療法ヲ應用スベシ

喉頭厚皮病

腐蝕法 腐蝕變ヲ一局部ニ應用スルニハ腐蝕藥保持器ヲ用フ其法先ヅ金屬製桿ノ先端ヲ熱灼シ之ニ藥品ヲ附着融解セシメ其冷却スルヲ待テ喉頭鏡下ニ使用スルニ在リ  
筋麻痺ニ向テハ電氣療法ヲ施スベシ

喉頭厚皮症 Pachydermia laryngis

本病ハ喉頭粘膜ノ上皮増殖及ビ表層角變ト結締織増殖ヲ來スモノトス  
原因 慢性喉頭加答兒ニ於ケルガ如シ殊ニ過度ノ發聲喫煙及ビ飲酒ノ濫用塵埃中ノ勞働等ニ基因ス從テ教師俳優諸人石工煙草職工鍛冶工等ニ多シ

又結核梅毒等ニ併發ス此ノ如キヲ續發性厚皮症或ハ症候的厚皮症 *secundäre Pachydermie s. symptomatische P.* ト云ヒ之ニ對シテ單純慢性炎ニ基因スルモノヲ特發性或ハ單純性厚皮症 *idiopathische or. einfache Pachydermie* ト稱ス本病ハ比較的男子ニ多ク且ツ二十歳乃至四十歳ニ最モ多シ



症候及解剖的變化

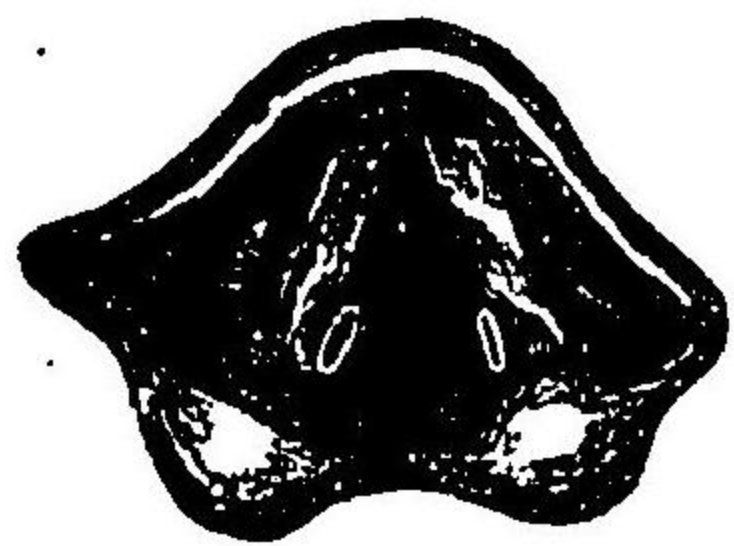
喉頭厚皮症ヲ分チテ二種トス甲ハ限局性疣狀隆起ヲ呈スルモノニシテ之ヲ疣贅性厚皮症 *Pschydermia verrucosa (Verrucae)* ト云ヒ乙ハ瀰蔓性症ニシテ之ヲ汎發性厚皮症 *P. diffusa* ト云フ而シテ通常バヒデルミート稱スルハ甲ニ屬スルモノ即チ隆起狀ヲ呈スルモノナリ

疣贅性厚皮症ハ管テ乳嘴腫ナル名稱ノ下ニ記載セラレタルモノニシテ多クハ聲帶(聲帶突起部)喉頭後壁(披裂間部)ニ好發シ稀ニ聲帶前連合部及ヒ會厭軟骨ニ來ル

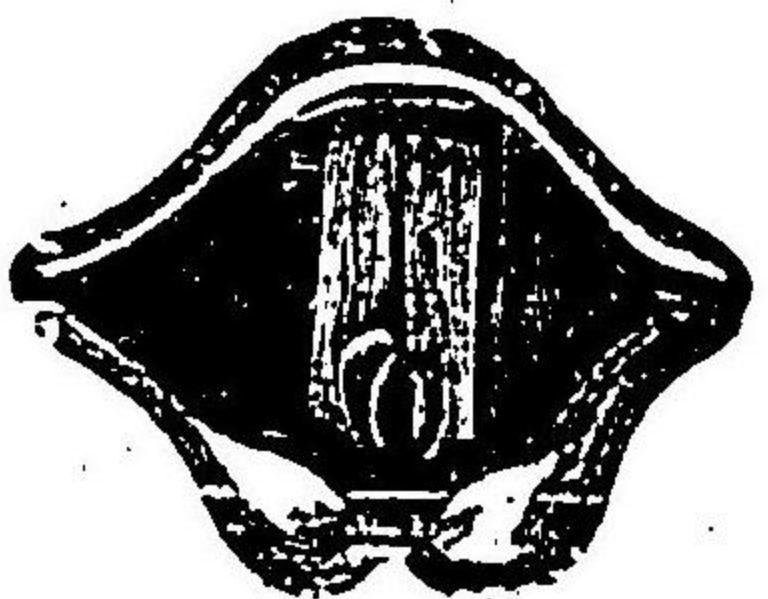
其聲帶突起部ニ發スルモノハ概シテ蒼白或ハ淡紅色平滑ナル小腫起ヲ

呈シ右左相對性ニシテ通常其偏側内面ニ一小皿狀窩ヲ有シ他側ノ凸面ト相接合ス稀ニ潰瘍形成ヲ見ル

第百八十八圖 聲帶厚皮症



第百八十一圖 聲帶厚皮症



該皿狀窩ノ形成ニ關シテ種々ノ議論アリウイルヒョー氏ハ該部粘膜ノ軟骨ニ附着スルコト緊密ナルニ因ルモノナリト謂ヒレチー氏ハ之ニ反シテ對側磨耗ノ續發作用ナリト云ヒクットネル氏ノ如キハ其中庸ヲ取リテ原因ヲ兩者ニ歸スベキモノナリト云ヘリ  
披裂間部ニ來ルモノハ大小種々ナル黃白或ハ灰白色ノ不正隆起トナリテ現ハレ屢襞狀或ハ鋸齒狀ヲ呈ス而シテ此部ニ往々輝裂ヲ生ジ出血スルコトアリ  
組織學的検査上粘膜上皮ハ著シク増殖ス其表層ハ角變シ無核或ハ核不明ナル磚狀細胞トナリ且ツ角化上皮層ト上皮ノ最下位ヲ占ムル圓柱細胞層トノ中間ニハ大ナル核ヲ有シ星芒狀或ハ棘狀突起ヲ發セル多稜形細胞ヲ有ス之ヲ要スルニ外皮樣變性アルヲ見ル此ノ如ク上皮ノ變化アルノミナラズ結締織モ亦増殖シ加之乳嘴ノ發現著明ナリ殊ニ正規的既ニ乳嘴ヲ有セル聲帶突起部ニ於テ最モ著シ然レドモ上皮ト結締織トノ間ニハ判然ナル限界ヲ有ス故ニ一見癌腫ト類似ノ觀ヲ呈スルコトアル



モ深く注意スレバ誤認スルコトナシ  
 「バヒデルミー」ハ觸診上通常硬固ナリトス  
 自覺症トシテ多少ノ聲嘶、嘔、嚥下困難、及ビ呼吸困難、アリ且ツ喉内異樣感、アリ聲咳、咳嗽、及ビ咯痰ヲ有ス  
 疣狀贅生物ノ存在スルニ拘ラズ聲音ノ比較的變化セザルハ一側ノ凸面對側ノ凹窩ニ恰適嵌入シ爲ニ兩聲帶間ニ隙ヲ生ゼザルニ因ル聲音明朗ナルモノモ談話稍久シキニ亘レバ容易ニ疲勞シ且ツ嘔變スルニ至ル疣贅廣大ナルモノ又ハ披裂間部ノ厚皮症ニシテ發聲時聲門ニ嵌在シテ完全ナル閉鎖ヲ營ミ難キ場合ニ於テハ高度ノ嘔聲ヲ來シ甚シキハ全ク失聲スルコトアリ  
 嚥下痛、軟骨膜炎ヲ繼發スル場合ニ於テ劇甚ナルモ通常唯僅ニ存スルノミ此ハ厚皮部ノ壓迫ニ因ルモノニシテ多少ノ嚥下困難ヲ發スルコトアリ  
 呼吸困難ハ病變ノ廣袤ニ依リ時トシテ高度ナルコトアリ然レドモ多ク

ハ顯著ナラズ

經過 極メテ緩慢ナリ

診斷 喉頭鏡検査上、固有ノ變化即チ通常兩側聲帶突起部ノ小隆起又ハ後壁披裂間部ノ不正鋸齒狀灰白色ニシテ治療ニ對シ頑固ナル贅生物ヲ見レバ先ヅ本症ヲ想起スベシ疑ハシキモノハ試驗的切除ヲ行ヒ組織學的研索ヲ行フベシ

豫後 原發性ノモノハ良續發性ノモノハ原病ノ性質ニ關ス

療法 發聲ヲ禁ズ或ハ可及的之ヲ制限シ沃度加里ノ内服ヲ持續スレバ漸次縮小時トシテハ消失シ聲帶運動復舊スルコトアリ

局所療法トシテハ硝酸銀ノ應用最モ有効ナルガ如シ或ハ三―一〇％溶液ヲ以テシ或ハ硝酸銀實質ヲ應用ス其他沃度、侃里、設林液、〇・五―五・〇％苛性加里液、五〇％乳酸液等ノ塗布ヲ行ヒ生理的食鹽液又ハ二％醋酸礬土溶液ノ吸入等ヲ試ムベシ

此等ノ藥物的療法ニシテ奏効セザルトキハ鉗子、キュレット等ヲ以テ病



變部ヲ切除シ又ハ電氣燒灼法ヲ行フベシ  
症候的厚皮症ニハ其原病ニ對スル療法ヲ要ス

モルガンニ  
氏寶鬚脫症

モルガンニ―氏寶鬚脫症 Prolapsus ventriculi Morgagni.

本病ハモルガンニ―氏寶鬚粘膜ノ單純ナル翻轉乃至脫出症ニ非ズシテ炎  
症ノ結果該部ノ粘膜増殖シ寶腔消失スルノミナラズ肥厚セル粘膜喉頭  
内ニ突隆スルモノナルコトハフレンケル氏ニヨリテ確然證明セラレタ  
リ即チ本症ハ慢性増殖性寶腔炎 Laryngitis chronica ventricularis hyperplastica ト名  
ヅクルヲ以テ正當トス

**原因** 慢性喉頭加答兒ニ續發スルモノ多シ其他結核及ビ梅毒ニ因スル  
コトアリ又展ハビデルミ―ニ併發ス

**症候** 通常慢性喉頭加答兒ニ於ケルガ如ク聲音嘶啞咳嗽及ビ咯痰等ア  
リ其高度ナルモノハ喉頭狹窄症狀ヲ發ス  
喉頭鏡検査上一側或ハ兩側モルガンニ―氏寶鬚入口部ニ廣基性腫瘍狀物

アリ粘膜ハ蒼白或ハ濃紅或ハ灰白色ヲ呈シ表面通常平滑ニシテ聲帶ヲ  
掩蔽ス硬度ハ彈力性軟ニシテ消息子ヲ以テ側方ニ壓縮スルヲ得ルモ眞  
ニ寶内ニ還納シ得ルモノハ少シ

其兩側ニ存スルモノハ左右相互接觸シ發聲時聲門ノ閉鎖ヲ妨グ此ノ如  
キハ高度ノ嘔聲及ビ呼吸困難ヲ來ス

**診斷** 容易ナリ

**豫後** 原因ニ依リ一様ナラズ

**療法** 輕度ノモノハ嚴ニ聲音ノ攝生ヲ守ラシメ鎮咳劑ヲ與ヘ且ツ硝酸  
銀○格魯兒亞○鉛○液○等○ノ○塗○布○若クハ喉内注入ヲ行ヒ兼テ吸入ヲ命ズ  
高度ノモノハ電氣燒灼法或ハ亂刺法ヲ行ヒ若クハフレンケル氏喉頭鉗  
子ヲ以テ切除スベシ

慢性聲帶下  
喉炎

慢性聲帶下喉頭炎 Laryngitis hypoglottica chronica.

本病ハ聲帶下面及ビ聲帶下腔ノ慢性肥厚性炎ニシテ病變主トシテ粘膜